

---

---

## <第3章 調査の集計結果>

---

---

---

---

---

---

## 第3章 調査の集計結果

### 1. 防災・減災対策について

#### (1) 防災・減災対策の重要度について

問1 あなたは、防災・減災対策が重要だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

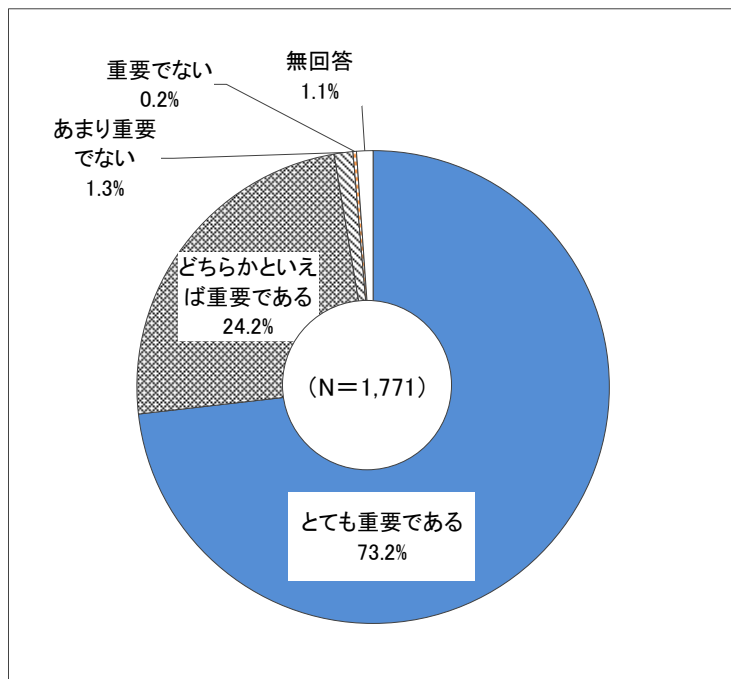
【回答者数=1,771】

1 とても重要である	73.2%(73.2%)
2 どちらかといえば重要である	24.2%(24.1%)
3 あまり重要でない	1.3%(1.3%)
4 重要でない	0.2%(0.2%)
(無回答)	1.1%(1.2%)

防災・減災対策の重要度について、「とても重要である」73.2%が最も高く、次いで「どちらかといえば重要である」24.2%、「あまり重要でない」1.3%、「重要でない」0.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「とても重要である」73.2%が最も高く、次いで「どちらかといえば重要である」24.1%、「あまり重要でない」1.3%、「重要でない」0.2%となっている。

図表 1-(1)-1 防災・減災対策の重要度について



防災・減災対策の重要度について、性別にみると、「とても重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』96.9%、『女性』97.9%と、いずれも9割を超えている。

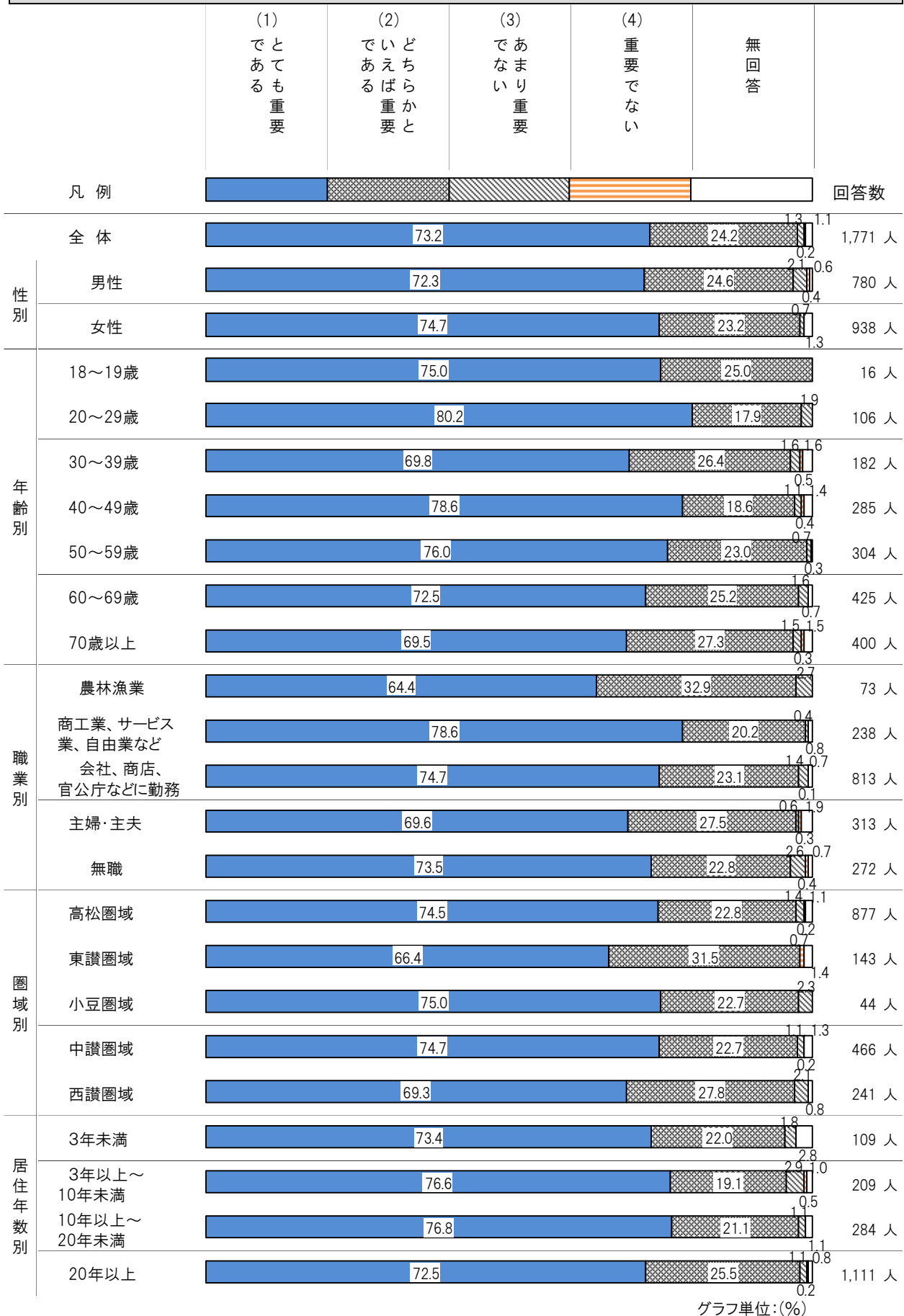
年齢別にみると、【重要である】の割合はいずれも9割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合はいずれも9割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において98.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合はいずれも9割を超え、『東讃圏域』において97.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合はいずれも9割を超え、『20年以上』において98.0%と最も高くなっている。

図表 1-(1)-2 【防災・減災対策の重要度について】



(2) 防災・減災対策が重要だと思ふ理由について

【問1で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問1 防災・減災対策が重要だと思ふ理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,724】※回答数の多い順に並び替え

1 自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である	88.3%(87.8%)
2 近年、大規模災害が多発している	80.5%(79.7%)
3 日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る	76.3%(76.0%)
4 防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある	8.6%(9.4%)
5 過去に災害を体験したことがある	7.9%(7.9%)
6 自分の職業と密接に関係している	5.9%(6.2%)
7 その他（具体的に：_____）	2.4%(2.4%)
（無回答）	0.1%(0.1%)

防災・減災対策が重要だと思ふ理由について、「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」88.3%が最も高く、次いで「近年、大規模災害が多発している」80.5%、「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」76.3%、「防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある」8.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」87.8%が最も高く、次いで「近年、大規模災害が多発している」79.7%、「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」76.0%、「防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある」9.4%などとなっている。

図表 1-(2)-1 防災・減災対策が重要だと思ふ理由について

	割合	回答数
全体	100.0	1,724 人
(1) 自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である	88.3	1,522 人
(2) 近年、大規模災害が多発している	80.5	1,388 人
(3) 日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る	76.3	1,316 人
(4) 防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある	8.6	149 人
(5) 過去に災害を体験したことがある	7.9	136 人
(6) 自分の職業と密接に関係している	5.9	101 人
(7) その他	2.4	41 人
無回答	0.1	1 人

グラフ単位：(%)

防災・減災対策が重要だと思う理由について、性別にみると、男女とも「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が最も高く、『男性』87.8%、『女性』88.7%で、これに男女とも「近年、大規模災害が多発している」が『男性』77.1%、『女性』83.9%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が8～9割台と最も高く、『40～49歳』では91.3%と最も高くなっている。『18～19歳』では「近年、大規模災害が多発している」が81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が8割を超えて最も高く、『主婦・主夫』では89.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が8～9割台と最も高く、『西讃圏域』では90.2%と最も高くなっている。『小豆圏域』では「日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る」が83.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である」が8～9割台と最も高く、『3年未満』では92.3%と最も高くなっている。

図表 1-(2)-2 【防災・減災対策が重要だと思う理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		全体（人）	自分や家族の生命・財産に直接関わる問題である	近年、大規模災害が多発している	日頃から災害に対しての備えをしておかないと、いざという時に困る	防災教育の場などで災害対策の重要性を教えられたことがある	過去に災害を体験したことがある	自分の職業と密接に関係している	その他	
【表の見方】 単位＝比率(%)										
全体		1,724	88.3	80.5	76.3	8.6	7.9	5.9	2.4	0.1
性別	男性	756	87.8	77.1	73.7	8.2	9.4	7.9	3.2	0.1
	女性	919	88.7	83.9	78.6	8.8	6.5	4.2	1.5	-
年齢別	18～19歳	16	68.8	81.3	75.0	12.5	-	-	6.3	-
	20～29歳	104	88.5	64.4	68.3	20.2	6.7	16.3	2.9	-
	30～39歳	175	90.3	72.0	78.9	6.9	5.1	10.3	0.6	-
	40～49歳	277	91.3	83.0	74.4	4.3	7.9	7.6	1.4	-
	50～59歳	301	87.7	81.1	77.1	7.6	6.6	6.3	3.0	-
	60～69歳	415	89.2	83.9	77.1	7.0	7.7	3.6	2.4	0.2
	70歳以上	387	85.5	84.2	77.5	11.4	10.6	2.3	2.6	-
職業別	農林漁業	71	85.9	78.9	76.1	12.7	9.9	4.2	4.2	-
	商工業、サービス業、自由業など	235	88.5	78.7	77.9	8.5	8.9	7.7	3.0	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	795	88.9	79.5	75.8	7.8	6.0	9.3	1.8	-
	主婦・主夫	304	89.1	85.9	79.3	9.2	7.9	0.7	1.6	-
	無職	262	85.9	82.4	72.9	8.0	11.8	0.8	3.4	0.4
圏域別	高松圏域	853	88.0	79.7	75.4	9.1	8.9	5.9	2.1	-
	東讃圏域	140	83.6	79.3	74.3	7.1	6.4	7.9	4.3	-
	小豆圏域	43	79.1	74.4	83.7	2.3	27.9	4.7	2.3	-
	中讃圏域	454	90.1	83.0	78.4	7.7	5.3	5.5	2.4	0.2
	西讃圏域	234	90.2	80.3	75.6	10.7	6.4	5.6	2.1	-
居住年数別	3年未満	104	92.3	74.0	76.9	7.7	2.9	12.5	1.0	-
	3年以上～10年未満	200	90.0	76.5	75.5	7.0	9.5	8.5	0.5	-
	10年以上～20年未満	278	88.5	82.4	78.4	6.8	7.6	5.8	4.0	-
	20年以上	1,088	87.5	82.0	75.9	9.4	8.1	4.7	2.3	0.1



**(3)防災・減災対策が重要でないと思う理由について**

【問1で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問2 防災・減災対策が重要でないと思う理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=27】※回答数の多い順に並び替え

- |   |                                 |              |
|---|---------------------------------|--------------|
| 1 | 災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う | 63.0%(66.7%) |
| 2 | 防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある         | 51.9%(51.9%) |
| 3 | 香川県では大規模災害が起こることはないと思う          | 40.7%(40.7%) |
| 4 | 事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある | 7.4%(7.4%)   |
| 5 | 自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない     | 7.4%(7.4%)   |
| 6 | 自分の職業との関わりがあまりない                | 0.0%(0.0%)   |
| 7 | その他（具体的に：_____）                 | 22.2%(25.9%) |
|   | （無回答）                           | 3.7%(3.7%)   |

防災・減災対策が重要でないと思う理由について、「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」63.0%が最も高く、次いで「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」51.9%、「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」40.7%、「事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある」、「自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない」7.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」66.7%が最も高く、次いで「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」51.9%、「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」40.7%、「事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある」、「自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない」7.4%などとなっている。

**図表 1-(3)-1 防災・減災対策が重要でないと思う理由について**

		回答数
全体	100.0	27 人
(1) 災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う	63.0	17 人
(2) 防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある	51.9	14 人
(3) 香川県では大規模災害が起こることはないと思う	40.7	11 人
(4) 事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある	7.4	2 人
(5) 自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない	7.4	2 人
(6) 自分の職業との関わりがあまりない	0.0	0 人
(7) その他	22.2	6 人
無回答	3.7	1 人

グラフ単位:(%)

防災・減災対策が重要でないと思う理由について、性別にみると、『男性』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」68.4%が最も高く、これに「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」52.6%と続いている。『女性』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」、「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」57.1%が同率で最も高くなっている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『60～69歳』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」が最も高くなっている。『30～39歳』、『70歳以上』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」、「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」が同率で最も高くなっている。『40～49歳』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」、「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」50.0%が同率で最も高くなっている。『50～59歳』では「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」100.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」が最も高くなっている。『農林漁業』では「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」、「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」が同率で最も高くなっている。『無職』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」、「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」が同率で最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」が最も高くなっている。『東讃圏域』では「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」、『中讃圏域』では「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」が最も高くなっている。『3年未満』では「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」、「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」が同率で最も高くなっている。『3年以上～10年未満』では「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」が最も高くなっている。

図表 1-(3)-2 【防災・減災対策が重要でないと思う理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
		全体 (人)	災害はいつどこで発生するかわからないので、対策は不可能だと思う	ある防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他に	う香川県では大規模災害が起こることはないと思	事前の備えをしていなくても、自分や家族は大	行ったりしない	自分の職業との関わりがあまりない	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)										
全体		27	63.0	51.9	40.7	7.4	7.4	-	22.2	3.7
性別	男性	19	68.4	47.4	52.6	10.5	5.3	-	26.3	-
	女性	7	57.1	57.1	14.3	-	14.3	-	14.3	14.3
年齢別	18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	2	100.0	-	-	-	-	-	50.0	-
	30～39歳	4	50.0	50.0	25.0	-	-	-	-	25.0
	40～49歳	4	50.0	-	50.0	25.0	-	-	50.0	-
	50～59歳	2	50.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-
	60～69歳	7	71.4	57.1	42.9	-	14.3	-	14.3	-
	70歳以上	7	71.4	71.4	57.1	-	14.3	-	28.6	-
職業別	農林漁業	2	50.0	100.0	100.0	50.0	-	-	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	12	58.3	33.3	33.3	8.3	8.3	-	25.0	8.3
	主婦・主夫	3	100.0	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-
	無職	8	62.5	62.5	50.0	-	-	-	25.0	-
圏域別	高松圏域	14	64.3	50.0	42.9	7.1	7.1	-	21.4	7.1
	東讃圏域	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	小豆圏域	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	中讃圏域	6	50.0	50.0	66.7	16.7	16.7	-	16.7	-
	西讃圏域	5	80.0	60.0	20.0	-	-	-	40.0	-
居住年数別	3年未満	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0
	3年以上～10年未満	7	42.9	57.1	28.6	-	-	-	28.6	-
	10年以上～20年未満	3	100.0	-	33.3	-	33.3	-	33.3	-
	20年以上	14	71.4	57.1	57.1	14.3	7.1	-	21.4	-

(4)防災・減災対策の満足度について

問2 あなたは、防災・減災対策について満足されていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

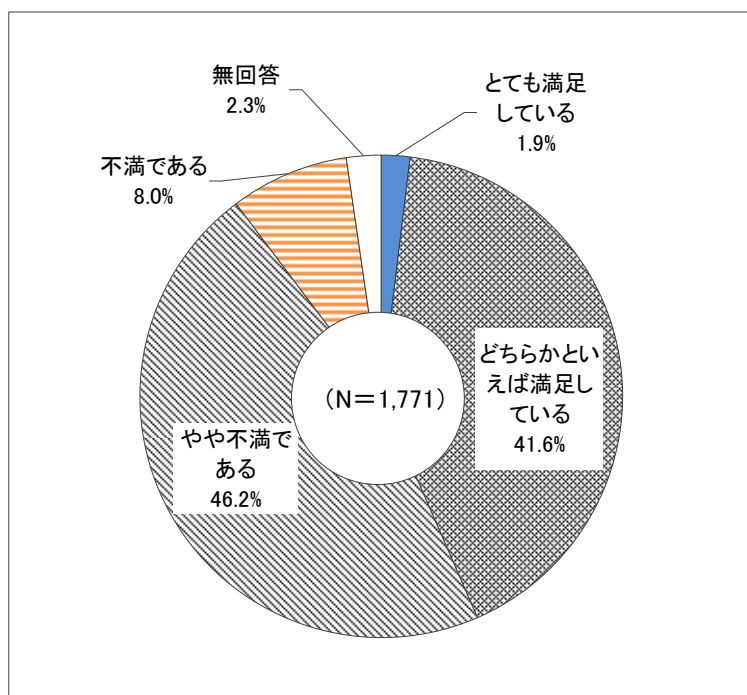
【回答者数=1,771】

1	とても満足している	1.9% ( 2.1%)
2	どちらかといえば満足している	41.6% (41.6%)
3	やや不満である	46.2% (46.0%)
4	不満である	8.0% ( 8.0%)
	(無回答)	2.3% ( 2.4%)

防災・減災対策の満足度について、「やや不満である」46.2%が最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」41.6%、「不満である」8.0%、「とても満足している」1.9%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「やや不満である」46.0%が最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」41.6%、「不満である」8.0%、「とても満足している」2.1%となっている。

図表 1-(4)-1 防災・減災対策の満足度について



防災・減災対策の満足度について、性別にみると、「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』51.4%、『女性』56.7%と、いずれも5割を超えている。

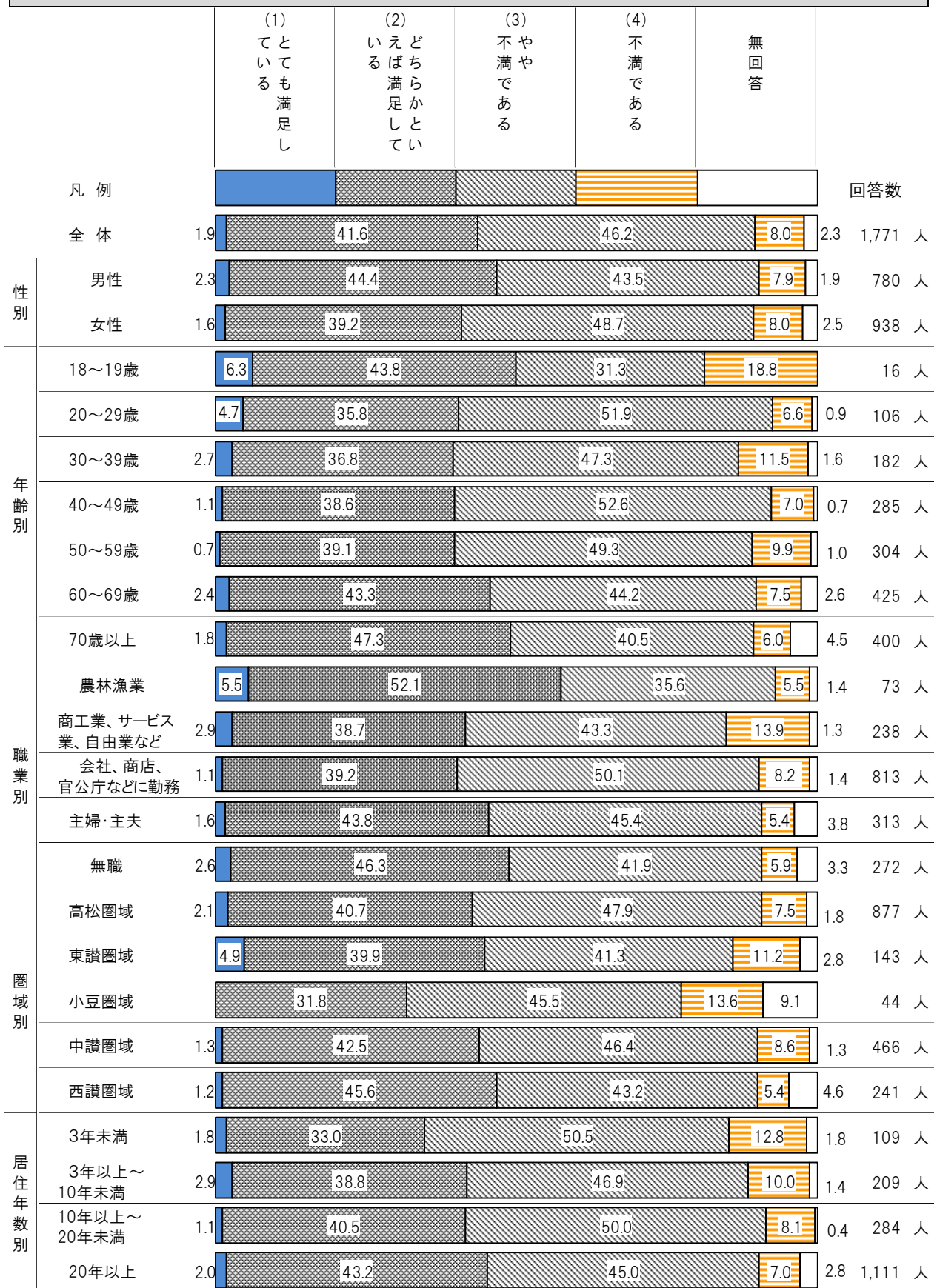
年齢別にみると、【不満である】の割合は、『18～19歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で5割を超え、『70歳以上』では「とても満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた【満足している】の割合が49.1%で、【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、【不満である】の割合は『農林漁業』、『無職』を除くすべての職業で5割を超え、『農林漁業』、『無職』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【不満である】の割合は『西讃圏域』を除くすべての圏域で5割を超え、『小豆圏域』では59.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【不満である】の割合はいずれも5割を超え、『3年未満』では63.3%と最も高くなっている。

図表 1-(4)-2 【防災・減災対策の満足度について】



グラフ単位：(%)



(5) 満足している防災・減災対策の取り組みについて

【問2で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問3 あなたが満足されているのは、防災・減災対策のうち、どのような取り組みでしょうか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=770】※回答数の多い順に並び替え

1 自分や家族で取り組む対策 (自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)	51.8%(53.6%)
2 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	46.4%(45.3%)
3 地域や会社などで取り組む対策 (近所や職域で共に助け合うための取り組み)	44.0%(43.5%)
4 その他	1.6%( 1.4%)
(無回答)	1.8%( 1.9%)

満足している防災・減災対策の取り組みについて、「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」51.8%が最も高く、次いで「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」46.4%、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」44.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」53.6%が最も高く、次いで「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」45.3%、「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」43.5%などとなっている。

図表 1-(5)-1 満足している防災・減災対策の取り組みについて

		回答数
全体	100.0	770 人
(1) 自分や家族で取り組む対策(自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)	51.8	399 人
(2) 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	46.4	357 人
(3) 地域や会社などで取り組む対策(近所や職域で共に助け合うための取り組み)	44.0	339 人
(4) その他	1.6	12 人
無回答	1.8	14 人

グラフ単位:(%)

満足している防災・減災対策の取り組みについて、性別にみると、『男性』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」、「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」49.2%が同率で最も高く、これに「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」44.5%と続いている。『女性』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」54.3%が最も高く、これに「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」44.1%と続いている。

年齢別にみると、『50～59歳』、『60～69歳』を除くすべての年齢で「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が5～6割台と最も高く、『50～59歳』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」49.6%が最も高く、『60～69歳』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」49.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』を除くすべての職業で「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が4～5割台と最も高く、『農林漁業』、『無職』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が4～5割台と最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』を除くすべての居住年数で「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が5～6割と最も高く、『10年以上～20年未満』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」51.7%が最も高くなっている。



図表 1-(5)-2 【満足している防災・減災対策の取り組みについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)		
		全体 (人)	を自分や家族で守るための取り組み(自分の生命・財産)	県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	地域や会社などで取り組む対策(近所や職域で)	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)							
全体		770	51.8	46.4	44.0	1.6	1.8
性別	男性	364	49.2	49.2	44.5	1.1	1.4
	女性	383	54.3	43.6	44.1	2.1	2.3
年齢別	18～19歳	8	50.0	25.0	25.0	-	12.5
	20～29歳	43	65.1	25.6	37.2	-	2.3
	30～39歳	72	62.5	31.9	34.7	1.4	-
	40～49歳	113	50.4	49.6	38.1	1.8	1.8
	50～59歳	121	42.1	48.8	49.6	2.5	1.7
	60～69歳	194	46.4	49.0	45.4	1.5	2.1
	70歳以上	196	57.1	51.0	49.5	1.5	2.0
職業別	農林漁業	42	50.0	59.5	54.8	4.8	2.4
	商工業、サービス業、自由業など	99	54.5	38.4	42.4	1.0	3.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	328	49.1	44.2	47.3	1.2	1.2
	主婦・主夫	142	58.5	48.6	41.5	2.1	2.8
	無職	133	49.6	51.9	37.6	0.8	1.5
圏域別	高松圏域	375	53.3	47.2	42.4	1.9	1.6
	東讃圏域	64	51.6	42.2	53.1	-	1.6
	小豆圏域	14	28.6	42.9	64.3	-	7.1
	中讃圏域	204	52.0	45.1	40.2	2.0	2.0
	西讃圏域	113	49.6	48.7	48.7	0.9	1.8
居住年数別	3年未満	38	65.8	28.9	34.2	-	2.6
	3年以上～10年未満	87	56.3	44.8	31.0	-	5.7
	10年以上～20年未満	118	47.5	51.7	47.5	0.8	-
	20年以上	502	51.2	46.8	46.6	2.0	1.6

**(6) 不満に思っている防災・減災対策の取り組みについて**

【問2で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問4 あなたが不満に思っているのは、防災・減災対策のうち、どのような取り組みでしょうか。次の中からあてはまるものをすべて選び、それに伴う付問5、6、7についても、ご回答ください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=960】※回答数の多い順に並び替え

1 自分や家族で取り組む対策 (自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)	59.6%(60.0%)
2 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	59.2%(58.1%)
3 地域や会社などで取り組む対策 (近所や職域で共に助け合うための取り組み)	49.5%(49.3%)
4 その他(具体的に: _____) (無回答)	3.6%(3.5%) 0.7%(0.7%)

不満に思っている防災・減災対策の取り組みについて、「自分や家族で取り組む対策(自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)」59.6%が最も高く、次いで「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」59.2%、「地域や会社などで取り組む対策(近所や職域で共に助け合うための取り組み)」49.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分や家族で取り組む対策(自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)」60.0%が最も高く、次いで「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」58.1%、「地域や会社などで取り組む対策(近所や職域で共に助け合うための取り組み)」49.3%などとなっている。

**図表 1-(6)-1 不満に思っている防災・減災対策の取り組みについて**

		回答数
全体	100.0	960 人
(1) 自分や家族で取り組む対策(自分の生命・財産を自分で守るための取り組み)	59.6	572 人
(2) 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	59.2	568 人
(3) 地域や会社などで取り組む対策(近所や職域で共に助け合うための取り組み)	49.5	475 人
(4) その他	3.6	35 人
無回答	0.7	7 人

グラフ単位:(%)

不満に思っている防災・減災対策の取り組みについて、性別にみると、『男性』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」61.8%が最も高く、『女性』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」67.7%が最も高くなっている。これに男性では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」50.4%、『女性』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」56.6%と続いている。

年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が6～7割台と最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が『60～69歳』で66.8%、『70歳以上』で65.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が5～7割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」、「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が同率で最も高くなっており、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」62.2%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が5～6割台と最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」が6～7割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」が5～7割台と最も高く、『20年以上』では「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」62.6%が最も高くなっている。

図表 1-(6)-2 【不満に思っている防災・減災対策の取り組みについて】

		全体 (人)	(1) を自分や家族で 守るための組み 取り対策(自分 の生命・財産)	(2) 県や市町で取 り組んでいる防 災・減災対策	(3) 共域や会社な どで取り組み (近所や職域 で)	(4) その他	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)							
全体		960	59.6	59.2	49.5	3.6	0.7
性別	男性	401	50.4	61.8	45.1	6.0	1.0
	女性	532	67.7	56.6	53.0	1.7	0.4
年齢別	18～19歳	8	75.0	25.0	25.0	12.5	-
	20～29歳	62	66.1	53.2	48.4	1.6	-
	30～39歳	107	65.4	58.9	42.1	1.9	0.9
	40～49歳	170	67.1	50.6	49.4	3.5	-
	50～59歳	180	64.4	53.9	47.2	3.9	0.6
	60～69歳	220	52.7	66.8	49.5	4.5	0.5
	70歳以上	186	53.2	65.1	58.1	3.2	1.6
職業別	農林漁業	30	56.7	70.0	66.7	3.3	-
	商工業、サービス業、自由業など	136	58.1	58.1	51.5	8.1	0.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	474	62.2	57.0	47.3	3.2	0.6
	主婦・主夫	159	59.7	63.5	50.9	1.3	0.6
	無職	130	56.2	56.9	50.0	3.1	0.8
圏域別	高松圏域	486	59.9	59.1	49.2	3.9	0.6
	東讃圏域	75	46.7	65.3	50.7	6.7	-
	小豆圏域	26	50.0	73.1	65.4	-	-
	中讃圏域	256	64.8	57.8	49.2	2.7	1.2
	西讃圏域	117	57.3	55.6	47.0	3.4	0.9
居住年数別	3年未満	69	65.2	52.2	50.7	4.3	1.4
	3年以上～10年未満	119	59.7	56.3	54.6	0.8	0.8
	10年以上～20年未満	165	70.9	50.3	48.5	2.4	-
	20年以上	578	56.6	62.6	48.8	4.3	0.7

(7) 自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について

【付問4で「1 自分や家族で取り組む対策」と答えた方にお聞きします】

付問5 あなたは、防災・減災に関してどのような取り組みをされていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=572】※回答数の多い順に並び替え

1 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	65.6%(66.1%)
2 食料や飲料水を備蓄している	40.0%(40.7%)
3 避難場所を決めている	37.9%(38.3%)
4 防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている	21.5%(20.3%)
5 自分の家の耐震性を確保している	19.8%(19.6%)
6 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	18.9%(19.2%)
7 消火器や消火用のバケツを準備している	17.1%(16.8%)
8 特に何もしていない	13.3%(13.5%)
9 家族や親類などと、非常時の連絡方法を決めている	13.1%(13.3%)
10 その他(具体的に： )	3.0%(3.0%)
(無回答)	0.5%(0.5%)

自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」65.6%が最も高く、次いで「食料や飲料水を備蓄している」40.0%、「避難場所を決めている」37.9%、「防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている」21.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」66.1%が最も高く、次いで「食料や飲料水を備蓄している」40.7%、「避難場所を決めている」38.3%、「防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている」20.3%などとなっている。

図表 1-(7)-1 自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	572 人
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	65.6	375 人
(2) 食料や飲料水を備蓄している	40.0	229 人
(3) 避難場所を決めている	37.9	217 人
(4) 防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている	21.5	123 人
(5) 自分の家の耐震性を確保している	19.8	113 人
(6) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	18.9	108 人
(7) 消火器や消火用のバケツを準備している	17.1	98 人
(8) 特に何もしていない	13.3	76 人
(9) 家族や親類などと、非常時の連絡方法を決めている	13.1	75 人
(10) その他	3.0	17 人
無回答	0.5	3 人

グラフ単位:(%)

自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について、性別にみると、男女とも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高く、『男性』65.8%、『女性』65.3%で、これに男女とも「食料や飲料水を備蓄している」が『男性』37.6%、『女性』42.2%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高くなっており、『18～19歳』では83.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高くなっており、『農林漁業』では88.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高くなっており、『高松圏域』では70.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が6割台と最も高く、『3年未満』では「食料や飲料水を備蓄している」46.7%が最も高くなっている。

図表 1-(7)-2 【自分や家族で取り組んでいる防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		全体（人）	携帯ラジオや懐中電灯を準備している	食料や飲料水を備蓄している	避難場所を決めている	防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている	自分の家の耐震性を確保している	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	消火器や消火用のバケツを準備している	特に何もしていない	家族や親類などと、非常時の連絡方法を決めて	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)													
全体		572	65.6	40.0	37.9	21.5	19.8	18.9	17.1	13.3	13.1	3.0	0.5
性別	男性	202	65.8	37.6	35.1	24.3	19.3	24.3	18.3	15.3	11.4	3.0	-
	女性	360	65.3	42.2	39.2	20.3	20.0	15.6	15.8	12.2	13.9	2.8	0.8
年齢別	18～19歳	6	83.3	33.3	50.0	-	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	-	-
	20～29歳	41	58.5	36.6	22.0	22.0	17.1	7.3	4.9	14.6	14.6	-	-
	30～39歳	70	57.1	40.0	25.7	17.1	25.7	21.4	5.7	17.1	8.6	2.9	-
	40～49歳	114	56.1	43.9	40.4	29.8	21.9	14.9	11.4	13.2	11.4	2.6	0.9
	50～59歳	116	64.7	33.6	35.3	28.4	22.4	20.7	17.2	14.7	18.1	0.9	-
	60～69歳	116	70.7	39.7	37.1	22.4	18.1	15.5	20.7	12.1	9.5	4.3	0.9
	70歳以上	99	78.8	48.5	52.5	8.1	13.1	26.3	30.3	10.1	15.2	5.1	1.0
職業別	農林漁業	17	88.2	58.8	41.2	17.6	17.6	23.5	58.8	11.8	35.3	17.6	-
	商工業、サービス業、自由業など	79	62.0	41.8	45.6	26.6	15.2	20.3	19.0	13.9	15.2	-	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	295	58.6	36.3	31.2	22.7	22.0	17.3	8.1	15.3	10.2	2.7	0.7
	主婦・主夫	95	81.1	47.4	53.7	22.1	18.9	15.8	31.6	6.3	17.9	4.2	-
	無職	73	71.2	42.5	34.2	13.7	17.8	24.7	17.8	13.7	11.0	1.4	1.4
圏域別	高松圏域	291	70.8	46.7	38.1	22.7	21.0	17.5	18.9	10.7	15.5	3.8	0.7
	東讃圏域	35	45.7	31.4	40.0	20.0	17.1	11.4	11.4	22.9	11.4	-	-
	小豆圏域	13	46.2	30.8	23.1	15.4	15.4	23.1	7.7	15.4	7.7	7.7	-
	中讃圏域	166	62.0	33.7	41.6	21.1	16.9	20.5	15.7	18.1	12.0	1.8	-
	西讃圏域	67	65.7	32.8	29.9	19.4	23.9	23.9	17.9	7.5	7.5	3.0	1.5
居住年数別	3年未満	45	42.2	46.7	15.6	26.7	31.1	8.9	11.1	17.8	13.3	-	-
	3年以上～10年未満	71	63.4	49.3	26.8	28.2	32.4	18.3	11.3	18.3	11.3	1.4	1.4
	10年以上～20年未満	117	65.0	44.4	42.7	24.8	21.4	17.9	15.4	10.3	15.4	3.4	-
	20年以上	327	69.4	36.4	41.6	18.7	15.0	20.5	19.3	12.8	12.2	3.4	0.6

**(8) 地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について**

【付問4で「2 地域や会社などで取り組む対策」と答えた方にお聞きします】

付問6 あなたは、防災・減災に関してどのような取り組みをされていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=475】 ※回答数の多い順に並び替え

1 特に何もしていない	43.6%(43.8%)
2 勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	26.1%(26.1%)
3 隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	16.2%(16.4%)
4 勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している	14.7%(14.8%)
5 新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	9.7%( 9.9%)
6 消防団や自主防災組織の活動に参加している	7.2%( 7.2%)
7 自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	5.7%( 5.8%)
8 防災士の資格を取得している	0.6%( 0.7%)
9 その他（具体的に：_____）	5.3%( 5.0%)
（無回答）	2.1%( 2.0%)

地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について、「特に何もしていない」43.6%が最も高く、次いで「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」26.1%、「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」16.2%、「勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している」14.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「特に何もしていない」43.8%が最も高く、次いで「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」26.1%、「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」16.4%、「勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している」14.8%などとなっている。



図表 1-(8)-1 地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	475 人
(1) 特に何もしていない	43.6	207 人
(2) 勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	26.1	124 人
(3) 隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	16.2	77 人
(4) 勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している	14.7	70 人
(5) 新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	9.7	46 人
(6) 消防団や自主防災組織の活動に参加している	7.2	34 人
(7) 自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	5.7	27 人
(8) 防災士の資格を取得している	0.6	3 人
(9) その他	5.3	25 人
無回答	2.1	10 人

グラフ単位:(%)

地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について、性別にみると、男女とも「特に何もしていない」が最も高く、『男性』38.1%、『女性』47.9%で、これに男女とも「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」が『男性』28.2%、『女性』25.5%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』を除くすべての年齢で「特に何もしていない」が最も高く、『18～19歳』では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」、「消防団や自主防災組織の活動に参加している」、「特に何もしていない」が同率で最も高くなっており、『20～29歳』では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」50.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』、『無職』では「特に何もしていない」が4～5割台と最も高く、『農林漁業』では「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」55.0%が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」42.4%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「特に何もしていない」が3～4割台と最も高く、『中讃圏域』では49.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「特に何もしていない」が4～5割台と最も高く、『3年未満』では54.3%と最も高くなっている。

図表 1-(8)-2 【地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	特に 何も してい ない	時勤 のめ たて めの 訓 練を 行っ てい る	時隣 に近 所 で、 高 齢者 や身 体を 把 握し てい る	場勤 など に 食 品 や 飲 料 水 を 備 蓄 し て い る	し新 、間 隣 近 所 や 職 場 な ど で 防 災 に 関 する 情 報 を 収 集	消防 団 や 自 主 防 災 組 織 の 活 動 に 参 加 し て い る	時自 分の 居 住 す る 地 域 や マ ン シ ョ ン な ど で 、 災 害	防 災 士 の 資 格 を 取 得 し て い る	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		475	43.6	26.1	16.2	14.7	9.7	7.2	5.7	0.6	5.3	2.1
性別	男性	181	38.1	28.2	17.7	17.1	14.9	9.4	5.5	1.1	6.1	1.7
	女性	282	47.9	25.5	14.2	13.5	6.4	4.6	5.0	-	4.6	2.5
年齢別	18～19歳	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-
	20～29歳	30	40.0	50.0	6.7	36.7	10.0	3.3	-	-	-	-
	30～39歳	45	53.3	31.1	2.2	17.8	11.1	2.2	2.2	-	-	6.7
	40～49歳	84	42.9	38.1	6.0	19.0	9.5	-	3.6	1.2	6.0	2.4
	50～59歳	85	42.4	31.8	8.2	22.4	9.4	5.9	4.7	-	4.7	1.2
	60～69歳	109	41.3	23.9	19.3	11.0	7.3	10.1	3.7	-	6.4	2.8
	70歳以上	108	46.3	7.4	33.3	2.8	12.0	10.2	11.1	0.9	7.4	0.9
職業別	農林漁業	20	25.0	20.0	55.0	10.0	5.0	30.0	5.0	5.0	20.0	-
	商工業、サービス業、自由業など	70	47.1	15.7	14.3	10.0	11.4	4.3	8.6	-	5.7	2.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	224	38.8	42.4	7.1	24.1	9.8	3.1	3.1	0.4	3.6	2.2
	主婦・主夫	81	54.3	7.4	22.2	4.9	8.6	6.2	7.4	-	6.2	2.5
	無職	65	50.8	10.8	24.6	3.1	10.8	13.8	6.2	-	3.1	1.5
圏域別	高松圏域	239	43.1	31.4	13.8	18.4	11.7	5.4	5.0	0.4	4.2	1.3
	東讃圏域	38	36.8	18.4	18.4	7.9	10.5	13.2	15.8	5.3	7.9	5.3
	小豆圏域	17	47.1	17.6	11.8	11.8	5.9	-	5.9	-	5.9	5.9
	中讃圏域	126	49.2	19.8	18.3	10.3	7.9	7.9	1.6	-	7.1	3.2
	西讃圏域	55	36.4	25.5	21.8	14.5	5.5	10.9	10.9	-	3.6	-
居住年数別	3年未満	35	54.3	31.4	-	20.0	8.6	-	-	-	5.7	5.7
	3年以上～10年未満	65	43.1	40.0	4.6	26.2	10.8	1.5	4.6	1.5	1.5	3.1
	10年以上～20年未満	80	47.5	35.0	7.5	21.3	2.5	5.0	3.8	-	3.8	1.3
	20年以上	282	42.2	20.6	22.0	9.9	11.3	8.9	6.4	0.4	6.4	1.8

(9) 不満に思っている県や市町の防災・減災対策について

【付問4で「3 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」と答えた方にお聞きします】

付問7 あなたは、現在、県や市町で取り組んでいる防災・減災対策のうち、どのような点について不満に思っていますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=568】※回答数の多い順に並び替え

1 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない	43.3%(41.7%)
2 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	25.5%(24.6%)
3 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	23.2%(23.1%)
4 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	23.1%(22.5%)
5 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	18.8%(18.3%)
6 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	18.0%(18.0%)
7 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	17.8%(16.7%)
8 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	15.5%(15.3%)
9 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	15.5%(15.0%)
10 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	9.7%( 9.7%)
11 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	6.5%( 6.3%)
12 その他（具体的に_____）	8.3%( 8.1%)
（無回答）	11.1%(11.1%)

不満に思っている県や市町の防災・減災対策について、「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」43.3%が最も高く、次いで「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」25.5%、「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」23.2%、「災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」23.1%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」41.7%が最も高く、次いで「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」24.6%、「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」23.1%、「災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」22.5%などとなっている。

図表 1-(9)-1 不満に思っている県や市町の防災・減災対策について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	568 人
(1) 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない	43.3	246 人
(2) 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	25.5	145 人
(3) 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	23.2	132 人
(4) 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	23.1	131 人
(5) 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	18.8	107 人
(6) 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	18.0	102 人
(7) 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	17.8	101 人
(8) 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	15.5	88 人
(9) 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	15.5	88 人
(10) 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	9.7	55 人
(11) 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	6.5	37 人
(12) その他	8.3	47 人
無回答	11.1	63 人

グラフ単位:(%)

不満に思っている県や市町の防災・減災対策について、性別にみると、男女とも「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高く、『男性』36.3%、『女性』49.8%で、これに『男性』は「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」26.2%、『女性』は「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」27.9%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が最も高く、『18～19歳』では100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が4割台と最も高く、『農林漁業』では「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」38.1%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が4割台と最も高く、『西讃圏域』では47.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」が4～5割台と最も高く、『3年未満』では52.8%と最も高くなっている。

図表 1-(9)-2 【不満に思っている県や市町の防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答	
		県や市町が知らない	命を守るための実践的な防災教育が十分でない	避難情報の提供が十分でない	避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも絶対安全であるとは言いきれない	保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなど	事前の準備が十分でない	避難所の指定や、ハザードマップの作成など、蓄積が十分でない	避難所における食料、飲料水、医薬品などの備	援が十分でない	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支	その他
【表の見方】 単位=比率(%)															
全体	全体(人)	568	43.3	25.5	23.2	23.1	18.8	18.0	17.8	15.5	15.5	9.7	6.5	8.3	11.1
性別	男性	248	36.3	24.2	26.2	21.8	20.2	16.5	22.2	17.3	16.9	10.5	4.8	11.7	10.5
	女性	301	49.8	27.9	20.9	24.9	18.6	19.9	14.6	14.0	14.0	9.0	7.3	5.3	10.6
年齢別	18~19歳	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20~29歳	33	39.4	24.2	27.3	24.2	12.1	30.3	9.1	12.1	12.1	9.1	6.1	3.0	15.2
	30~39歳	63	50.8	31.7	17.5	25.4	17.5	20.6	9.5	19.0	19.0	9.5	1.6	7.9	9.5
	40~49歳	86	39.5	25.6	18.6	22.1	14.0	19.8	22.1	16.3	22.1	5.8	3.5	9.3	9.3
	50~59歳	97	53.6	28.9	20.6	20.6	16.5	19.6	22.7	18.6	11.3	11.3	9.3	10.3	5.2
	60~69歳	147	46.3	26.5	23.8	25.9	21.8	15.6	19.0	11.6	16.3	8.2	6.1	6.1	12.2
	70歳以上	121	32.2	22.3	30.6	23.1	25.6	15.7	17.4	16.5	11.6	13.2	8.3	9.9	13.2
職業別	農林漁業	21	9.5	38.1	33.3	14.3	28.6	4.8	14.3	14.3	9.5	19.0	4.8	9.5	14.3
	商工業、サービス業、自由業など	79	40.5	15.2	17.7	15.2	16.5	16.5	15.2	21.5	10.1	10.1	5.1	7.6	16.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	270	46.3	29.6	22.6	23.0	17.4	22.6	18.1	14.8	17.0	9.6	4.8	8.9	8.5
	主婦・主夫	101	47.5	22.8	28.7	32.7	22.8	18.8	20.8	13.9	17.8	6.9	13.9	5.0	7.9
	無職	74	41.9	25.7	23.0	25.7	21.6	9.5	18.9	12.2	12.2	9.5	2.7	10.8	14.9
圏域別	高松圏域	287	41.8	25.4	25.1	26.8	18.8	17.8	17.4	16.0	15.0	8.4	5.9	9.4	11.1
	東讃圏域	49	42.9	16.3	24.5	10.2	16.3	12.2	20.4	14.3	22.4	20.4	10.2	8.2	14.3
	小豆圏域	19	47.4	10.5	26.3	26.3	31.6	10.5	21.1	10.5	31.6	10.5	5.3	5.3	5.3
	中讃圏域	148	43.9	29.1	19.6	19.6	18.2	23.0	16.2	18.2	12.2	8.8	5.4	6.1	10.1
	西讃圏域	65	47.7	29.2	21.5	23.1	18.5	13.8	20.0	9.2	15.4	9.2	9.2	9.2	12.3
居住年数別	3年未満	36	52.8	44.4	8.3	30.6	16.7	27.8	8.3	2.8	16.7	8.3	2.8	2.8	8.3
	3年以上~10年未満	67	46.3	17.9	23.9	32.8	14.9	14.9	22.4	14.9	14.9	6.0	7.5	7.5	11.9
	10年以上~20年未満	83	43.4	25.3	19.3	13.3	13.3	20.5	19.3	15.7	18.1	8.4	3.6	7.2	15.7
	20年以上	362	42.5	26.2	25.4	23.5	21.8	17.7	17.7	16.9	14.6	10.8	6.9	9.1	9.4

## (10) 不満に思っている県や市町の防災・減災対策への具体的な意見について

### 【付問7を答えた方にお聞きします】

付問8 回答された選択肢について、具体的な意見があれば選択肢番号と具体的な意見内容をそれぞれ記入してください。

258件中意見を抜粋

#### 「1. 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない」

- ・ハザードマップが見にくい。近くに避難場所が複数あり、どこに行けばよいか分からない。
- ・住宅の場所によっては、指定の避難場所は遠く、適切でない場合がある。
- ・避難所がむしろ危険な場所だと感じる。主に水害など。

#### 「2. 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」

- ・防災ラジオはあるが、高齢者はスイッチを切っている人がほとんど。外のスピーカー放送は反響して何を言っているか聞き取れない。
- ・連合自治会に入っていない住民は情報提供が十分ではないのでは。

#### 「3. 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない」

- ・工事を行っているが成果が分からない。
- ・近所の池は古くからあるが特に対策していない。いつ対策するのか不安。
- ・堤防や道路の劣化などチェックしてほしい。

#### 「4. 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない」

- ・避難所に水など常に備蓄しているのかなど具体的なことを知らせてほしい。災害時、水・食料などは避難所で配布するのかなど日頃から具体的なことを教えてほしい。
- ・日本の避難所のレベルは先進国の中でまちがいなくワースト1位だと思う。環境を整えてほしい。

#### 「5. 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない」

- ・耐震化の呼びかけは極めて少ない。補助が出ることすら知らない方が多い。
- ・支援があるのは知っているが、手続き等面倒で使いにくい。賃貸物件だと使いにくい。

#### 「6. 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない」

- ・自主防災組織や消防団の活動が、組織まかせで末端まで周知できていないと思われる。

#### 「7. 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」

- ・防災教育を受けたことがない。
- ・自治体が防災訓練等を定期的実施すべき。
- ・自治会、青年部など地域ごとの防災教育を指導できる人材を県・市町で育成してほしい。頭数がいればよいのではなく指導できるような人材を育成してほしい。

「8. 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない」

- ・自分で防災グッズを購入したが高額だった。支援金が出ればありがたい。
- ・企業と連携し、保存食のサンプル配布を行う。
- ・実物が難しいとしても、標準的な品揃え・品目の分かる情報提供がほしい。パンフ・小冊子。

「9. 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」

- ・防災無線が聞こえない。
- ・新しい団地等、自治組織がないところは情報・物資等の入手が困難であると感じるので不安に思っている。
- ・防災メール登録の有無にかかわらず、知る術があった方が安心。

「10. 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」

- ・市報等には書いているかもしれないが読まない。テレビなら目に入る機会も多い。
- ・それぞれの年齢層に合わせて、広告、SNS、新聞など目につきやすい場所での周知をしてほしい。
- ・自治体ごとに細かい周知の機会を設けてほしい。

「11. 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない」

- ・いつ、どこで予想しない災害が近年多いため、個々人の意識を高める教育が必要。

(11) 県や市町に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について

問3 今後、県や市町に特に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】 ※回答数の多い順に並び替え

1	支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	50.1%(50.3%)
2	食料、飲料水、医薬品などの備蓄	44.7%(45.8%)
3	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	39.1%(38.7%)
4	避難所での快適な生活環境づくり	38.7%(38.5%)
5	避難所やハザードマップなどの情報提供	17.3%(17.4%)
6	防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	15.9%(15.4%)
7	堤防のかさ上げなどのハード整備	14.5%(14.3%)
8	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	10.2%( 9.8%)
9	防災訓練の充実	9.5%( 9.5%)
10	災害に関する計画の充実	9.0%( 8.7%)
11	近県との広域応援体制の確立	6.9%( 6.6%)
12	ボランティア活動に対する支援体制づくり	6.4%( 6.3%)
13	その他（具体的に：_____）	3.2%( 3.2%)
14	特にない	0.7%( 0.8%)
	（無回答）	5.1%( 5.1%)

県や市町に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について、「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」50.1%が最も高く、次いで「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」44.7%、「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」39.1%、「避難所での快適な生活環境づくり」38.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」50.3%が最も高く、次いで「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」45.8%、「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」38.7%、「避難所での快適な生活環境づくり」38.5%などとなっている。



図表 1-(11)-1 県や市町に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	1,771 人
(1) 支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	50.1	887 人
(2) 食料、飲料水、医薬品などの備蓄	44.7	791 人
(3) 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	39.1	693 人
(4) 避難所での快適な生活環境づくり	38.7	686 人
(5) 避難所やハザードマップなどの情報提供	17.3	307 人
(6) 防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	15.9	281 人
(7) 堤防のかさ上げなどのハード整備	14.5	256 人
(8) 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	10.2	180 人
(9) 防災訓練の充実	9.5	169 人
(10) 災害に関する計画の充実	9.0	159 人
(11) 近県との広域応援体制の確立	6.9	122 人
(12) ボランティア活動に対する支援体制づくり	6.4	114 人
(13) その他	3.2	57 人
(14) 特にない	0.7	13 人
無回答	5.1	90 人

グラフ単位:(%)

県や市町に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について、性別にみると、男女とも「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が最も高く、『男性』46.7%、『女性』53.5%で、これに男女とも「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が『男性』43.2%、『女性』46.1%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』を除くすべての年齢で「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が4～6割台と最も高く、『18～19歳』、『20～29歳』では「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が4～5割台と最も高く、『農林漁業』では54.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が4～5割台と最も高く、『小豆圏域』では56.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」が4～5割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では51.7%と最も高くなっている。

図表 1-(11)-2 【県や市町に力を入れて取り組んでもらいたい防災・減災対策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)		
		全体 (人)	く支援物資が確実に避難所に届く体制づく	食料、飲料水、医薬品などの備蓄	な災害時における被害情報の把握と迅速	避難所での快適な生活環境づくり	供避難所やハザードマップなどの情報提供	防災意識の普及・啓発、防災教育など	防災にかさ上げなどのハード整備	地域の自主防災組織や消防団の活動に	防災訓練の充実	災害に関する計画の充実	近県との広域応援体制の確立	くボランティア活動に対する支援体制づく	その他	特 に な い	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)																	
全体		1,771	50.1	44.7	39.1	38.7	17.3	15.9	14.5	10.2	9.5	9.0	6.9	6.4	3.2	0.7	5.1
性別	男性	780	46.7	43.2	36.4	36.4	18.7	16.2	17.1	11.0	8.8	9.5	8.1	6.9	3.8	0.9	5.4
	女性	938	53.5	46.1	41.9	41.3	16.3	15.7	12.5	9.2	9.9	9.0	6.1	6.0	2.6	0.5	4.4
年齢別	18～19歳	16	43.8	50.0	31.3	31.3	31.3	6.3	18.8	6.3	6.3	6.3	6.3	-	12.5	-	-
	20～29歳	106	44.3	53.8	43.4	42.5	15.1	11.3	15.1	7.5	6.6	6.6	3.8	5.7	3.8	1.9	3.8
	30～39歳	182	62.1	51.6	41.2	40.1	18.1	14.3	11.5	4.9	9.3	10.4	9.9	3.8	1.6	-	2.7
	40～49歳	285	51.6	47.4	38.2	40.0	15.8	12.3	18.2	7.7	6.0	12.6	7.4	5.3	3.5	0.4	5.6
	50～59歳	304	50.3	42.1	36.5	42.8	15.8	16.1	18.1	11.5	10.9	8.2	6.6	8.6	3.6	1.0	4.6
	60～69歳	425	46.4	38.4	44.5	38.1	19.1	18.8	12.9	11.8	9.4	10.1	8.5	6.4	3.8	0.2	4.2
	70歳以上	400	50.5	46.0	35.5	35.5	17.8	17.5	12.0	11.8	11.8	6.8	5.0	7.3	2.0	1.3	6.5
職業別	農林漁業	73	54.8	39.7	39.7	41.1	11.0	19.2	9.6	17.8	6.8	6.8	9.6	2.7	4.1	1.4	4.1
	商工業、サービス業、自由業など	238	50.8	45.0	39.5	38.2	16.8	12.2	13.0	13.4	10.1	5.9	6.7	6.3	4.6	0.4	6.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	51.2	44.6	39.6	39.5	17.5	16.1	16.4	8.1	8.7	10.7	7.0	6.0	2.7	0.6	4.9
	主婦・主夫	313	52.1	47.9	40.3	39.9	16.0	18.5	13.1	11.2	11.8	9.3	7.0	6.1	2.9	0.6	2.9
	無職	272	44.1	41.2	39.0	36.4	21.3	15.1	14.0	9.2	9.2	8.1	6.6	8.8	3.3	1.1	5.5
圏域別	高松圏域	877	49.9	43.2	40.5	37.9	17.8	15.8	14.4	10.1	8.9	7.2	8.0	7.1	3.6	0.7	5.4
	東讃圏域	143	49.7	47.6	36.4	42.0	17.5	9.8	16.1	12.6	9.1	8.4	4.2	5.6	2.1	0.7	4.9
	小豆圏域	44	56.8	38.6	38.6	25.0	27.3	18.2	9.1	6.8	9.1	18.2	9.1	2.3	-	-	11.4
	中讃圏域	466	50.4	46.8	38.6	42.1	15.9	17.6	14.4	7.9	10.7	10.7	5.4	4.9	3.4	0.9	4.5
	西讃圏域	241	49.0	45.2	36.9	36.1	16.6	15.8	14.9	13.7	10.0	10.8	7.1	8.3	2.5	0.8	4.1
居住年数別	3年未満	109	49.5	39.4	38.5	45.0	16.5	11.9	20.2	5.5	9.2	8.3	10.1	3.7	-	0.9	7.3
	3年以上～10年未満	209	51.7	45.5	44.5	33.0	18.2	19.1	15.3	7.2	7.2	9.6	9.1	7.7	2.4	0.5	4.8
	10年以上～20年未満	284	50.4	47.5	38.0	44.4	17.6	12.0	14.1	8.8	9.5	7.7	5.6	6.7	3.2	1.1	4.6
	20年以上	1,111	50.2	44.4	39.1	38.2	17.4	16.7	14.0	11.3	9.9	9.5	6.7	6.4	3.6	0.6	4.6

## 2. かがわの里海づくりについて

### (1) 香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会について

問4 あなたは、香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会をどのくらい持っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

また、2～5を選んだ方は、よろしければ、その内容もお聞かせください。（例：海水浴・ゴミ拾い・散策など）

※ () 内の割合はウェイトバックした値

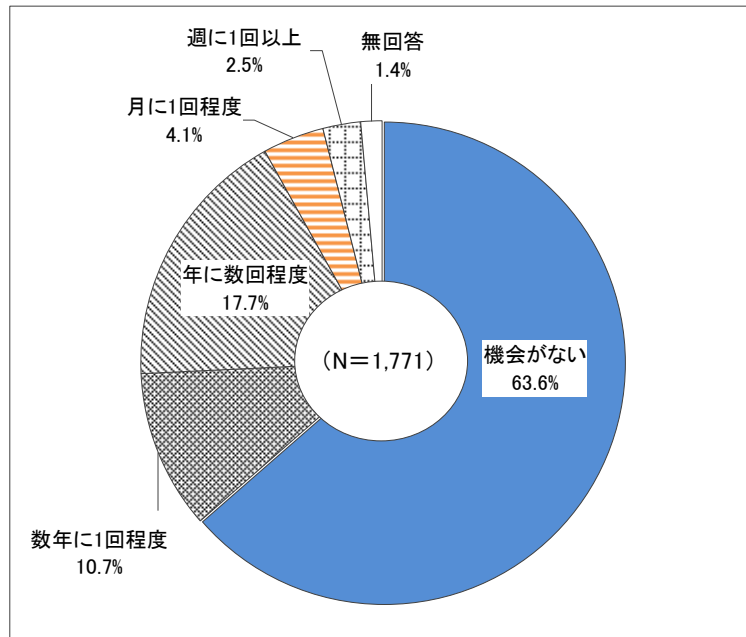
【回答者数=1,771】

1	機会がない		63.6%(62.1%)
2	数年に1回程度	(内容: )	10.7%(10.7%)
3	年に数回程度	(内容: )	17.7%(18.6%)
4	月に1回程度	(内容: )	4.1%(4.5%)
5	週に1回以上	(内容: )	2.5%(2.5%)
	(無回答)		1.4%(1.5%)

香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会について、「機会がない」63.6%が最も高く、次いで「年に数回程度」17.7%、「数年に1回程度」10.7%、「月に1回程度」4.1%、「週に1回以上」2.5%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「機会がない」62.1%が最も高く、次いで「年に数回程度」18.6%、「数年に1回程度」10.7%、「月に1回程度」4.5%、「週に1回以上」2.5%となっている。

図表 2-(1)-1 香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会について



香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会について、性別にみると、男女とも「機会がない」が最も高く、『男性』60.0%、『女性』66.3%で、これに男女とも「年に数回程度」が『男性』19.4%、『女性』16.6%と続いている。

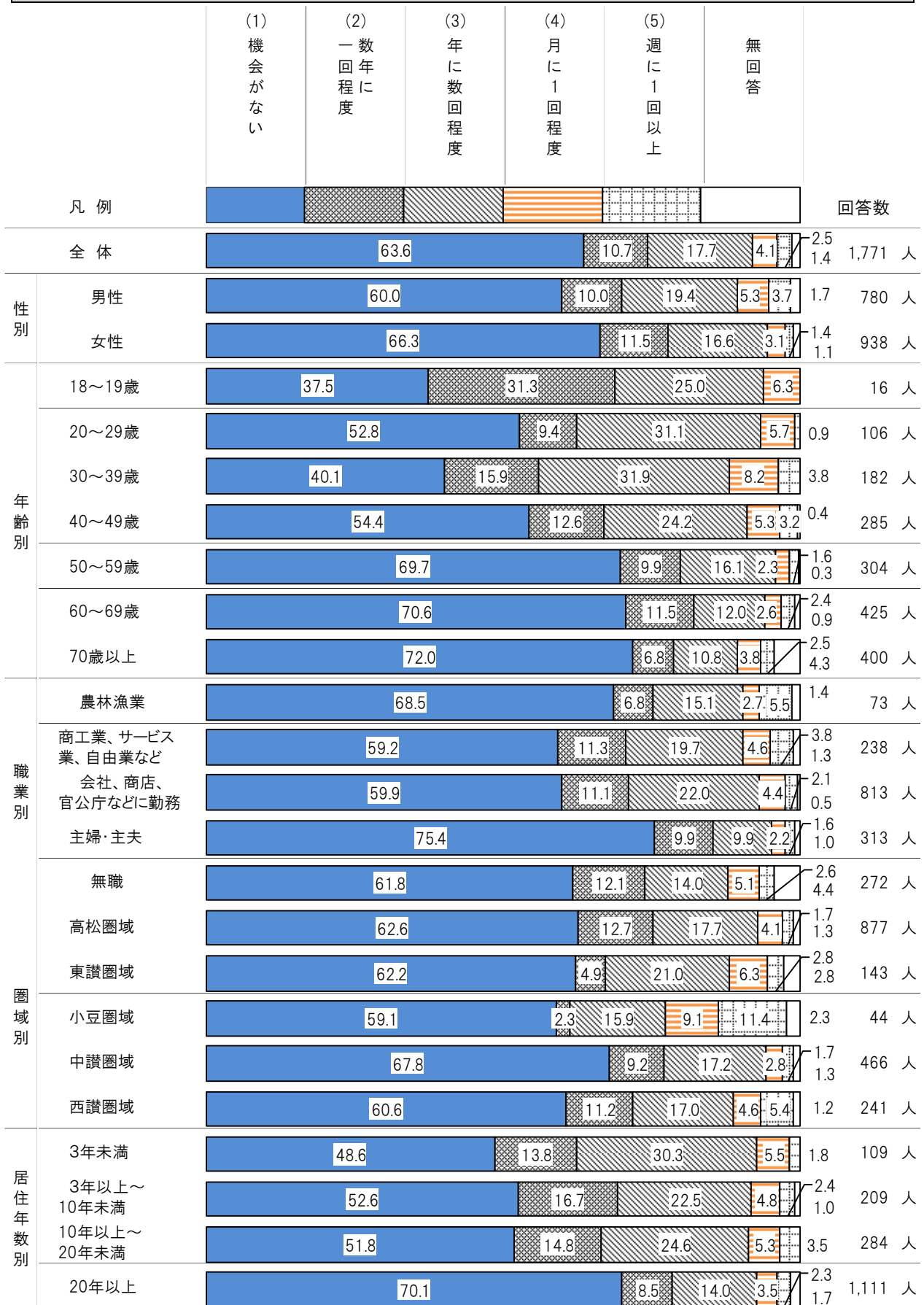
年齢別にみると、いずれも「機会がない」が3～7割台と最も高く、『70歳以上』では72.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「機会がない」が5～7割台と最も高く、『主婦・主夫』では75.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「機会がない」が5～6割台と最も高く、『中讃圏域』では67.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「機会がない」が4～7割台と最も高く、『20年以上』では70.1%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-2 【香川県の海や海辺でのふれあいレジャーの機会について】



グラフ単位:(%)

香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会にどのようなことを行っているかについて、「海レジャー」47.3%が最も高く、次いで「散策」35.5%、「屋外レジャー」6.9%などとなっている。

**図表 2-(1)-3 【香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会にどのようなことを行っているか】**

		回答数
全体	100.0	620 人
(1) 海レジャー(海水浴、釣りなど)	47.3	293 人
(2) 散策(ごみ拾い含む)	35.5	220 人
(3) 屋外レジャー(キャンプ、バーベキュー、花火など)	6.9	43 人
(4) ドライブ	1.5	9 人
(5) その他	11.6	72 人
(6) 無回答	5.5	34 人

グラフ単位:(%)

香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会にどのようなことを行っているかについて、性別にみると、男女とも「海レジャー」が最も高くなっており、『男性』49.8%、『女性』44.1%で、これに男女ともに「散策」が『男性』29.4%、『女性』42.2%と続いている。

年齢別にみると、『50～59歳』を除くすべての年齢で「海レジャー」が最も高くなっており、『50～59歳』では「散策」36.3%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「海レジャー」が4～5割台と最も高く、『農林漁業』では「海レジャー」、「散策」36.4%が同率で最も高くなっている。

圏域別にみると、『西讃圏域』を除くすべての圏域で「海レジャー」が最も高くなっており、『西讃圏域』では「散策」43.5%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「海レジャー」が最も高くなっており、『3年未満』では「散策」48.2%が最も高くなっている。

図表 2-(1)-4 【香川県の海や海辺でのふれあいやレジャーの機会にどのようなことを行っているか】

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		全体 (人)	海 レ ジ ャ ー	散 策	屋 外 レ ジ ャ ー	ド ラ イ ブ	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)								
全体		620	47.3	35.5	6.9	1.5	11.6	5.5
性別	男性	299	49.8	29.4	5.0	1.3	11.4	5.7
	女性	306	44.1	42.2	9.2	1.6	11.8	5.2
年齢別	18～19歳	10	50.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	20～29歳	50	44.0	36.0	10.0	4.0	6.0	4.0
	30～39歳	109	58.7	40.4	8.3	0.9	4.6	1.8
	40～49歳	129	56.6	43.4	5.4	1.6	2.3	5.4
	50～59歳	91	29.7	36.3	8.8	0.0	20.9	5.5
	60～69歳	121	38.8	29.8	6.6	2.5	17.4	8.3
	70歳以上	95	48.4	27.4	6.3	1.1	20.0	5.3
職業別	農林漁業	22	36.4	36.4	4.5	0.0	31.8	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	94	50.0	34.0	6.4	1.1	6.4	7.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	322	47.5	37.3	8.4	1.9	9.0	4.7
	主婦・主夫	74	41.9	36.5	6.8	1.4	20.3	6.8
	無職	92	48.9	32.6	4.3	1.1	14.1	6.5
圏域別	高松圏域	317	43.2	36.0	6.9	2.5	7.9	3.8
	東讃圏域	50	56.0	28.0	4.0	0.0	18.0	6.0
	小豆圏域	17	58.8	23.5	0.0	0.0	11.8	5.9
	中讃圏域	144	55.6	33.3	6.3	0.7	13.9	8.3
	西讃圏域	92	41.3	43.5	10.9	0.0	17.4	6.5
居住年数別	3年未満	56	46.4	48.2	3.6	1.8	5.4	1.8
	3年以上～10年未満	97	60.8	37.1	10.3	1.0	4.1	4.1
	10年以上～20年未満	137	46.7	35.8	5.8	1.5	9.5	6.6
	20年以上	313	43.1	33.2	7.3	1.6	16.0	6.1

(2)「香川の海」の満足度について

問5 あなたは、「香川の海」について、どの程度満足していますか。項目ごとに、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ()内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

(単位:%)

項目	満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
美しい海 (ごみがない、水質がきれい、 景観など)	6.6 (6.7)	34.9 (34.0)	32.0 (31.8)	16.3 (16.8)	6.7 (7.1)	3.5 (3.6)
生物が多様な海 (魚が豊富、様々な生物が生息 など)	7.2 (7.5)	36.3 (35.8)	40.4 (40.0)	9.2 (9.5)	2.6 (2.7)	4.3 (4.5)
交流と賑わいのある海 (海のレジャー、アートなど)	6.0 (5.9)	30.1 (30.3)	47.5 (46.8)	8.5 (8.6)	3.0 (3.3)	4.9 (5.1)

美しい海の満足度について、「まあ満足している」34.9%が最も高く、次いで「どちらともいえない」32.0%、「やや不満である」16.3%などとなっている。

生物が多様な海の満足度について、「どちらともいえない」40.4%が最も高く、次いで「まあ満足している」36.3%、「やや不満である」9.2%などとなっている。

交流と賑わいのある海の満足度について、「どちらともいえない」47.5%が最も高く、次いで「まあ満足している」30.1%、「やや不満である」8.5%などとなっている。

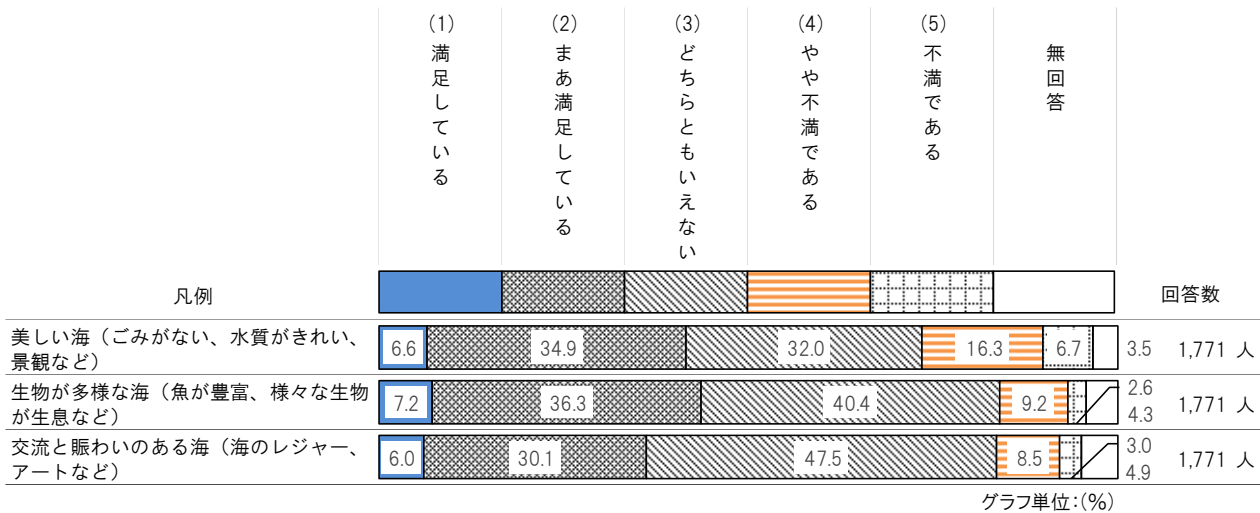
ウェイトバック集計した値をみると、美しい海の満足度について、「まあ満足している」34.0%が最も高く、次いで「どちらともいえない」31.8%、「やや不満である」16.8%などとなっている。

生物が多様な海の満足度について、「どちらともいえない」40.0%が最も高く、次いで「まあ満足している」35.8%、「やや不満である」9.5%などとなっている。

交流と賑わいのある海の満足度について、「どちらともいえない」46.8%が最も高く、次いで「まあ満足している」30.3%、「やや不満である」8.6%などとなっている。



図表 2-(2)-1 「香川の家」の満足度について



美しい海の満足度について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は『男性』39.6%、『女性』43.3%で、いずれも「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

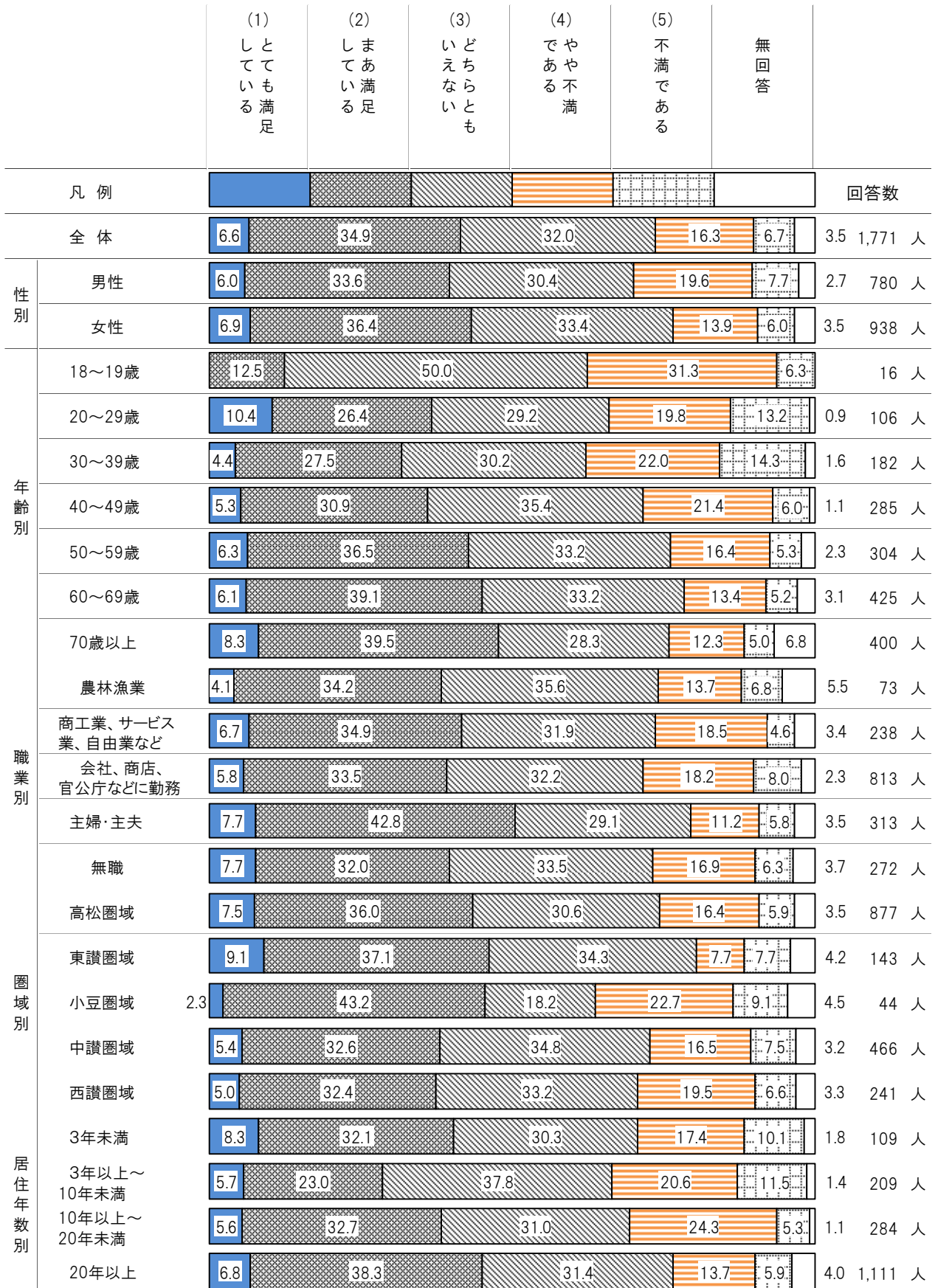
年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』、『30～39歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。『3年以上～10年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 2-(2)-2 【美しい海の満足度について】



グラフ単位:(%)

生物が多様な海の満足度について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は『男性』43.2%、『女性』44.1%で、いずれも「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

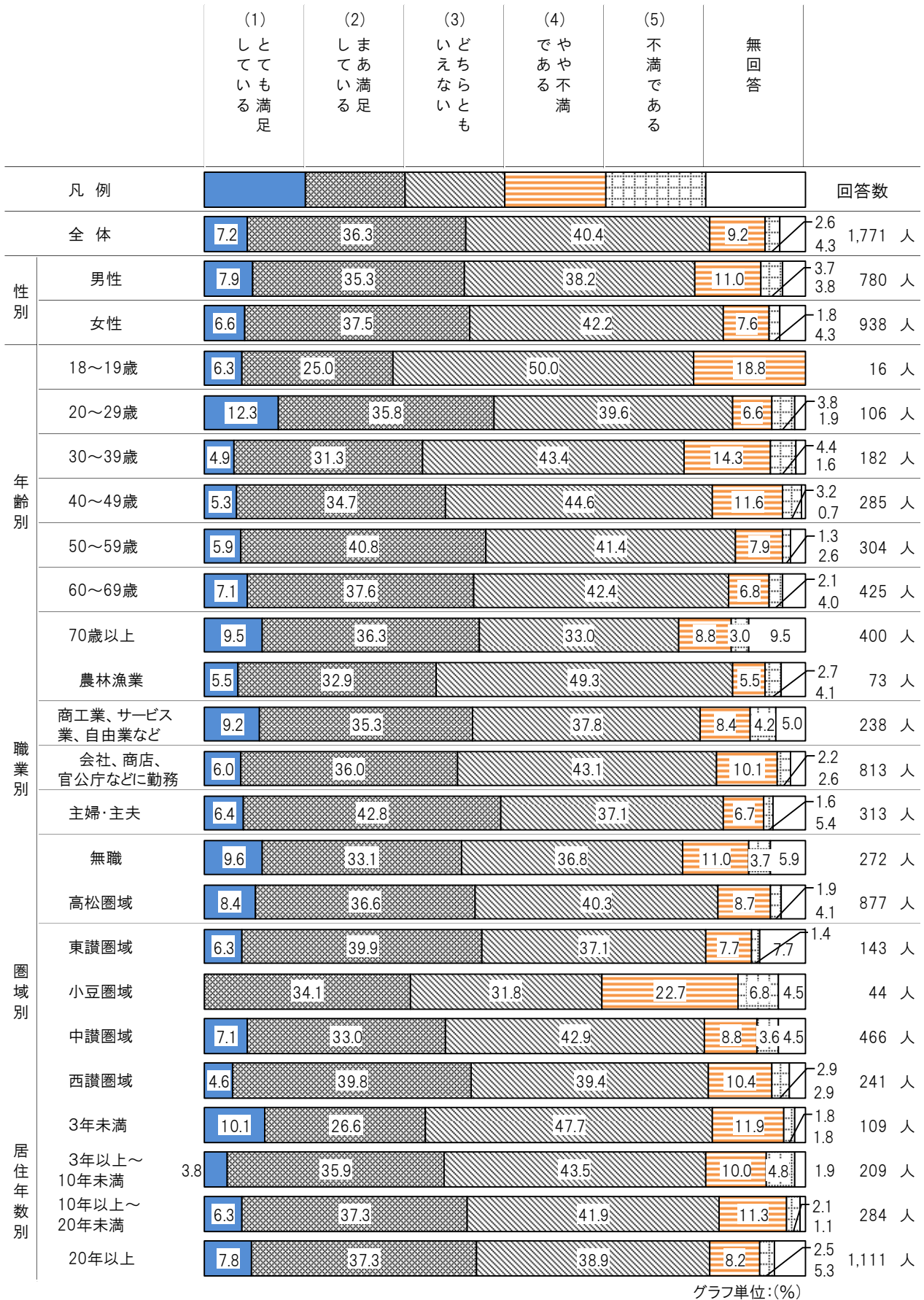
職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 2-(2)-3 【生物が多様な海の満足度について】



交流と賑わいのある海の満足度について、

性別にみると「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は『男性』33.3%、『女性』39.1%で、いずれも「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

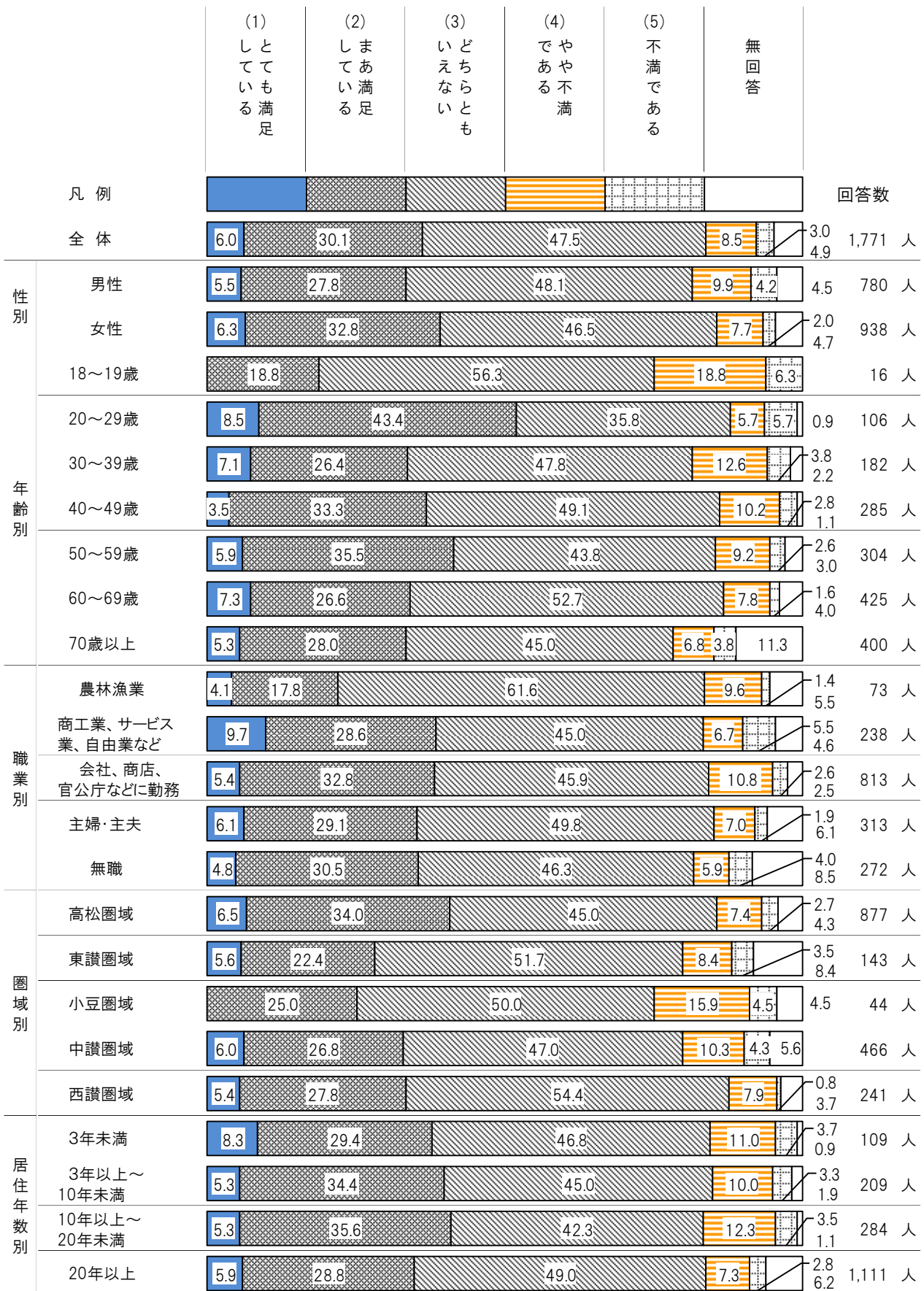
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 2-(2)-4 【交流と賑わいのある海の満足度について】



グラフ単位:(%)



(3)「香川の家」の望ましい姿、あるべき姿について

問6 あなたが思い描く「香川の家」の望ましい姿、あるべき姿とはどのようなものですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】※回答数の多い順に並び替え

1	ごみのない海	82.3%(82.0%)
2	水質のきれいな海	68.8%(68.9%)
3	海の幸(魚介類)が豊富な海	51.7%(51.2%)
4	多島美など、景観の美しい海	36.0%(34.3%)
5	アートなど、人が訪れ、交流を広げる海	16.5%(17.1%)
6	海水浴やカヤックなど身近に楽しめる海	14.2%(15.2%)
7	伝統的な文化が息づく海	7.9%( 8.0%)
8	スナメリやウミホタルに会える海	6.5%( 6.7%)
9	その他(具体的に: _____)	1.0%( 1.2%)
	(無回答)	0.7%( 0.7%)

「香川の家」の望ましい姿、あるべき姿について、「ごみのない海」82.3%が最も高く、次いで「水質のきれいな海」68.8%、「海の幸(魚介類)が豊富な海」51.7%、「多島美など、景観の美しい海」36.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ごみのない海」82.0%が最も高く、次いで「水質のきれいな海」68.9%、「海の幸(魚介類)が豊富な海」51.2%、「多島美など、景観の美しい海」34.3%などとなっている。

図表 2-(3)-1 「香川の家」の望ましい姿、あるべき姿について

	割合	回答数
全体	100.0	1,771 人
(1) ごみのない海	82.3	1,458 人
(2) 水質のきれいな海	68.8	1,219 人
(3) 海の幸(魚介類)が豊富な海	51.7	916 人
(4) 多島美など、景観の美しい海	36.0	638 人
(5) アートなど、人が訪れ、交流を広げる海	16.5	293 人
(6) 海水浴やカヤックなど身近に楽しめる海	14.2	251 人
(7) 伝統的な文化が息づく海	7.9	140 人
(8) スナメリやウミホタルに会える海	6.5	115 人
(9) その他	1.0	18 人
無回答	0.7	12 人

グラフ単位:(%)

「香川の海」の望ましい姿、あるべき姿について、性別にみると、男女とも「ごみのない海」が最も高く、『男性』81.9%、『女性』82.2%となっている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「ごみのない海」が7～8割台と最も高く、『18～19歳』では「ごみのない海」、「水質のきれいな海」81.3%が同率で最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ごみのない海」が7～8割台と最も高く、『主婦・主夫』では84.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ごみのない海」が8割台と最も高く、『西讃圏域』では84.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ごみのない海」が7～8割台と最も高く、『20年以上』では82.5%と最も高くなっている。



図表 2-(3)-2 【「香川の海」の望ましい姿、あるべき姿について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	ごみのない海	水質のきれいな海	海の幸(魚介類)が豊富な海	多島美など、景観の美しい海	海アートなど、人が訪れ、交流を広げる	海水浴やカヤックなど身近に楽しめる	伝統的な文化が息づく海	スナメリやウミホタルに会える海	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)												
全体		1,771	82.3	68.8	51.7	36.0	16.5	14.2	7.9	6.5	1.0	0.7
性別	男性	780	81.9	69.2	53.2	35.8	14.0	14.1	7.9	7.1	1.7	0.5
	女性	938	82.2	68.6	50.3	36.4	19.1	14.5	8.2	6.2	0.5	0.6
年齢別	18～19歳	16	81.3	81.3	6.3	12.5	31.3	37.5	12.5	6.3	6.3	-
	20～29歳	106	75.5	64.2	40.6	26.4	33.0	26.4	6.6	6.6	-	-
	30～39歳	182	86.8	67.0	43.4	31.3	13.2	22.5	8.8	9.9	2.2	-
	40～49歳	285	84.2	76.5	50.2	28.8	11.9	16.5	6.7	9.1	0.7	-
	50～59歳	304	80.3	68.4	49.3	45.1	18.1	10.2	7.6	7.2	0.3	0.3
	60～69歳	425	83.1	67.3	52.2	42.6	17.4	12.0	8.5	4.2	0.5	0.7
	70歳以上	400	80.5	67.0	62.3	33.3	15.3	10.5	9.0	5.3	2.0	1.5
職業別	農林漁業	73	79.5	64.4	58.9	39.7	12.3	5.5	11.0	8.2	-	1.4
	商工業、サービス業、自由業など	238	77.3	64.7	55.0	38.7	18.9	12.2	10.5	5.9	1.3	0.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	82.8	70.1	47.4	36.2	17.2	17.1	7.1	6.5	1.2	0.2
	主婦・主夫	313	84.7	67.1	57.8	37.7	15.0	10.5	9.3	6.7	0.3	-
	無職	272	82.4	72.1	52.2	31.6	16.5	15.1	5.9	7.0	1.1	1.5
圏域別	高松圏域	877	83.1	69.2	52.8	36.9	17.3	14.5	7.5	4.4	0.7	0.6
	東讃圏域	143	81.1	74.1	50.3	31.5	19.6	17.5	7.7	3.5	2.1	-
	小豆圏域	44	84.1	59.1	77.3	15.9	9.1	18.2	6.8	9.1	-	2.3
	中讃圏域	466	80.0	67.6	47.9	39.1	17.6	13.3	9.2	8.4	1.3	0.9
	西讃圏域	241	84.2	68.5	51.5	33.2	11.2	12.0	7.1	11.6	1.2	0.8
居住年数別	3年未満	109	78.9	62.4	45.9	36.7	21.1	19.3	8.3	10.1	0.9	-
	3年以上～10年未満	209	81.8	73.2	45.5	34.9	17.2	20.1	7.2	8.1	1.0	-
	10年以上～20年未満	284	82.0	70.8	49.3	31.7	18.0	20.4	7.0	7.4	1.4	-
	20年以上	1,111	82.5	68.1	54.1	37.4	15.9	11.3	8.6	5.8	1.0	0.8

(4)「里海」の認知度について

問7 あなたは「里海」という言葉や意味をどの程度知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

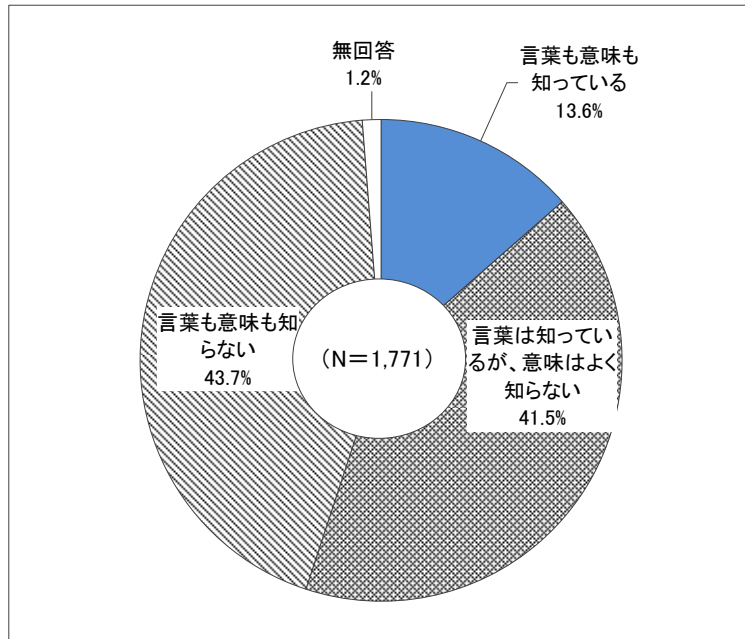
【回答者数=1,771】

1 言葉も意味も知っている	13.6%(13.5%)
2 言葉は知っているが、意味はよく知らない	41.5%(40.7%)
3 言葉も意味も知らない	43.7%(44.5%)
(無回答)	1.2%( 1.4%)

「里海」の認知度について、「言葉も意味も知らない」43.7%が最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味はよく知らない」41.5%、「言葉も意味も知っている」13.6%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「言葉も意味も知らない」44.5%が最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味はよく知らない」40.7%、「言葉も意味も知っている」13.5%となっている。

図表 2-(4)-1 「里海」の認知度について



「里海」の認知度について、性別にみると、『男性』では「言葉は知っているが、意味はよく知らない」41.8%が最も高く、『女性』では「言葉も意味も知らない」46.7%が最も高くなっている。これに『男性』では「言葉も意味も知らない」41.5%、『女性』では「言葉は知っているが、意味はよく知らない」40.7%と続いている。

年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で「言葉も意味も知らない」が4～6割台と最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「言葉は知っているが、意味はよく知らない」が『60～69歳』44.7%、『70歳以上』46.5%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「言葉は知っているが、意味はよく知らない」が4～5割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「言葉も意味も知らない」が4割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「言葉も意味も知らない」が4割台と最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「言葉は知っているが、意味はよく知らない」が4割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「言葉も意味も知らない」が4～6割台と最も高く、『20年以上』では「言葉は知っているが、意味はよく知らない」が4割台と最も高くなっている。

図表 2-(4)-2 【「里海」の認知度について】

		(1) 知言葉も 意味も	(2) ら意味は よ、知	(3) 知言葉 ない意味も	無回答	
凡 例						回答数
性別	全 体	13.6	41.5	43.7		1.2 1,771 人
	男性	15.6	41.8	41.5		1.0 780 人
	女性	11.4	40.7	46.7		1.2 938 人
年齢別	18～19歳	12.5	18.8	68.8		16 人
	20～29歳	8.5	28.3	63.2		106 人
	30～39歳	9.9	34.6	55.5		182 人
	40～49歳	9.1	40.0	50.9		285 人
	50～59歳	12.2	40.1	47.7		304 人
	60～69歳	14.8	44.7	39.3		1.2 425 人
	70歳以上	18.5	46.5	31.5		3.5 400 人
職業別	農林漁業	13.7	54.8	30.1		1.4 73 人
	商工業、サービス業、自由業など	10.1	42.9	46.2		0.8 238 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	11.9	38.1	49.6		0.4 813 人
	主婦・主夫	16.9	45.0	37.1		1.0 313 人
	無職	16.5	40.8	39.7		2.9 272 人
圏域別	高松圏域	14.6	39.7	44.6		1.1 877 人
	東讃圏域	13.3	48.3	38.5		143 人
	小豆圏域	4.5	47.7	43.2		4.5 44 人
	中讃圏域	13.3	41.0	43.8		1.9 466 人
	西讃圏域	12.0	44.0	43.6		0.4 241 人
居住年数別	3年未満	6.4	32.1	61.5		109 人
	3年以上～10年未満	12.0	38.3	49.8		209 人
	10年以上～20年未満	13.7	34.5	51.8		284 人
	20年以上	14.0	44.5	39.9		1.6 1,111 人

グラフ単位:(%)

(5)「里海づくり」の推進に関する認知度について

問8 「里海」とは、海だけでなく、海の生態系に大きな関連を持つ山や川、そして、私たちが生活する里（まち）も含めて、海域・陸域を一体的に捉え、人が適切に関わることで守り育む「豊かな海」のことです。香川県では、全県域・県民みんなが参加する「里海づくり」を推進していますが、そのことを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

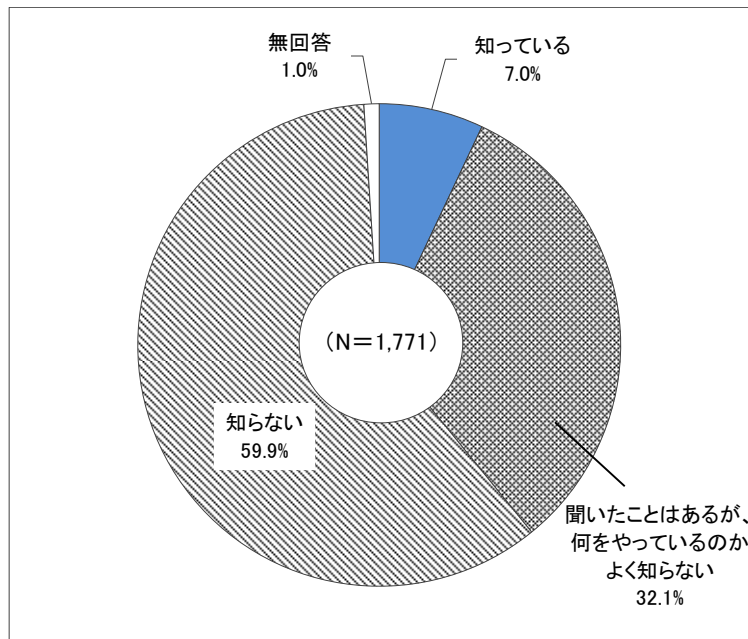
【回答者数=1,771】

1 知っている	7.0% ( 7.2%)
2 聞いたことはあるが、何をやっているのかよく知らない	32.1% (31.6%)
3 知らない	59.9% (60.2%)
(無回答)	1.0% ( 1.0%)

「里海づくり」の推進に関する認知度について、「知らない」59.9%が最も高く、次いで「聞いたことはあるが、何をやっているのかよく知らない」32.1%、「知っている」7.0%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知らない」60.2%が最も高く、次いで「聞いたことはあるが、何をやっているのかよく知らない」31.6%、「知っている」7.2%となっている。

図表 2-(5)-1 「里海づくり」の推進に関する認知度について



「里海づくり」の推進に関する認知度について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』59.1%、『女性』62.0%となっている。

年齢別にみると、いずれも「知らない」が4～8割台と最も高く、『20～29歳』では80.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が5～6割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では66.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が5～6割台と最も高く、『小豆圏域』では63.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が5～7割台と最も高く、『3年未満』では71.6%と最も高くなっている。



図表 2-(5)-2 【「里海づくり」の推進に関する認知度について】

	(1) 知っている	(2) 知てる間 らないが いなる、 たの何 かをと よやは くっあ	(3) 知らない	無 回 答	回答数
凡 例					
性別					
全体	7.0	32.1	59.9		1.0 1,771 人
男性	7.8	32.3	59.1		0.8 780 人
女性	6.1	30.9	62.0		1.0 938 人
年齢別					
18～19歳	12.5	12.5	75.0		16 人
20～29歳	4.7	15.1	80.2		106 人
30～39歳	6.0	22.0	72.0		182 人
40～49歳	3.5	28.4	68.1		285 人
50～59歳	7.6	24.3	68.1		304 人
60～69歳	5.9	36.9	55.8		1.4 425 人
70歳以上	10.5	43.0	44.3		2.3 400 人
職業別					
農林漁業	4.1	39.7	54.8		1.4 73 人
商工業、サービス業、自由業など	7.6	27.7	63.9		0.8 238 人
会社、商店、官公庁などに勤務	5.7	27.4	66.5		0.4 813 人
主婦・主夫	7.3	40.6	51.4		0.6 313 人
無職	10.3	34.9	52.6		2.2 272 人
圏域別					
高松圏域	7.2	32.5	59.4		0.9 877 人
東讃圏域	4.2	44.8	51.0		143 人
小豆圏域	4.5	25.0	63.6	6.8	44 人
中讃圏域	7.5	29.4	61.8		1.3 466 人
西讃圏域	7.5	29.9	62.2		0.4 241 人
居住年数別					
3年未満	3.7	24.8	71.6		109 人
3年以上～10年未満	6.2	25.8	67.5		0.5 209 人
10年以上～20年未満	7.4	26.1	66.5		284 人
20年以上	7.1	34.8	56.9		1.2 1,111 人

グラフ単位:(%)

**(6)環境保全の取り組みや参加した活動について**

問9 「里海づくり」は、活動の場所、取り組み内容など、とても多様です。香川の山や川、海などの環境保全のために取り組んでいることや、参加したことがある活動はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】※回答数の多い順に並び替え

1	ごみをポイ捨てしない	79.2%(78.8%)
2	家庭から油や固形物を流さない	51.4%(50.5%)
3	節水	44.8%(44.7%)
4	家庭や地域で花や木などの緑を育てる	41.3%(41.3%)
5	川や水路などの清掃活動	35.1%(34.5%)
6	洗剤や石けんなどの適量使用	32.8%(32.6%)
7	3R（リデュース、リユース、リサイクル）の実施	27.4%(27.8%)
8	山や木に親しむ	18.3%(18.7%)
9	水産物の地産地消	15.1%(15.0%)
10	海辺・海岸の清掃活動	12.7%(12.5%)
11	農薬・肥料などの適量使用	12.1%(12.2%)
12	田畑の積極的な利用	12.0%(12.0%)
13	間伐材を利用した箸などの利用	8.2%( 8.2%)
14	環境学習	7.0%( 8.2%)
15	山の清掃活動	6.9%( 7.2%)
16	植樹・間伐	5.8%( 5.8%)
17	川に生息する生き物の調査・保全活動	3.2%( 3.3%)
18	川の水質調査	3.1%( 3.2%)
19	海の水質調査	2.8%( 2.9%)
20	海に生息する生き物の調査・保全活動	2.5%( 2.6%)
21	山に生息する動植物の調査・保全活動	2.0%( 2.0%)
22	藻場・干潟などの保全・再生活動	1.0%( 1.0%)
23	その他（具体的に：_____）	1.8%( 1.8%)
	（無回答）	7.2%( 7.3%)

環境保全の取り組みや参加した活動について、「ごみをポイ捨てしない」79.2%が最も高く、次いで「家庭から油や固形物を流さない」51.4%、「節水」44.8%、「家庭や地域で花や木などの緑を育てる」41.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ごみをポイ捨てしない」78.8%が最も高く、次いで「家庭から油や固形物を流さない」50.5%、「節水」44.7%、「家庭や地域で花や木などの緑を育てる」41.3%などとなっている。



図表 2-(6)-1 環境保全の取り組みや参加した活動について

		回答数
全体	100.0	1,771 人
(1) ごみをポイ捨てしない	79.2	1,403 人
(2) 家庭から油や固形物を流さない	51.4	910 人
(3) 節水	44.8	793 人
(4) 家庭や地域で花や木などの緑を育てる	41.3	732 人
(5) 川や水路などの清掃活動	35.1	621 人
(6) 洗剤や石けんなどの適量使用	32.8	581 人
(7) 3R(リデュース、リユース、リサイクル)の実施	27.4	486 人
(8) 山や木に親しむ	18.3	324 人
(9) 水産物の地産地消	15.1	268 人
(10) 海辺・海岸の清掃活動	12.7	225 人
(11) 農薬・肥料などの適量使用	12.1	215 人
(12) 田畑の積極的な利用	12.0	212 人
(13) 間伐材を利用した箸などの利用	8.2	145 人
(14) 環境学習	7.0	124 人
(15) 山の清掃活動	6.9	123 人
(16) 植樹・間伐	5.8	102 人
(17) 川に生息する生き物の調査・保全活動	3.2	57 人
(18) 川の水質調査	3.1	55 人
(19) 海の水質調査	2.8	50 人
(20) 海に生息する生き物の調査・保全活動	2.5	44 人
(21) 山に生息する動植物の調査・保全活動	2.0	35 人
(22) 藻場・干潟などの保全・再生活動	1.0	18 人
(23) その他	1.8	32 人
無回答	7.2	127 人

グラフ単位：(%)

環境保全の取り組みや参加した活動について、性別にみると、男女とも「ごみをポイ捨てしない」が最も高く、『男性』75.6%『女性』82.6%となっている。

年齢別にみると、いずれも「ごみをポイ捨てしない」が6～8割台と最も高く、『50～59歳』では82.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ごみをポイ捨てしない」が7～8割台と最も高く、『主婦・主夫』では83.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ごみをポイ捨てしない」が6～8割台と最も高く、『中讃圏域』では81.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ごみをポイ捨てしない」が7～8割台と最も高く、『10年以上～20年未満』では83.5%と最も高くなっている。

図表 2-(6)-2 【環境保全の取り組みや参加した活動について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	
		全体 (人)	ごみをポイ捨てしない	家庭から油や固形物を流さない	節水	家庭や地域で花や木などの緑を育てる	川や水路などの清掃活動	洗剤や石けんなどの適量使用	3R（リデュース、リユース、リサイクル）の実施	山や木に親しむ	水産物の地産地消	海辺・海岸の清掃活動	農薬・肥料などの適量使用	田畑の積極的な利用
【表の見方】 単位＝比率(%)														
全体		1,771	79.2	51.4	44.8	41.3	35.1	32.8	27.4	18.3	15.1	12.7	12.1	12.0
性別	男性	780	75.6	44.7	38.1	36.2	38.8	26.0	23.5	19.5	13.3	14.5	14.2	13.7
	女性	938	82.6	57.1	50.6	46.2	32.1	38.6	31.4	17.5	16.5	11.3	10.2	10.6
年齢別	18～19歳	16	62.5	25.0	37.5	37.5	25.0	12.5	25.0	25.0	-	-	6.3	6.3
	20～29歳	106	70.8	34.9	44.3	43.4	21.7	27.4	35.8	18.9	12.3	14.2	6.6	10.4
	30～39歳	182	77.5	41.2	39.6	37.4	19.2	23.6	28.0	23.6	14.3	13.7	2.2	4.4
	40～49歳	285	80.4	47.0	47.0	34.0	23.2	26.0	41.1	17.2	19.3	8.1	4.6	7.0
	50～59歳	304	82.2	51.3	46.4	41.1	34.2	35.9	30.9	16.8	15.5	13.8	9.9	9.9
	60～69歳	425	78.1	54.8	44.0	44.2	41.2	32.5	21.2	16.5	12.9	13.9	14.1	14.4
	70歳以上	400	82.0	61.5	46.3	46.3	49.3	42.5	21.0	19.8	15.8	13.8	23.0	18.8
職業別	農林漁業	73	72.6	58.9	26.0	38.4	64.4	28.8	19.2	24.7	13.7	15.1	52.1	53.4
	商工業、サービス業、自由業など	238	76.5	45.0	45.0	37.8	29.4	28.2	24.4	21.0	14.3	10.9	8.4	10.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	80.1	47.0	43.1	40.5	32.0	29.3	31.1	17.8	14.4	12.9	8.2	9.2
	主婦・主夫	313	83.1	65.8	53.7	50.5	37.1	48.2	32.6	18.5	19.8	12.5	15.7	13.1
	無職	272	78.3	52.6	46.0	39.3	39.3	32.0	18.4	15.4	12.9	14.0	11.4	9.2
圏域別	高松圏域	877	80.5	50.9	48.2	43.6	33.6	34.8	28.1	21.9	16.2	9.7	10.5	11.1
	東讃圏域	143	67.1	36.4	35.7	35.7	30.8	25.9	18.9	16.1	14.7	12.6	14.0	14.7
	小豆圏域	44	79.5	50.0	29.5	29.5	45.5	27.3	18.2	13.6	22.7	25.0	6.8	11.4
	中讃圏域	466	81.5	58.4	46.6	41.8	32.8	36.1	29.8	15.0	13.7	11.2	12.4	10.7
	西讃圏域	241	77.2	49.0	36.9	37.8	45.2	24.5	27.4	13.7	12.9	24.5	17.4	16.2
居住年数別	3年未満	109	78.9	42.2	45.9	35.8	19.3	30.3	24.8	22.9	11.9	3.7	3.7	5.5
	3年以上～10年未満	209	81.3	54.5	52.2	41.1	22.5	35.9	34.0	22.5	19.1	12.9	6.2	8.6
	10年以上～20年未満	284	83.5	49.6	42.6	39.8	28.5	32.0	40.8	21.1	21.1	10.6	6.3	6.7
	20年以上	1,111	78.3	52.5	44.2	42.8	40.9	32.9	23.8	16.5	13.0	14.1	15.5	14.7

<第3章 調査の集計結果/2. かがわの里海づくりについて>

		(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)		
		全体 (人)	間伐材を利用した箸などの利用	環境学習	山の清掃活動	植樹・間伐	川に生息する生き物の調査・保全活動	川の水質調査	海の水質調査	海に生息する生き物の調査・保全活動	山に生息する動植物の調査・保全活動	藻場・干潟などの保全・再生活動	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)														
全体		1,771	8.2	7.0	6.9	5.8	3.2	3.1	2.8	2.5	2.0	1.0	1.8	7.2
性別	男性	780	8.1	6.2	8.2	6.3	3.1	3.1	3.2	2.3	2.1	1.3	2.2	7.3
	女性	938	8.3	7.8	5.5	5.3	3.1	3.0	2.3	2.5	1.8	0.6	1.4	6.7
年齢別	18～19歳	16	-	43.8	6.3	12.5	6.3	6.3	-	-	-	-	12.5	6.3
	20～29歳	106	8.5	24.5	8.5	5.7	4.7	4.7	0.9	4.7	1.9	0.9	-	7.5
	30～39歳	182	6.6	8.2	4.9	4.9	4.4	1.6	-	1.6	1.6	0.5	0.5	8.2
	40～49歳	285	9.8	7.0	4.6	5.3	1.4	2.1	1.1	1.1	1.4	0.4	1.4	5.6
	50～59歳	304	7.2	8.9	5.6	4.3	3.9	3.9	3.9	4.3	2.3	0.7	1.3	7.2
	60～69歳	425	7.5	3.3	6.6	7.3	2.6	2.6	1.9	0.9	1.9	1.4	2.8	6.4
	70歳以上	400	9.5	3.0	9.8	5.8	3.0	3.5	5.8	3.3	2.3	1.3	1.8	7.8
職業別	農林漁業	73	5.5	4.1	11.0	12.3	2.7	5.5	4.1	4.1	5.5	4.1	5.5	5.5
	商工業、サービス業、自由業など	238	6.3	5.0	4.6	8.0	1.7	2.1	3.4	2.5	1.3	0.8	4.2	8.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	8.1	7.9	6.0	5.2	3.1	3.1	2.2	2.0	2.0	0.7	1.1	7.0
	主婦・主夫	313	11.2	6.4	6.4	5.4	4.5	3.8	2.9	2.2	1.9	1.6	1.0	6.7
	無職	272	7.4	8.1	9.6	4.4	2.9	2.2	3.3	3.3	1.5	-	1.5	5.5
圏域別	高松圏域	877	9.0	7.4	8.0	5.2	2.6	3.2	2.6	2.6	1.8	1.1	2.1	6.8
	東讃圏域	143	7.0	5.6	7.7	10.5	4.9	6.3	4.9	3.5	3.5	1.4	1.4	16.1
	小豆圏域	44	4.5	4.5	2.3	4.5	2.3	2.3	2.3	2.3	4.5	-	4.5	6.8
	中讃圏域	466	9.2	7.5	5.4	6.0	4.5	3.4	3.0	2.4	1.9	1.1	1.3	4.7
	西讃圏域	241	4.6	5.8	6.6	4.6	2.1	0.4	2.1	1.7	1.2	0.4	1.7	7.9
居住年数別	3年未満	109	8.3	11.0	4.6	5.5	1.8	1.8	-	3.7	1.8	-	-	7.3
	3年以上～10年未満	209	9.1	7.7	6.2	5.7	4.3	3.8	2.9	3.8	1.0	1.9	1.0	4.8
	10年以上～20年未満	284	8.5	12.3	3.9	6.0	1.4	2.1	1.4	1.8	1.8	0.4	3.5	6.3
	20年以上	1,111	7.9	5.2	7.7	5.8	3.4	3.2	3.2	2.1	2.2	1.0	1.6	7.5

(7)生活が海に及ぼす影響を考える頻度について

問10 近年、海洋プラスチックごみが国際的な問題となっており、本県の「里海づくり」でも海ごみを重要課題の一つと位置付けています。瀬戸内海の家ごみは、プラスチック製品や発泡スチロールなどの生活ごみが大抵を占めていますが、海ごみに限らず、あなたは、普段の生活が海に及ぼす影響について考えることがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

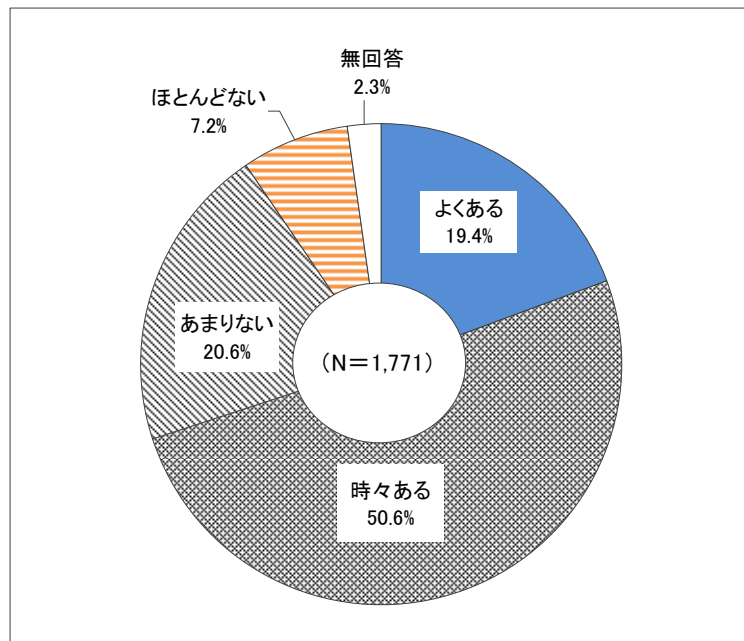
【回答者数=1,771】

1 よくある	19.4%(19.5%)
2 時々ある	50.6%(50.1%)
3 あまりない	20.6%(20.5%)
4 ほとんどない	7.2%(7.7%)
(無回答)	2.3%(2.3%)

生活が海に及ぼす影響を考える頻度について、「時々ある」50.6%が最も高く、次いで「あまりない」20.6%、「よくある」19.4%、「ほとんどない」7.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「時々ある」50.1%が最も高く、次いで「あまりない」20.5%、「よくある」19.5%、「ほとんどない」7.7%となっている。

図表 2-(7)-1 生活が海に及ぼす影響を考える頻度について



生活が海に及ぼす影響を考える頻度について、性別にみると、「よくある」と「時々ある」を合わせた【ある】の割合は『男性』68.6%、『女性』71.2%で、いずれも「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた【ない】の割合を上回っている。

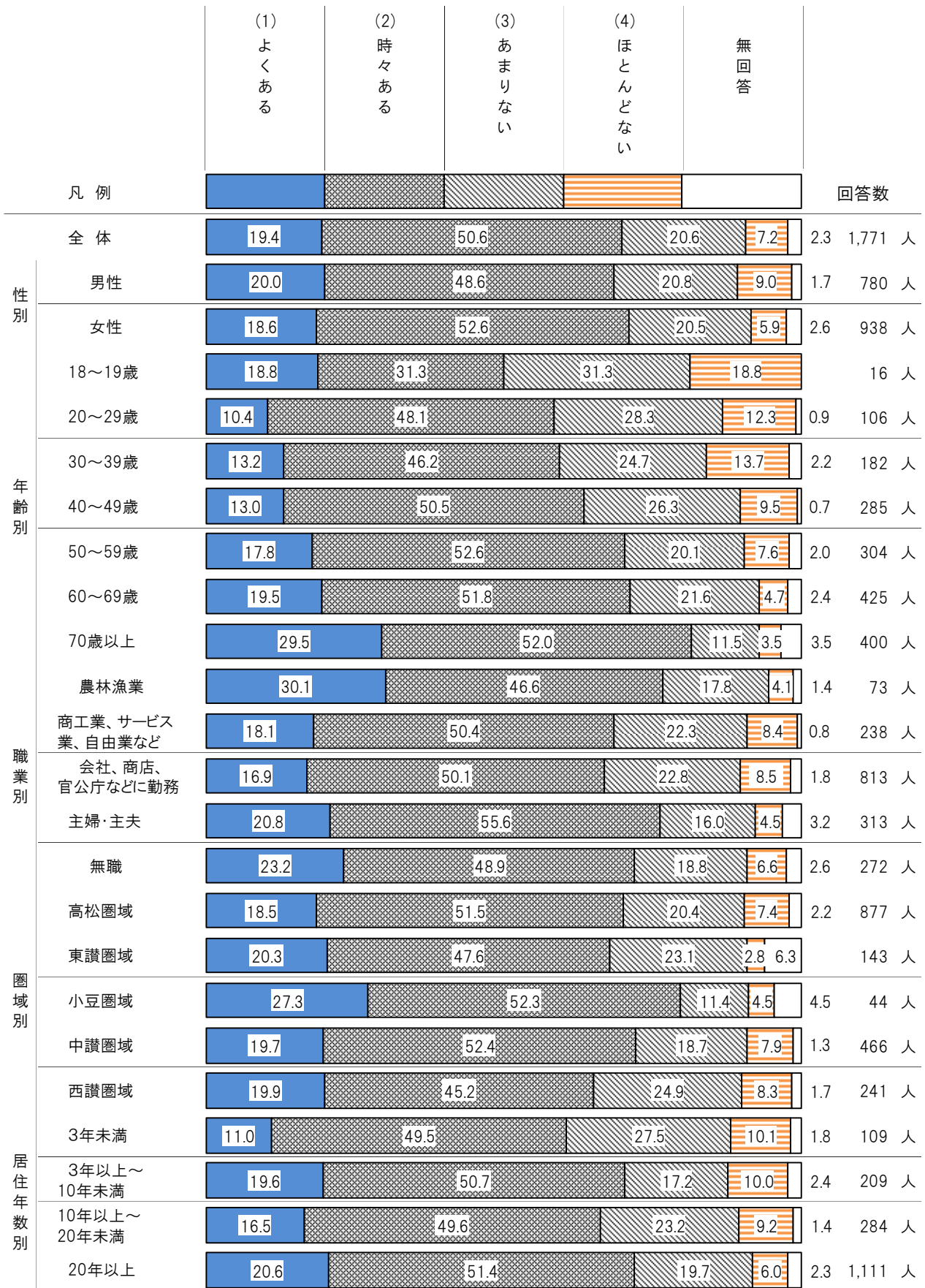
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【ある】の割合が【ない】の割合を上回っており、『18～19歳』では【ある】と【ない】の割合が同率となっている。

職業別にみると、いずれも【ある】の割合が【ない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【ある】の割合が【ない】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【ある】の割合が【ない】の割合を上回っている。

図表 2-(7)-2 【生活が海に及ぼす影響を考える頻度について】



グラフ単位:(%)

**(8) 県民の参加を促すための県の「里海づくり」施策で重要なものについて**

問11 「里海づくり」には、多くの県民の方々の参加が必要です。参加を促すために県が実施する施策について、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】※回答数の多い順に並び替え

1 幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動	51.2% (50.5%)
2 学校などの環境教育・環境学習の場としての海の活用	45.3% (44.8%)
3 里海づくりに参加できる活動の場の提供	34.9% (35.3%)
4 地域の中心となって里海づくりをけん引する人材の育成	24.4% (24.6%)
5 企業など社会貢献活動として行う里海づくり活動 (例えば、従業員による海岸清掃など) への支援	23.5% (23.5%)
6 その他 (具体的に: _____) (無回答)	2.0% ( 2.1%) 2.6% ( 2.7%)

県民の参加を促すための県の「里海づくり」施策で重要なものについて、「幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動」51.2%が最も高く、次いで「学校などの環境教育・環境学習の場としての海の活用」45.3%、「里海づくりに参加できる活動の場の提供」34.9%、「地域の中心となって里海づくりをけん引する人材の育成」24.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動」50.5%が最も高く、次いで「学校などの環境教育・環境学習の場としての海の活用」44.8%、「里海づくりに参加できる活動の場の提供」35.3%、「地域の中心となって里海づくりをけん引する人材の育成」24.6%などとなっている。

**図表 2-(8)-1 県民の参加を促すための県の「里海づくり」施策で重要なものについて**

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,771 人
(1) 幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動	51.2	907 人
(2) 学校などの環境教育・環境学習の場としての海の活用	45.3	802 人
(3) 里海づくりに参加できる活動の場の提供	34.9	618 人
(4) 地域の中心となって里海づくりをけん引する人材の育成	24.4	433 人
(5) 企業など社会貢献活動として行う里海づくり活動(例えば、従業員による海岸清掃など)への支援	23.5	416 人
(6) その他	2.0	35 人
無回答	2.6	46 人

グラフ単位:(%)



県民の参加を促すための県の「里海づくり」施策で重要なものについて、性別にみると、男女とも「幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動」が最も高く、『男性』51.2%、『女性』51.7%で、これに男女とも「学校などの環境教育・環境学習の場としての海の活用」が『男性』45.3%、『女性』47.7%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』を除くすべての年齢で「幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動」が4～5割台と最も高く、『18～19歳』では「里海づくりに参加できる活動の場の提供」56.3%が最も高く、『30～39歳』では「学校などの環境教育・環境学習の場としての海の活用」54.4%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動」が4～5割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では57.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『西讃圏域』を除くすべての圏域で「幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動」が4～5割台と最も高く、『西讃圏域』では「学校などの環境教育・環境学習の場としての海の活用」46.5%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「学校などの環境教育・環境学習の場としての海の活用」が最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「幅広い県民への分かりやすい啓発広報活動」が最も高くなっている。

図表 2-(8)-2 【県民の参加を促すための県の「里海づくり」施策で重要なものについて】

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
		全体	動 幅 広 い 県 民 へ の 分 か り や す い 啓 発 広 報 活	て の 学 校 な ど の 活 用 環 境 教 育 ・ 環 境 学 習 の 場 と し	里 海 づ く り に 参 加 で き る 活 動 の 場 の 提 供	す る 地 域 の 中 心 と な っ て 里 海 づ く り を けん 引	ど り 企 業 な ど 社 会 貢 献 活 動 と し て 行 う 海 岸 清 掃 な く	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)									
全体		1,771	51.2	45.3	34.9	24.4	23.5	2.0	2.6
性別	男性	780	51.2	45.3	34.9	24.4	23.5	2.0	2.6
	女性	938	51.7	47.7	37.6	23.9	20.8	0.7	2.3
年齢別	18～19歳	16	31.3	31.3	56.3	18.8	25.0	6.3	-
	20～29歳	106	44.3	42.5	36.8	20.8	30.2	3.8	0.9
	30～39歳	182	42.3	54.4	39.0	16.5	28.6	4.9	2.2
	40～49歳	285	53.7	53.0	34.0	18.2	24.9	1.1	0.7
	50～59歳	304	52.3	44.4	36.2	23.4	28.0	0.7	1.6
	60～69歳	425	53.9	46.1	33.2	24.5	21.2	1.9	1.9
	70歳以上	400	54.3	39.0	33.3	34.0	16.3	1.5	5.0
職業別	農林漁業	73	53.4	39.7	35.6	21.9	26.0	1.4	1.4
	商工業、サービス業、自由業など	238	57.1	46.2	30.7	22.7	18.5	3.4	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	49.8	47.1	37.5	20.4	27.1	2.2	1.6
	主婦・主夫	313	53.4	48.2	35.5	29.1	17.3	1.0	2.2
	無職	272	49.6	41.5	30.1	33.1	22.1	0.7	4.4
圏域別	高松圏域	877	50.5	45.3	35.0	24.3	22.8	2.5	2.5
	東讃圏域	143	49.7	42.7	36.4	29.4	19.6	1.4	4.9
	小豆圏域	44	56.8	43.2	31.8	22.7	20.5	4.5	4.5
	中讃圏域	466	55.4	45.7	34.5	24.5	24.0	0.6	2.4
	西讃圏域	241	45.6	46.5	34.9	22.4	27.8	2.5	1.7
居住年数別	3年未満	109	33.9	54.1	40.4	15.6	32.1	2.8	0.9
	3年以上～10年未満	209	47.8	50.7	35.4	25.4	29.2	2.4	1.0
	10年以上～20年未満	284	52.1	50.0	35.9	21.5	24.3	1.8	1.1
	20年以上	1,111	54.0	43.2	33.8	25.7	21.1	1.8	3.0

**(9)「里海づくり」の啓発広報活動の効果的な方法について**

問12 「里海づくり」の啓発広報活動について、どのような方法が効果的だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ・ラジオによる広報	53.0%(53.0%)
2	里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催	51.1%(50.6%)
3	県・市町の広報誌	43.1%(42.4%)
4	インターネット・SNSによる広報	34.3%(36.1%)
5	里海に親しめるフィールドでのイベントの開催	33.1%(32.9%)
6	新聞広告	20.4%(20.0%)
7	パンフレット・ポスターの作成	19.0%(19.0%)
8	講演会・シンポジウムの開催	7.5%( 7.3%)
9	その他（具体的に：_____）	2.0%( 2.0%)
	（無回答）	2.0%( 2.1%)

「里海づくり」の啓発広報活動の効果的な方法について、「テレビ・ラジオによる広報」53.0%が最も高く、次いで「里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催」51.1%、「県・市町の広報誌」43.1%、「インターネット・SNSによる広報」34.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビ・ラジオによる広報」53.0%が最も高く、次いで「里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催」50.6%、「県・市町の広報誌」42.4%、「インターネット・SNSによる広報」36.1%などとなっている。

**図表 2-(9)-1 「里海づくり」の啓発広報活動の効果的な方法について**

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,771 人
(1) テレビ・ラジオによる広報	53.0	939 人
(2) 里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催	51.1	905 人
(3) 県・市町の広報誌	43.1	763 人
(4) インターネット・SNSによる広報	34.3	607 人
(5) 里海に親しめるフィールドでのイベントの開催	33.1	586 人
(6) 新聞広告	20.4	362 人
(7) パンフレット・ポスターの作成	19.0	337 人
(8) 講演会・シンポジウムの開催	7.5	133 人
(9) その他	2.0	35 人
無回答	2.0	35 人

グラフ単位：(%)

「里海づくり」の啓発広報活動の効果的な方法について、性別にみると、『男性』では「テレビ・ラジオによる広報」54.4%が最も高く、『女性』では「里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催」55.1%が最も高くなっている。これに『男性』では「里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催」47.2%、『女性』では「テレビ・ラジオによる広報」52.6%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』では「インターネット・SNSによる広報」が最も高く、『40～49歳』では「里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催」が最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』では「テレビ・ラジオによる広報」が最も高く、『70歳以上』では「県・市町の広報誌」が最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』を除くすべての職業で「テレビ・ラジオによる広報」が5割台と最も高く、『主婦・主夫』では「県・市町の広報誌」、「里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催」57.5%が同率で最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「テレビ・ラジオによる広報」が最も高く、『小豆圏域』では「県・市町の広報誌」が最も高く、『中讃圏域』では「里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「里海に関する県民向けの講座や小・中学校などへの出前授業の開催」が5～6割台と最も高く、『20年以上』では「テレビ・ラジオによる広報」55.8%が最も高くなっている。

図表 2-(9)-2 【「里海づくり」の啓発広報活動の効果的な方法について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	テレビ・ラジオによる広報	里海に関する県民向けの出前授業の開催や小・中学校などへの出前授業の開催	県・市町の広報誌	インターネット・SNSによる広報	里海に親しめるフィールドでのイベントの開催	新聞広告	パンフレット・ポスターの作成	講演会・シンポジウムの開催	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		1,771	53.0	51.1	43.1	34.3	33.1	20.4	19.0	7.5	2.0	2.0
性別	男性	780	54.4	47.2	41.5	34.2	28.3	23.1	20.6	7.8	3.1	1.8
	女性	938	52.6	55.1	43.9	35.4	37.2	18.1	17.7	7.0	1.1	1.7
年齢別	18～19歳	16	56.3	25.0	18.8	75.0	31.3	18.8	18.8	-	6.3	-
	20～29歳	106	56.6	47.2	22.6	72.6	32.1	11.3	18.9	2.8	1.9	0.9
	30～39歳	182	50.0	58.2	24.2	64.3	42.9	7.1	17.6	3.8	3.8	1.6
	40～49歳	285	50.2	58.9	28.4	47.4	35.4	23.5	14.0	3.9	0.7	0.7
	50～59歳	304	52.0	46.4	38.5	37.5	39.5	20.4	19.1	7.6	2.0	1.6
	60～69歳	425	56.0	52.7	49.9	24.5	29.4	21.6	20.5	8.5	2.1	1.2
	70歳以上	400	54.5	48.0	63.8	10.0	26.8	25.3	21.8	11.8	1.8	3.5
職業別	農林漁業	73	56.2	52.1	50.7	15.1	28.8	30.1	11.0	13.7	1.4	1.4
	商工業、サービス業、自由業など	238	52.1	50.8	38.2	38.7	33.2	21.4	18.9	7.1	2.9	0.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	52.4	52.3	35.5	44.6	36.4	17.8	18.7	6.2	2.2	1.4
	主婦・主夫	313	54.6	57.5	57.5	20.4	30.4	20.8	16.3	8.3	1.0	1.6
	無職	272	55.5	43.4	48.9	25.4	28.3	23.9	25.7	8.1	1.8	3.3
圏域別	高松圏域	877	55.2	51.7	38.3	36.3	33.6	21.2	17.8	7.6	2.4	1.9
	東讃圏域	143	54.5	46.2	40.6	26.6	36.4	23.8	21.0	5.6	1.4	5.6
	小豆圏域	44	38.6	47.7	61.4	38.6	29.5	15.9	29.5	6.8	2.3	2.3
	中讃圏域	466	50.9	53.0	48.1	32.4	34.5	20.0	18.7	8.6	1.1	1.3
	西讃圏域	241	51.0	49.0	49.0	34.4	27.0	17.4	21.2	6.2	2.5	1.2
居住年数別	3年未満	109	51.4	62.4	25.7	52.3	36.7	13.8	20.2	3.7	1.8	0.9
	3年以上～10年未満	209	54.1	55.5	31.1	53.1	41.6	12.0	13.9	6.2	2.9	1.0
	10年以上～20年未満	284	44.7	53.9	33.8	46.8	39.4	17.6	20.4	4.9	2.8	1.1
	20年以上	1,111	55.8	49.2	49.1	26.7	29.8	23.2	19.5	8.6	1.6	2.1

### 3. 運動・スポーツについて

#### (1) 過去1年間に運動やスポーツを行った日数について

問13 過去1年間に、運動やスポーツ（ウォーキング（例：散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き）、階段昇降、軽い体操（例：ラジオ体操・職場体操・美容体操）、野外活動（例：登山・キャンプ・釣り）などを含む。）を行った日数はどのくらいありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

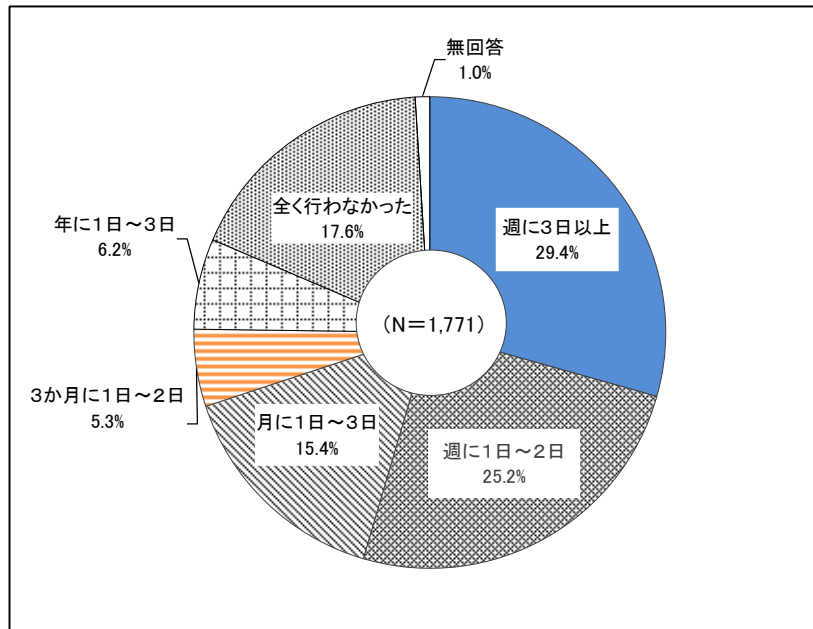
【回答者数=1,771】

1 週に3日以上	29.4%(30.2%)
2 週に1日～2日	25.2%(24.9%)
3 月に1日～3日	15.4%(15.8%)
4 3か月に1日～2日	5.3%( 5.3%)
5 年に1日～3日	6.2%( 5.8%)
6 全く行わなかった (無回答)	17.6%(17.1%) 1.0%( 1.0%)

過去1年間に運動やスポーツを行った日数について、「週に3日以上」29.4%が最も高く、次いで「週に1日～2日」25.2%、「全く行わなかった」17.6%、「月に1日～3日」15.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「週に3日以上」30.2%が最も高く、次いで「週に1日～2日」24.9%、「全く行わなかった」17.1%、「月に1日～3日」15.8%などとなっている。

図表 3-(1)-1 過去1年間に運動やスポーツを行った日数について



過去1年間に運動やスポーツを行った日数について、男女とも「週に3日以上」が最も高く、『男性』30.1%、『女性』28.6%で、これに男女とも「週に1日～2日」が『男性』26.2%、『女性』24.8%と続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』を除くすべての年齢で「週に3日以上」が2～5割台と最も高く、『30～39歳』、『40～49歳』では「週に1日～2日」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「週に1日～2日」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』、『無職』では「週に3日以上」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「週に3日以上」が最も高く、『小豆圏域』では「月に1日～3日」が最も高く、『中讃圏域』では「週に1日～2日」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「週に3日以上」が2～3割と最も高く、『3年未満』では「週に1日～2日」26.6%が最も高くなっている。

図表 3-(1)-2 【過去1年間に運動やスポーツを行った日数について】

		(1) 週に 3日 以上	(2) 日週 に 1日 以上 2	(3) 日月 に 1日 以上 3	(4) 3日 以上 2日 以上 1日 以上	(5) 日年 に 1日 以上 3	(6) か全 った 行わ な	無 回 答	回答数
凡例									
性別	全体	29.4	25.2	15.4	5.3	6.2	17.6	1.0	1,771人
	男性	30.1	26.2	14.9	5.0	6.7	16.3	0.9	780人
	女性	28.6	24.8	16.3	5.8	5.7	17.9	1.0	938人
年齢別	18～19歳	56.3	6.3	25.0	12.5				16人
	20～29歳	34.9	24.5	22.6	5.7	4.7	7.5		106人
	30～39歳	20.9	26.4	20.3	9.3	7.1	15.4	0.5	182人
	40～49歳	21.8	26.0	17.5	7.4	8.4	18.2	0.7	285人
	50～59歳	27.3	22.4	16.1	6.9	8.2	19.1		304人
	60～69歳	30.1	27.1	14.1	4.0	6.1	17.6	0.9	425人
	70歳以上	36.5	26.3	11.3	2.8	3.0	18.0	2.3	400人
職業別	農林漁業	17.8	32.9	13.7	4.1	8.2	23.3		73人
	商工業、サービス業、自由業など	27.7	20.6	19.7	3.8	8.0	17.6	2.5	238人
	会社、商店、官公庁などに勤務	25.0	26.0	16.5	8.0	7.9	16.4	0.4	813人
	主婦・主夫	37.1	25.9	14.1	3.5	3.5	15.0	1.0	313人
	無職	37.9	25.7	12.5	1.8	1.8	19.5	0.7	272人
	高松圏域	31.4	24.5	16.8	4.8	4.8	17.0	0.8	877人
圏域別	東讃圏域	29.4	20.3	13.3	6.3	8.4	20.3	2.1	143人
	小豆圏域	20.5	22.7	25.0	9.1	6.8	15.9		44人
	中讃圏域	27.5	28.5	14.4	6.2	6.2	16.1	1.1	466人
	西讃圏域	27.8	24.5	12.0	4.1	9.5	21.2	0.8	241人
居住年数別	3年未満	23.9	26.6	21.1	5.5	7.3	15.6		109人
	3年以上～10年未満	27.3	19.6	22.0	8.6	6.7	15.3	0.5	209人
	10年以上～20年未満	29.6	26.8	17.3	7.4	5.6	13.4		284人
	20年以上	30.2	26.1	13.5	4.3	5.9	18.6	1.3	1,111人

グラフ単位：(%)



## (2)実施頻度の高い運動やスポーツの種目について

【問13で「1」～「5」と答えた方にお聞きします】

付問9 実施した運動やスポーツのうち、頻度の高い種目を3つまで記入してください。(学校の授業や、職業として行ったものは除きます。)

【回答者数=1,443】※回答数の多い順に並び替え

1	ウォーキング・散歩散策	82.4%
2	体操・ストレッチ	32.2%
3	スポーツジム・スポーツクラブ・フィットネスジム	8.9%
4	釣り	7.6%
5	階段利用	7.1%
6	サイクリング	6.4%
7	ゴルフ	6.0%
8	ジョギング・ランニング・マラソン	5.4%
9	ヨガ	3.7%
10	バレーボール	2.6%
	(無回答)	3.1%

※上位10項目のみ記載

実施頻度の高い運動やスポーツの種目について、「ウォーキング・散歩散策」82.4%が最も高く、次いで「体操・ストレッチ」32.2%、「スポーツジム・スポーツクラブ・フィットネスジム」8.9%、「釣り」7.6%などとなっている。

図表 3-(2)-1 実施頻度の高い運動やスポーツの種目について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,443 人
(1) ウォーキング・散歩散策	82.4	1,189 人
(2) 体操・ストレッチ	32.2	464 人
(3) スポーツジム・スポーツクラブ・フィットネスジム	8.9	129 人
(4) 釣り	7.6	109 人
(5) 階段利用	7.1	103 人
(6) サイクリング	6.4	92 人
(7) ゴルフ	6.0	87 人
(8) ジョギング・ランニング・マラソン	5.4	78 人
(9) ヨガ	3.7	53 人
(10) バレーボール	2.6	37 人
無回答	3.1	45 人

グラフ単位:(%)

実施頻度の高い運動やスポーツの種目について、性別にみると、男女とも「ウォーキング・散歩散策」が最も高く、『男性』74.3%、『女性』89.4%で、これに男女とも「体操・ストレッチ」が『男性』20.0%、『女性』42.2%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「ウォーキング・散歩散策」が6～8割台と最も高くなっており、『70歳以上』では87.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ウォーキング・散歩散策」が7～9割台と最も高くなっており、『農林漁業』では91.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ウォーキング・散歩散策」が7～8割台と最も高くなっており、『高松圏域』では85.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ウォーキング・散歩散策」が7～9割台と最も高くなっており、『3年未満』では90.2%と最も高くなっている。

図表 3-(2)-2 【実施頻度の高い運動やスポーツの種目について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		全体（人）	ウォーキング・散歩 散策	体操・ストレッチ	スポーツジム・スポーツクラブ・フィットネ	釣り	階段利用	サイクリング	ゴルフ	ジョギング・ランニング・マラソン	ヨガ	バレーボール	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)													
全体		1443	82.4	32.2	8.9	7.6	7.1	6.4	6.0	5.4	3.7	2.6	3.1
性別	男性	646	74.3	20.0	9.9	12.5	5.9	8.5	11.3	8.4	0.6	1.9	4.0
	女性	761	89.4	42.2	8.1	3.4	8.1	4.6	1.8	2.9	6.3	3.3	2.1
年齢別	18～19歳	14	64.3	14.3	21.4	14.3	-	21.4	-	-	14.3	-	-
	20～29歳	98	71.4	17.3	15.3	8.2	9.2	9.2	2.0	17.3	6.1	4.1	1.0
	30～39歳	153	76.5	23.5	14.4	9.8	4.6	10.5	2.6	7.8	3.9	2.6	2.6
	40～49歳	231	76.2	25.1	10.4	13.0	2.6	7.8	3.0	6.5	3.9	4.8	2.2
	50～59歳	246	85.8	33.7	6.5	5.7	8.1	3.3	5.7	6.5	3.3	4.9	0.8
	60～69歳	346	85.8	37.6	7.8	4.9	10.1	6.4	8.7	2.6	3.2	0.9	2.6
	70歳以上	319	87.8	38.9	6.0	6.6	7.2	4.4	9.4	2.2	3.1	0.9	6.6
職業別	農林漁業	56	91.1	28.6	5.4	10.7	5.4	5.4	5.4	-	3.6	1.8	5.4
	商工業、サービス業、自由業など	190	83.7	27.9	9.5	8.4	7.9	8.4	5.8	7.9	2.6	1.6	2.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	677	77.5	27.5	9.0	8.7	6.6	7.1	6.8	6.9	3.4	3.7	2.4
	主婦・主夫	263	88.2	51.0	9.5	2.3	8.0	2.7	4.2	1.5	6.8	1.9	3.8
	無職	217	87.6	28.1	7.8	9.2	7.4	7.4	7.4	4.6	1.8	1.4	4.1
圏域別	高松圏域	721	85.2	31.9	9.6	6.0	8.0	7.5	7.2	6.2	3.3	2.4	2.5
	東讃圏域	111	76.6	24.3	7.2	8.1	3.6	4.5	2.7	3.6	5.4	1.8	10.8
	小豆圏域	37	75.7	43.2	5.4	18.9	2.7	-	10.8	-	2.7	2.7	5.4
	中讃圏域	386	80.3	36.0	9.1	9.3	7.3	5.7	5.7	5.4	4.9	2.8	1.8
	西讃圏域	188	80.9	27.7	8.0	7.4	6.4	5.9	3.2	4.3	1.6	3.2	3.2
居住年数別	3年未満	92	90.2	25.0	15.2	9.8	2.2	6.5	3.3	4.3	2.2	5.4	1.1
	3年以上～10年未満	176	80.1	22.2	11.4	8.0	3.4	4.5	4.0	6.8	4.5	4.5	3.4
	10年以上～20年未満	246	74.4	27.2	13.4	8.1	8.1	8.5	3.3	10.6	4.9	4.9	2.4
	20年以上	890	84.2	36.1	6.6	7.2	8.1	6.2	7.8	3.8	3.4	1.3	3.1

**(3) 運動やスポーツを行った目的やきっかけについて**

付問10 過去1年間、運動やスポーツを行った目的やきっかけはどのようなものですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,443】※回答数の多い順に並び替え

1 体力維持または向上のため	64.9%(64.8%)
2 気分転換になるから	52.4%(52.9%)
3 体重維持または減量のため	39.4%(39.6%)
4 筋力維持または強化のため	38.6%(38.4%)
5 趣味だから	22.9%(23.3%)
6 スポーツ仲間との交流や新しい人との出会いがあるから	15.8%(16.1%)
7 医師等に勧められたから	10.2%( 9.7%)
8 自己の記録や能力を向上させるため	4.6%( 4.7%)
9 その他（具体的に：_____）	6.5%( 6.7%)
（無回答）	1.1%( 1.2%)

運動やスポーツを行った目的やきっかけについて、「体力維持または向上のため」64.9%が最も高く、次いで「気分転換になるから」52.4%、「体重維持または減量のため」39.4%、「筋力維持または強化のため」38.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「体力維持または向上のため」64.8%が最も高く、次いで「気分転換になるから」52.9%、「体重維持または減量のため」39.6%、「筋力維持または強化のため」38.4%などとなっている。

**図表 3-(3)-1 運動やスポーツを行った目的やきっかけについて**

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,443 人
(1) 体力維持または向上のため	64.9	936 人
(2) 気分転換になるから	52.4	756 人
(3) 体重維持または減量のため	39.4	568 人
(4) 筋力維持または強化のため	38.6	557 人
(5) 趣味だから	22.9	331 人
(6) スポーツ仲間との交流や新しい人との出会いがあるから	15.8	228 人
(7) 医師等に勧められたから	10.2	147 人
(8) 自己の記録や能力を向上させるため	4.6	67 人
(9) その他	6.5	94 人
無回答	1.1	16 人

グラフ単位:(%)

運動やスポーツを行った目的やきっかけについて、性別にみると、男女とも「体力維持または向上のため」が最も高く、『男性』67.2%、『女性』62.5%で、これに男女とも「気分転換になるから」が『男性』48.9%、『女性』55.3%と続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』を除くすべての年齢で「体力維持または向上のため」が最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「気分転換になるから」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「体力維持または向上のため」が5～7割台と最も高く、『無職』では73.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「体力維持または向上のため」が5～6割台と最も高く、『高松圏域』では65.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「体力維持または向上のため」が5～6割台と最も高く、『3年未満』では「気分転換になるから」53.3%が最も高くなっている。

図表 3-(3)-2 【運動やスポーツを行った目的やきっかけについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	体力維持または向上のため	気分転換になるから	体重維持または減量のため	筋力維持または強化のため	趣味だから	スポーツ仲間との交流や新しい人との出会いがあるから	医師等に勧められたから	自己の記録や能力を向上させるため	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)												
全体		1,443	64.9	52.4	39.4	38.6	22.9	15.8	10.2	4.6	6.5	1.1
性別	男性	646	67.2	48.9	38.5	37.3	30.7	17.6	11.9	7.4	5.0	1.1
	女性	761	62.5	55.3	40.1	39.0	16.7	13.9	9.1	2.4	7.9	0.9
年齢別	18～19歳	14	57.1	42.9	35.7	35.7	35.7	14.3	-	7.1	-	-
	20～29歳	98	51.0	64.3	44.9	28.6	33.7	17.3	4.1	9.2	8.2	1.0
	30～39歳	153	54.2	55.6	47.7	35.9	21.6	9.8	4.6	3.9	14.4	0.7
	40～49歳	231	51.9	54.1	41.6	28.1	23.8	10.0	6.1	3.9	10.8	0.9
	50～59歳	246	61.4	55.3	41.5	37.8	22.4	14.6	9.3	4.9	5.3	0.4
	60～69歳	346	70.2	50.0	37.9	42.2	24.6	16.5	14.2	5.5	4.0	0.9
	70歳以上	319	79.9	46.7	32.3	45.8	18.5	21.9	15.4	3.1	3.1	1.9
職業別	農林漁業	56	66.1	48.2	37.5	37.5	23.2	12.5	10.7	1.8	5.4	-
	商工業、サービス業、自由業など	190	62.1	50.5	42.1	41.6	23.7	11.1	8.9	6.8	8.4	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	677	59.1	54.8	43.9	33.4	25.4	15.4	7.4	5.6	8.4	0.4
	主婦・主夫	263	73.0	51.7	34.2	43.0	16.0	19.8	14.1	1.1	4.9	1.9
	無職	217	73.7	48.8	30.4	43.8	24.4	16.6	16.6	5.1	1.4	1.8
圏域別	高松圏域	721	65.9	52.1	38.0	40.9	24.0	14.8	10.3	5.3	6.4	1.1
	東讃圏域	111	60.4	54.1	33.3	39.6	26.1	18.9	12.6	7.2	9.0	1.8
	小豆圏域	37	54.1	45.9	29.7	37.8	13.5	13.5	5.4	-	2.7	2.7
	中讃圏域	386	65.5	53.4	42.5	36.5	21.2	17.6	9.3	4.4	7.5	0.3
	西讃圏域	188	64.4	51.6	43.6	33.5	22.3	14.4	11.2	2.1	4.3	2.1
居住年数別	3年未満	92	47.8	53.3	42.4	29.3	26.1	14.1	2.2	2.2	15.2	1.1
	3年以上～10年未満	176	55.7	53.4	46.6	34.1	22.2	7.4	6.8	3.4	9.7	2.8
	10年以上～20年未満	246	62.2	58.1	41.1	32.9	26.8	13.8	6.1	5.7	7.7	0.4
	20年以上	890	68.9	50.6	37.3	41.3	22.0	17.9	13.1	4.9	4.7	0.8

**(4) 今まで以上に運動やスポーツをするための条件について**

問14 どのような条件が整えば、今まで以上に運動やスポーツをすると思いますか。次の中から3つまで選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】※回答数の多い順に並び替え

1 余暇（自由時間）が増加すれば	37.7% (36.8%)
2 一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	30.0% (30.7%)
3 気に入った運動やスポーツがあれば	29.9% (30.3%)
4 スポーツ施設の利用料金が安くなれば	24.6% (24.3%)
5 気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	24.3% (24.0%)
6 スポーツ施設が身近にあれば	23.4% (24.0%)
7 現状で満足している	19.8% (19.6%)
8 スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	9.2% ( 9.3%)
9 スポーツ指導者がいれば	4.8% ( 4.6%)
10 その他（具体的に：_____） （無回答）	4.9% ( 5.0%) 3.8% ( 4.0%)

今まで以上に運動やスポーツをするための条件について、「余暇（自由時間）が増加すれば」37.7%が最も高く、次いで「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」30.0%、「気に入った運動やスポーツがあれば」29.9%、「スポーツ施設の利用料金が安くなれば」24.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「余暇（自由時間）が増加すれば」36.8%が最も高く、次いで「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」30.7%、「気に入った運動やスポーツがあれば」30.3%、「スポーツ施設の利用料金が安くなれば」24.3%などとなっている。

**図表 3-(4)-1 今まで以上に運動やスポーツをするための条件について**

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,771 人
(1) 余暇(自由時間)が増加すれば	37.7	667 人
(2) 一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	30.0	531 人
(3) 気に入った運動やスポーツがあれば	29.9	529 人
(4) スポーツ施設の利用料金が安くなれば	24.6	435 人
(5) 気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	24.3	431 人
(6) スポーツ施設が身近にあれば	23.4	415 人
(7) 現状で満足している	19.8	350 人
(8) スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	9.2	163 人
(9) スポーツ指導者がいれば	4.8	85 人
(10) その他	4.9	86 人
無回答	3.8	68 人

グラフ単位:(%)

今まで以上に運動やスポーツをするための条件について、性別にみると、男女とも「余暇（自由時間）が増加すれば」が最も高く、『男性』39.0%、『女性』37.0%で、これに『男性』は「気に入った運動やスポーツがあれば」、「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」29.1%が同率で続き、『女性』は「気に入った運動やスポーツがあれば」31.3%が続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」、「スポーツ施設が身近にあれば」43.8%が同率で最も高く、『20～29歳』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」42.5%が最も高く、『70歳以上』では「現状で満足している」32.5%が最も高く、それ以外の年齢では「余暇（自由時間）が増加すれば」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「現状で満足している」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「余暇（自由時間）が増加すれば」が最も高く、『主婦・主夫』、『無職』では「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で「余暇（自由時間）が増加すれば」が最も高く、『東讃圏域』では「気に入った運動やスポーツがあれば」35.7%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「余暇（自由時間）が増加すれば」が最も高く、『3年未満』では52.3%と最も高くなっている。



図表 3-(4)-2 【今まで以上に運動やスポーツをするための条件について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		全体(人)	余暇(自由時間)が増加すれば	一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	気に入った運動やスポーツがあれば	スポーツ施設の利用料金が安くなれば	気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	スポーツ施設が身近にあれば	現状で満足している	スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	スポーツ指導者がいれば	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)													
全体		1771	37.7	30.0	29.9	24.6	24.3	23.4	19.8	9.2	4.8	4.9	3.8
性別	男性	780	39.0	29.1	29.1	22.4	21.2	24.1	21.4	9.0	3.8	4.7	3.6
	女性	938	37.0	30.9	31.3	27.1	27.1	23.6	17.8	9.2	5.7	5.1	3.1
年齢別	18～19歳	16	25.0	43.8	31.3	18.8	37.5	43.8	6.3	12.5	-	12.5	-
	20～29歳	106	39.6	42.5	41.5	31.1	25.5	30.2	9.4	8.5	2.8	2.8	0.9
	30～39歳	182	52.7	22.0	42.9	34.6	23.6	26.4	6.0	10.4	3.8	9.3	1.1
	40～49歳	285	54.0	25.6	24.9	34.0	22.1	22.1	13.7	8.1	2.8	6.0	1.1
	50～59歳	304	43.4	36.2	30.9	28.6	23.4	24.3	15.5	8.2	4.9	5.6	2.0
	60～69歳	425	35.1	26.6	29.4	22.1	29.2	22.4	22.6	9.2	5.9	3.1	3.1
	70歳以上	400	18.5	32.3	26.0	13.0	21.3	22.5	32.5	9.8	6.3	4.0	8.0
職業別	農林漁業	73	30.1	26.0	26.0	9.6	17.8	12.3	38.4	12.3	8.2	5.5	5.5
	商工業、サービス業、自由業など	238	46.6	27.3	30.3	25.2	23.9	21.4	15.5	6.7	6.3	6.7	2.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	50.4	30.5	30.9	30.6	26.1	25.0	12.1	9.0	3.7	4.6	1.4
	主婦・主夫	313	20.4	31.3	30.7	18.2	24.9	23.0	27.2	10.9	6.7	3.8	5.8
	無職	272	15.8	32.0	29.8	19.9	21.7	27.2	31.3	8.5	3.7	5.5	4.8
圏域別	高松圏域	877	35.1	29.9	30.1	26.9	26.9	25.1	18.2	9.4	4.7	5.9	3.8
	東讃圏域	143	32.9	30.8	35.7	18.9	20.3	27.3	26.6	7.7	1.4	2.8	7.7
	小豆圏域	44	43.2	38.6	31.8	13.6	11.4	20.5	20.5	9.1	4.5	4.5	4.5
	中讃圏域	466	40.8	27.9	29.2	25.3	23.0	21.9	20.6	9.2	5.4	3.4	3.0
	西讃圏域	241	42.7	32.4	26.6	19.9	22.4	18.7	19.5	9.5	6.2	5.0	3.3
居住年数別	3年未満	109	52.3	35.8	33.9	27.5	22.9	25.7	11.0	9.2	1.8	10.1	-
	3年以上～10年未満	209	45.9	26.3	31.6	33.5	23.9	26.8	10.0	9.6	4.3	3.8	2.9
	10年以上～20年未満	284	43.0	32.7	27.8	28.2	25.7	28.5	14.4	10.6	4.9	7.4	0.4
	20年以上	1111	33.8	29.7	30.3	22.3	24.3	22.0	23.4	8.6	5.2	4.1	4.3

(5) 県立スポーツ施設の利用について

問15 県立スポーツ施設（香川県総合運動公園・香川県立丸亀競技場・香川県立総合水泳プール・香川県立武道館）を利用したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。（※「利用」には、スポーツの観戦や応援も含まれます。）

※（）内の割合はウェイトバックした値

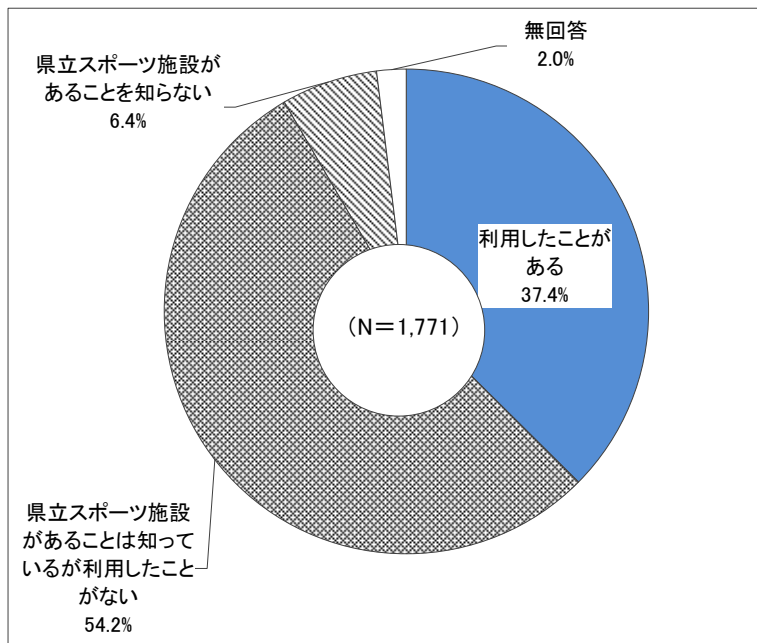
【回答者数=1,771】

1 利用したことがある	37.4%(39.0%)
2 県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない	54.2%(52.3%)
3 県立スポーツ施設があることを知らない	6.4%( 6.7%)
(無回答)	2.0%( 2.0%)

県立スポーツ施設の利用について、「県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない」54.2%が最も高く、次いで「利用したことがある」37.4%、「県立スポーツ施設があることを知らない」6.4%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない」52.3%が最も高く、次いで「利用したことがある」39.0%、「県立スポーツ施設があることを知らない」6.7%となっている。

図表 3-(5)-1 県立スポーツ施設の利用について



県立スポーツ施設の利用について、性別にみると、男女とも「県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない」が最も高く、『男性』57.1%、『女性』51.3%で、これに男女ともに「利用したことがある」が『男性』33.7%、『女性』41.7%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「利用したことがある」が5～9割台と最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない」が5～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない」が最も高く、『主婦・主夫』では59.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない」が最も高く、『小豆圏域』では61.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「利用したことがある」が最も高く、『3年以上～10年未満』では「利用したことがある」、「県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない」が同率で最も高く、『20年以上』では「県立スポーツ施設があることは知っているが利用したことがない」59.4%が最も高くなっている。

図表 3-(5)-2 【県立スポーツ施設の利用について】

		(1) が利 ある した こ と	(2) こ と が 施 設 が 利 用 し て い たい	(3) と 施 設 を 設 立 が ス ポ ー ツ に な る こ と	無 回 答	回答数
凡 例						
全 体		37.4	54.2	6.4		2.0 1,771 人
性 別	男 性	33.7	57.1	7.3		1.9 780 人
	女 性	41.7	51.3	5.7		1.4 938 人
年 齢 別	18～19歳	93.8	6.3			16 人
	20～29歳	60.4	33.0	6.6		106 人
	30～39歳	50.5	41.8	7.1	0.5	182 人
	40～49歳	52.3	42.5	5.3		285 人
	50～59歳	44.1	51.6	3.9	0.3	304 人
	60～69歳	26.8	64.9	5.9	2.4	425 人
	70歳以上	21.5	65.0	9.5	4.0	400 人
職 業 別	農林漁業	27.4	57.5	12.3	2.7	73 人
	商工業、サービス業、自由業など	36.6	53.4	8.0	2.1	238 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	44.5	50.4	4.3	0.7	813 人
	主婦・主夫	31.9	59.4	7.0	1.6	313 人
	無職	30.9	58.1	8.8	2.2	272 人
圏 域 別	高松圏域	43.3	51.1	4.2	1.4	877 人
	東讃圏域	28.7	58.7	9.1	3.5	143 人
	小豆圏域	18.2	61.4	15.9	4.5	44 人
	中讃圏域	35.6	55.2	7.3	1.9	466 人
	西讃圏域	28.2	59.3	9.5	2.9	241 人
居 住 年 数 別	3年未満	53.2	42.2	4.6		109 人
	3年以上～10年未満	44.0	44.0	11.0	1.0	209 人
	10年以上～20年未満	51.1	44.7	3.9	0.4	284 人
	20年以上	32.2	59.4	6.3	2.1	1,111 人

グラフ単位:(%)

**(6) 体育の授業のうち好きな種目・嫌いな種目について**

問16 小学生から高校生の間を受けた体育の授業（実技）のうち、好きな種目と嫌いな種目は何ですか。それぞれ1～8の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

(単位：%)

種目名	好きな種目	嫌いな種目
1 体づくり運動（体操）	4.5(4.4)	1.8(1.9)
2 器械運動（マット運動、鉄棒運動等）	3.3(3.0)	18.7(18.2)
3 陸上競技（短距離走、走り幅跳び等）	8.1(8.0)	9.2(9.4)
4 水泳	10.9(10.8)	12.7(12.3)
5 球技（サッカー、バレーボール等）	32.7(32.7)	3.7(3.7)
6 武道（柔道、剣道等）	3.3(3.3)	6.4(6.3)
7 ダンス	4.6(5.0)	10.8(10.8)
8 特にない	15.8(15.2)	15.6(15.4)
(無回答)	16.7(17.6)	21.1(22.0)

体育の授業のうち好きな種目・嫌いな種目について、好きな種目は「球技（サッカー、バレーボール等）」32.7%が最も高く、次いで「特にない」15.8%、「水泳」10.9%、「陸上競技（短距離走、走り幅跳び等）」8.1%などとなっている。嫌いな種目は「器械運動（マット運動、鉄棒運動等）」18.7%が最も高く、次いで「特にない」15.6%、「水泳」12.7%、「ダンス」10.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、好きな種目は「球技（サッカー、バレーボール等）」32.7%が最も高く、次いで「特にない」15.2%、「水泳」10.8%、「陸上競技（短距離走、走り幅跳び等）」8.0%などとなっている。嫌いな種目は「器械運動（マット運動、鉄棒運動等）」18.2%が最も高く、次いで「特にない」15.4%、「水泳」12.3%、「ダンス」10.8%などとなっている。

図表 3-(6)-1 体育の授業のうち好きな種目・嫌いな種目について

	回答数	
全体	100.0 100.0	1,771 人 1,771 人
(1) 体づくり運動(体操)	4.5 1.8	80 人 31 人
(2) 器械運動(マット運動、鉄棒運動等)	3.3 18.7	58 人 331 人
(3) 陸上競技(短距離走、走り幅跳び等)	8.1 9.2	143 人 163 人
(4) 水泳	10.9 12.7	193 人 225 人
(5) 球技(サッカー、バレーボール等)	32.7 3.7	580 人 65 人
(6) 武道(柔道、剣道等)	3.3 6.4	59 人 113 人
(7) ダンス	4.6 10.8	82 人 192 人
(8) 特にない	15.8 15.6	280 人 277 人
無回答	16.7 21.1	296 人 374 人

グラフ単位:(%)

体育の授業のうち好きな種目について、性別にみると、男女とも「球技（サッカー、バレーボール等）」が最も高く、『男性』36.9%、『女性』29.7%で、これに男女とも「水泳」が『男性』10.4%、『女性』11.2%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「球技（サッカー、バレーボール等）」が最も高く、『18～19歳』では56.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「球技（サッカー、バレーボール等）」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では40.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「球技（サッカー、バレーボール等）」が最も高く、『中讃圏域』では34.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「球技（サッカー、バレーボール等）」が最も高く、『10年以上～20年未満』では37.0%と最も高くなっている。

図表 3-(6)-2 【体育の授業のうち好きな種目について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		全体 (人)	球技 (サッカー、 バレーボール等)	特 に ない	水 泳	陸 上 競 技 (短距離走、 走り幅跳び等)	ダ ン ス	体 つ く り 運 動 (体操)	器 械 運 動 (マット運動、 鉄棒運動等)	武 道 (柔道、 剣道等)	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)											
全体		1,771	32.7	15.8	10.9	8.1	4.6	4.5	3.3	3.3	16.7
性別	男性	780	36.9	13.1	10.4	8.6	0.5	2.3	2.9	6.8	18.5
	女性	938	29.7	18.3	11.2	7.5	8.1	6.3	3.5	0.5	14.8
年齢別	18～19歳	16	56.3	6.3	-	-	31.3	-	-	-	6.3
	20～29歳	106	40.6	9.4	13.2	6.6	4.7	1.9	2.8	1.9	18.9
	30～39歳	182	39.0	8.2	14.3	9.9	5.5	0.5	2.2	3.8	16.5
	40～49歳	285	39.3	13.7	15.8	8.8	4.9	1.8	2.8	2.1	10.9
	50～59歳	304	39.1	17.1	10.2	9.2	4.6	2.3	4.3	3.0	10.2
	60～69歳	425	31.3	18.6	10.1	7.1	3.8	6.8	4.0	3.5	14.8
	70歳以上	400	20.0	19.5	6.8	7.3	4.0	8.3	2.8	4.8	26.8
職業別	農林漁業	73	23.3	17.8	12.3	4.1	-	8.2	6.8	8.2	19.2
	商工業、サービス業、自由業など	238	34.0	16.8	9.2	8.8	3.4	4.2	2.9	3.4	17.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	40.3	13.5	12.5	8.1	4.7	1.8	2.7	2.6	13.7
	主婦・主夫	313	20.8	19.8	7.3	8.3	7.3	11.2	4.5	1.3	19.5
	無職	272	27.9	17.3	10.7	7.4	4.0	3.3	2.9	6.6	19.9
圏域別	高松圏域	877	33.3	13.6	11.4	8.2	4.7	4.9	3.4	3.5	17.0
	東讃圏域	143	25.2	16.8	11.2	5.6	3.5	5.6	2.8	5.6	23.8
	小豆圏域	44	27.3	22.7	2.3	9.1	13.6	2.3	2.3	-	20.5
	中讃圏域	466	34.1	18.0	10.3	8.4	4.9	3.6	2.6	2.8	15.2
	西讃圏域	241	33.6	17.8	11.6	8.3	2.9	4.6	4.6	2.9	13.7
居住年数別	3年未満	109	35.8	11.0	9.2	10.1	4.6	0.9	2.8	6.4	19.3
	3年以上～10年未満	209	33.0	13.4	15.8	9.1	5.3	2.4	4.8	1.4	14.8
	10年以上～20年未満	284	37.0	14.4	13.4	9.9	7.0	3.5	2.5	1.1	11.3
	20年以上	1,111	31.8	17.4	9.5	7.0	4.0	5.5	3.2	4.1	17.6



体育の授業のうち嫌いな種目について、性別にみると、『男性』では「特にない」18.1%が最も高く、『女性』では「器械運動（マット運動、鉄棒運動等）」19.8%が最も高くなっている。これに『男性』では「器械運動（マット運動、鉄棒運動等）」17.2%、『女性』では「水泳」16.8%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で「器械運動（マット運動、鉄棒運動等）」が最も高く、『18～19歳』では「陸上競技（短距離走、走り幅跳び等）」が最も高く、『20～29歳』では「水泳」が最も高く、『70歳以上』では「特にない」が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「器械運動（マット運動、鉄棒運動等）」が最も高く、『農林漁業』、『無職』では「特にない」が最も高く、『主婦・主夫』では「水泳」が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「器械運動（マット運動、鉄棒運動等）」が最も高く、『高松圏域』では21.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「器械運動（マット運動、鉄棒運動等）」が最も高く、『3年未満』では「ダンス」が最も高くなっている。

図表 3-(6)-3 【体育の授業のうち嫌いな種目について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	無回答	
		全体 (人)	器械運動 (マット運動、 鉄棒運動等)	特 に ない	水 泳	ダ ン ス	陸 上 競 技 (短距離走、 走り幅跳び等)	球 技 (サッカー、 バレーボール等)	武 道 (柔道、剣道等)	体 つ く り 運 動 (体操)	
【表の見方】 単位=比率(%)											
全体		1,771	18.7	15.6	12.7	10.8	9.2	3.7	6.4	1.8	21.1
性別	男性	780	17.2	18.1	8.5	15.0	5.0	3.1	9.0	1.8	22.4
	女性	938	19.8	13.8	16.8	7.4	12.9	4.1	4.2	1.8	19.3
年齢別	18～19歳	16	18.8	6.3	18.8	12.5	25.0	-	6.3	6.3	6.3
	20～29歳	106	15.1	9.4	16.0	11.3	9.4	5.7	7.5	4.7	20.8
	30～39歳	182	20.3	12.1	8.2	13.7	11.5	5.5	9.9	1.1	17.6
	40～49歳	285	16.8	13.7	14.7	13.0	13.0	5.6	5.3	3.2	14.7
	50～59歳	304	21.1	15.8	17.4	8.2	9.9	3.3	6.9	2.6	14.8
	60～69歳	425	20.7	16.5	14.6	11.8	8.0	2.6	6.8	1.2	17.9
	70歳以上	400	16.0	20.0	8.0	8.8	6.0	2.3	4.3	0.3	34.5
職業別	農林漁業	73	15.1	19.2	9.6	15.1	4.1	2.7	5.5	1.4	27.4
	商工業、サービス業、自由業など	238	21.0	13.4	12.2	8.4	10.5	5.0	4.2	1.3	23.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	19.8	14.8	13.4	12.4	9.5	3.2	7.6	2.7	16.6
	主婦・主夫	313	16.6	16.6	17.3	6.7	11.2	3.8	4.8	0.6	22.4
	無職	272	16.5	19.1	9.2	11.4	7.4	3.3	6.6	1.1	25.4
圏域別	高松圏域	877	21.0	17.1	12.2	10.6	8.2	3.2	6.2	1.7	19.8
	東讃圏域	143	16.8	15.4	10.5	7.7	12.6	2.8	6.3	0.7	27.3
	小豆圏域	44	20.5	15.9	4.5	9.1	9.1	2.3	4.5	-	34.1
	中讃圏域	466	16.3	14.8	15.7	11.2	9.7	3.0	6.2	2.1	21.0
	西讃圏域	241	15.8	12.0	11.6	13.3	10.0	7.5	7.9	2.1	19.9
居住年数別	3年未満	109	13.8	13.8	11.9	14.7	13.8	5.5	6.4	0.9	19.3
	3年以上～10年未満	209	20.1	14.8	12.0	11.5	12.0	2.9	8.1	2.4	16.3
	10年以上～20年未満	284	20.1	13.4	15.1	11.6	13.0	5.3	5.6	2.1	13.7
	20年以上	1,111	18.5	16.7	12.9	10.1	7.4	3.2	6.2	1.7	23.3

(7) 令和4年度に香川県で開催されるインターハイの認知度について

問17 令和4年度に香川県で、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が開催されることを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

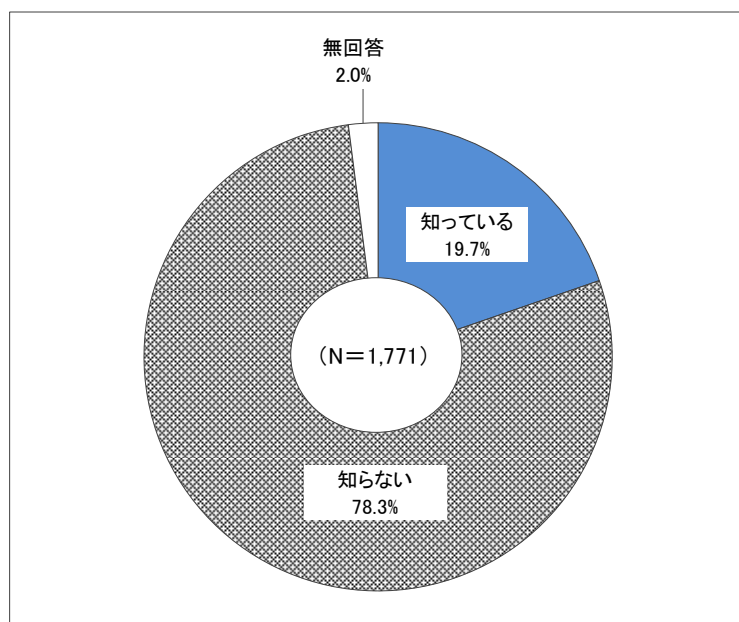
【回答者数=1,771】

1 知っている	19.7% (20.7%)
2 知らない (無回答)	78.3% (77.1%) 2.0% ( 2.2%)

令和4年度に香川県で開催されるインターハイの認知度について、「知らない」78.3%が最も高く、次いで「知っている」19.7%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知らない」77.1%が最も高く、次いで「知っている」20.7%となっている。

図表 3-(7)-1 令和4年度に香川県で開催されるインターハイの認知度について



令和4年度に香川県で開催されるインターハイの認知度について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』76.2%、『女性』80.5%で、これに男女とも「知っている」が『男性』21.5%、『女性』18.2%と続いている。

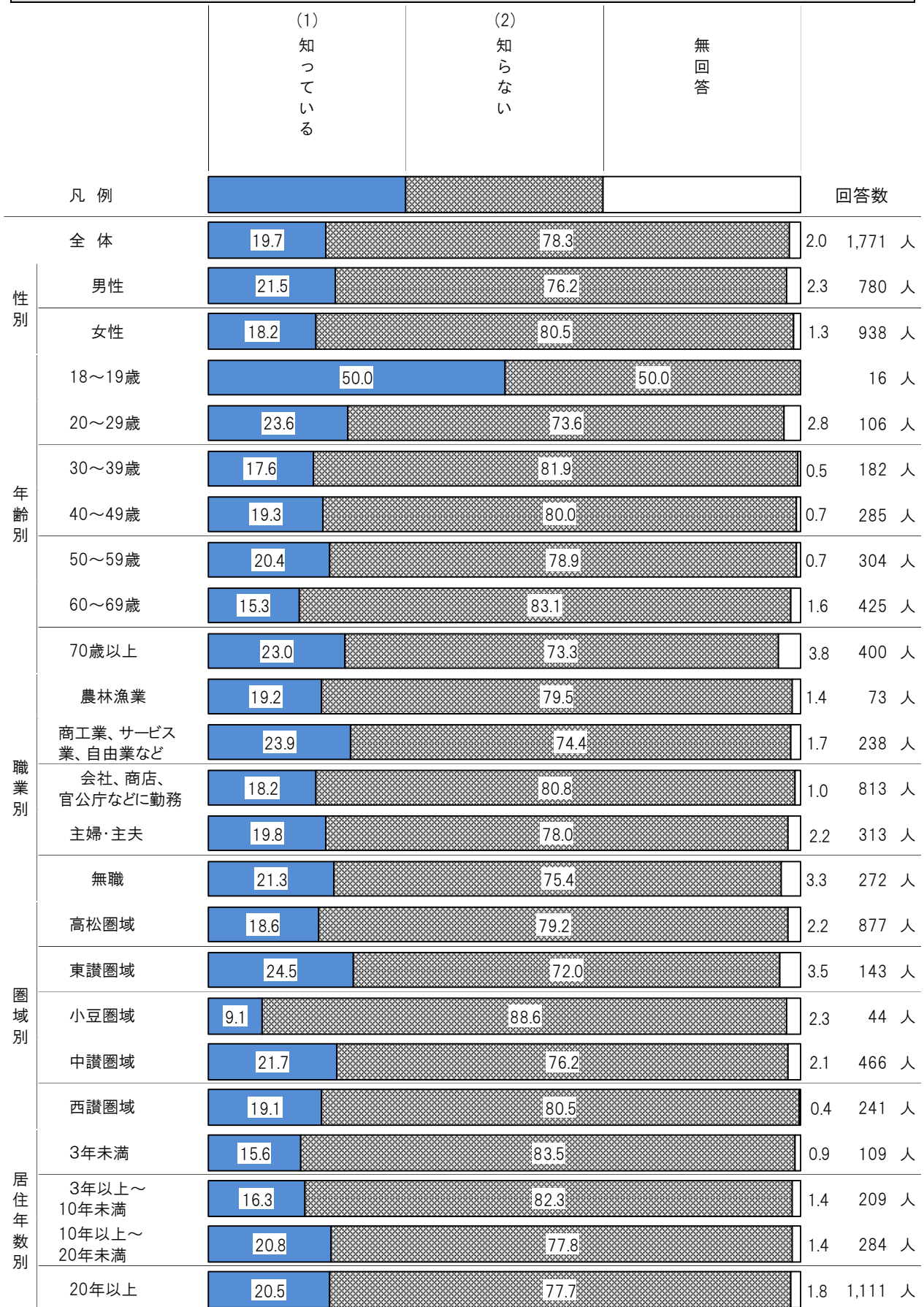
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「知らない」が最も高く、『60～69歳』では83.1%と最も高くなっている。『18～19歳』では「知っている」、「知らない」が同率で50.0%となっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では80.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『小豆圏域』では88.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『3年未満』では83.5%と最も高くなっている。

図表 3-(7)-2 【令和4年度に香川県で開催されるインターハイの認知度について】



グラフ単位:(%)

**(8) インターハイで必要と思う来県者へのおもてなしについて**

問18 令和4年度のインターハイでは、9競技10種目が開催され、約7,000人の選手・監督が来県します。来県者へのおもてなしについて必要だと思うものを、次の中からすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】※回答数の多い順に並び替え

1	ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する	52.9%(52.1%)
2	観光マップを作成する	47.7%(47.4%)
3	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で、大会情報や観光案内を情報発信する	45.9%(45.8%)
4	主要な駅や空港などに案内所を設置する	45.4%(45.2%)
5	環境美化活動を積極的に行う	44.2%(43.6%)
6	試合以外の式典行事などを簡素化する	31.0%(31.1%)
7	特産品販売所を大会会場や主要な駅、空港などに設置する	30.5%(30.5%)
8	会場や会場周辺に歓迎のぼり旗などを設置する	25.5%(25.4%)
9	大会オリジナル商品や限定メニューなどを開発・販売する	16.1%(16.4%)
10	その他（具体的に：_____）	6.7%(6.7%)
	（無回答）	3.9%(4.2%)

インターハイで必要と思う来県者へのおもてなしについて、「ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する」52.9%が最も高く、次いで「観光マップを作成する」47.7%、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で、大会情報や観光案内を情報発信する」45.9%、「主要な駅や空港などに案内所を設置する」45.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する」52.1%が最も高く、次いで「観光マップを作成する」47.4%、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で、大会情報や観光案内を情報発信する」45.8%、「主要な駅や空港などに案内所を設置する」45.2%などとなっている。

図表 3-(8)-1 インターハイで必要と思う来県者へのおもてなしについて

		回答数
全体	100.0	1,771 人
(1) ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する	52.9	937 人
(2) 観光マップを作成する	47.7	844 人
(3) ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)で、大会情報や観光案内を情報発信する	45.9	813 人
(4) 主要な駅や空港などに案内所を設置する	45.4	804 人
(5) 環境美化活動を積極的に行う	44.2	782 人
(6) 試合以外の式典行事などを簡素化する	31.0	549 人
(7) 特産品販売所を大会会場や主要な駅、空港などに設置する	30.5	541 人
(8) 会場や会場周辺に歓迎のぼり旗などを設置する	25.5	451 人
(9) 大会オリジナル商品や限定メニューなどを開発・販売する	16.1	286 人
(10) その他	6.7	118 人
無回答	3.9	69 人

グラフ単位:(%)

インターハイで必要と思う来県者へのおもてなしについて、性別にみると、男女とも「ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する」が最も高く、『男性』51.5%、『女性』54.8%で、これに男女とも「観光マップを作成する」が『男性』44.7%、『女性』50.4%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』では「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で、大会情報や観光案内を情報発信する」が最も高く、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する」が最も高く、『70歳以上』では「観光マップを作成する」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では55.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する」が最も高く、『西讃圏域』では54.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で、大会情報や観光案内を情報発信する」が最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「ホームページで、大会情報や周辺情報、特産品などを紹介する」が最も高くなっている。



図表 3-(8)-2 【インターハイで必要と思う来県者へのおもてなしについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)			
		全体 (人)	ホームページなどで、大会情報や周辺情報を紹介する	観光マップを作成する	内情情報発信する	ソーシャル・ネットワークや観光案内所を設置する	環境美化活動を積極的に行う	試合以外の式典行事などを簡素化する	空港などに設置する	特産品販売所を大会会場や主要な駅、設置する	会場や会場周辺に歓迎のぼり旗などを設置する	大会オリジナル商品や限定メニューなどを発売・販売する	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)														
全体		1,771	52.9	47.7	45.9	45.4	44.2	31.0	30.5	25.5	16.1	6.7	3.9	
性別	男性	780	51.5	44.7	44.2	42.6	40.8	31.4	25.1	25.1	14.9	7.3	4.9	
	女性	938	54.8	50.4	47.7	47.2	47.7	30.6	35.3	25.5	17.5	6.3	2.5	
年齢別	18～19歳	16	50.0	50.0	62.5	37.5	37.5	37.5	18.8	12.5	25.0	6.3	-	
	20～29歳	106	46.2	40.6	56.6	46.2	36.8	28.3	30.2	23.6	22.6	10.4	2.8	
	30～39歳	182	45.1	43.4	59.9	41.2	40.1	40.1	34.6	23.1	19.8	12.1	0.5	
	40～49歳	285	56.1	44.2	48.8	37.5	45.3	30.5	34.0	21.4	13.7	8.8	2.5	
	50～59歳	304	60.5	51.6	53.9	43.8	45.1	28.6	31.9	22.0	17.1	7.6	1.0	
	60～69歳	425	53.4	47.5	43.5	49.4	46.6	31.3	28.2	27.5	16.0	6.1	2.8	
	70歳以上	400	51.5	51.8	31.3	48.8	45.8	29.0	28.8	30.3	14.3	2.0	8.8	
職業別	農林漁業	73	53.4	42.5	37.0	47.9	43.8	27.4	24.7	23.3	9.6	4.1	2.7	
	商工業、サービス業、自由業など	238	52.5	42.9	44.1	41.6	42.4	30.3	26.9	26.5	13.9	7.1	5.9	
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	55.5	48.7	53.0	45.0	45.0	31.1	33.5	24.5	17.7	8.4	1.6	
	主婦・主夫	313	52.1	50.5	40.3	48.6	47.9	33.9	30.7	26.8	15.7	4.8	3.2	
	無職	272	50.0	48.2	36.8	43.4	41.5	29.0	26.8	25.7	16.5	4.8	7.0	
圏域別	高松圏域	877	53.5	47.3	46.9	47.2	44.2	32.0	33.2	24.1	16.9	7.2	3.9	
	東讃圏域	143	53.1	47.6	43.4	42.0	36.4	29.4	21.7	34.3	17.5	5.6	6.3	
	小豆圏域	44	47.7	45.5	36.4	43.2	36.4	27.3	36.4	15.9	4.5	4.5	6.8	
	中讃圏域	466	51.3	49.6	46.4	43.3	44.6	29.4	29.8	25.5	16.3	6.0	3.0	
	西讃圏域	241	54.8	45.6	44.8	45.2	49.0	32.0	26.6	27.0	14.5	7.1	3.7	
居住年数別	3年未満	109	56.0	51.4	58.7	37.6	36.7	37.6	30.3	22.0	18.3	11.9	1.8	
	3年以上～10年未満	209	51.7	43.5	54.1	37.8	40.7	34.4	33.0	21.1	15.3	8.6	1.9	
	10年以上～20年未満	284	55.6	41.9	50.4	45.1	45.8	32.4	32.4	22.9	19.0	8.8	2.5	
	20年以上	1,111	52.9	50.0	42.4	47.4	45.8	29.3	29.9	27.1	15.7	5.4	4.1	

## 4. 人生の最終段階における医療・ケアについて

### (1) ACPの認知度について

問19 あなたはACPをご存じですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

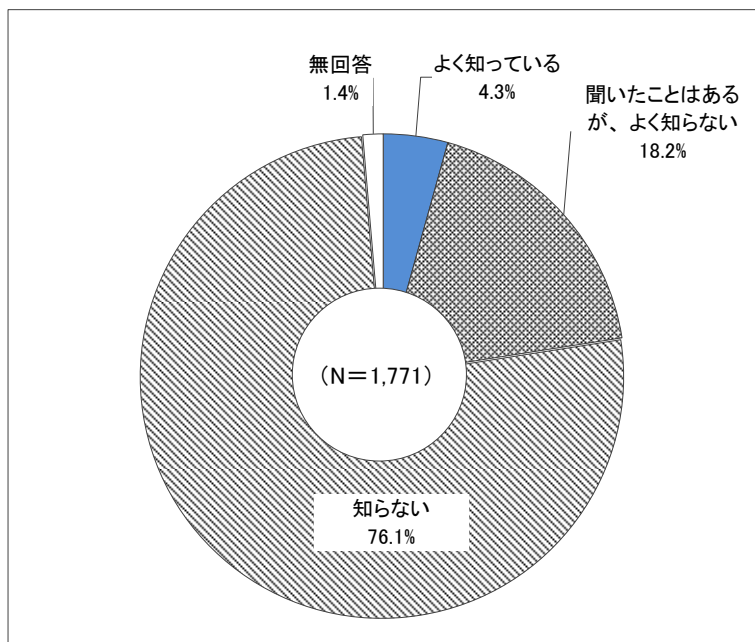
【回答者数=1,771】

1 よく知っている	4.3% ( 4.2%)
2 聞いたことはあるが、よく知らない	18.2% (18.7%)
3 知らない	76.1% (75.6%)
(無回答)	1.4% ( 1.5%)

ACPの認知度について、「知らない」76.1%が最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」18.2%、「よく知っている」4.3%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると「知らない」75.6%が最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」18.7%、「よく知っている」4.2%となっている。

図表 4-(1)-1 ACPの認知度について



ACPの認知度について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』78.8%、『女性』74.4%で、これに男女とも「聞いたことはあるが、よく知らない」が『男性』16.3%、『女性』20.0%と続いている。

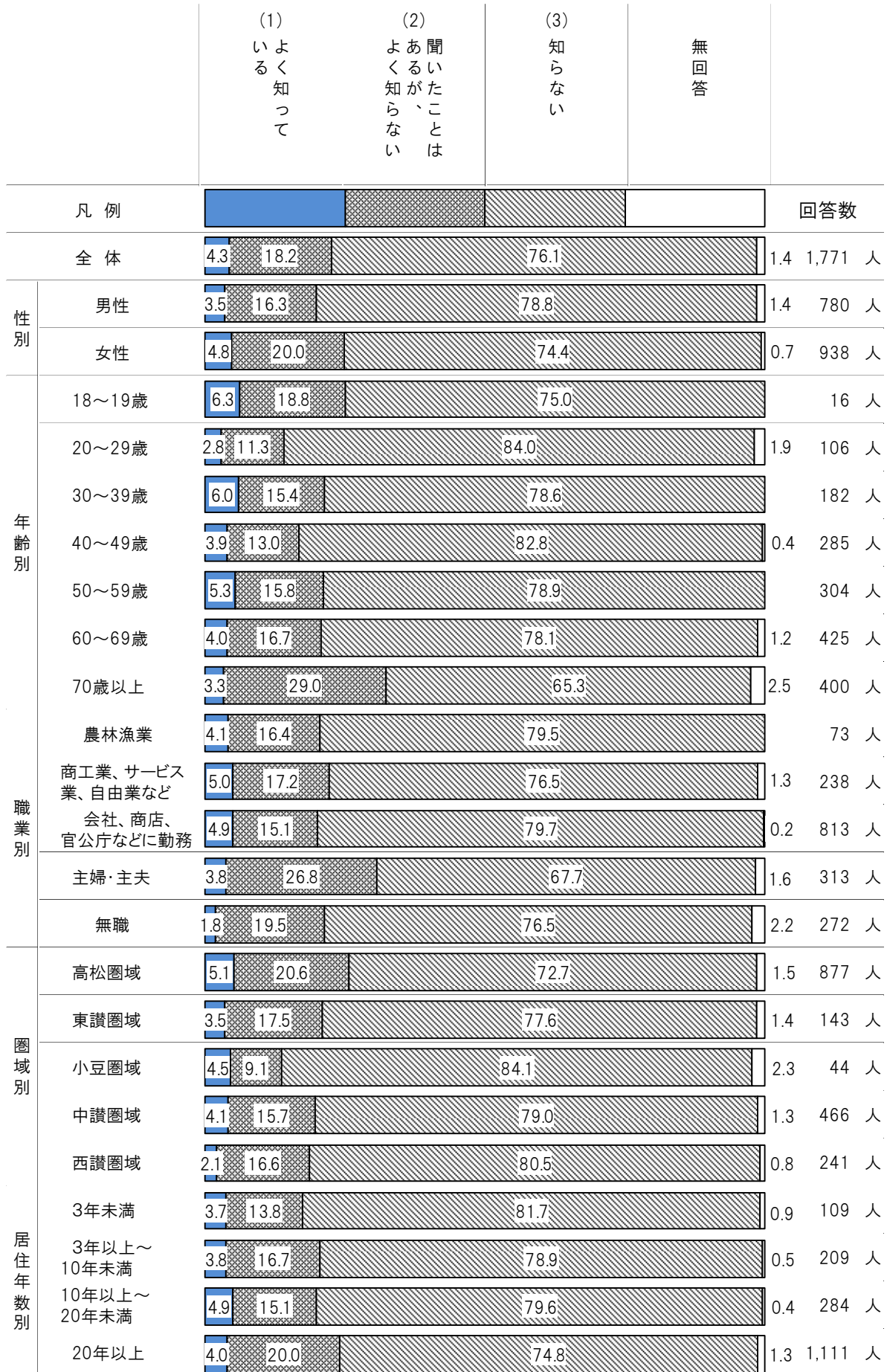
年齢別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『20～29歳』で84.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で79.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『小豆圏域』で84.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『3年未満』で81.7%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-2 【ACPの認知度について】



グラフ単位:(%)

## (2)香川県が実施しているACP講演会の認知度について

問20 香川県が実施している、ACPの講演会などの取り組みをご存じですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

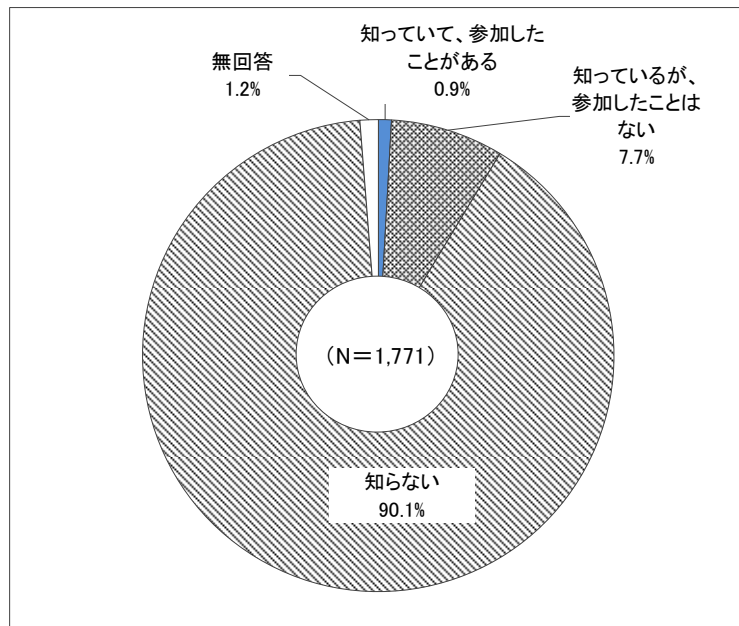
【回答者数=1,771】

1 知っていて、参加したことがある	0.9% ( 0.9%)
2 知っているが、参加したことはない	7.7% ( 8.1%)
3 知らない	90.1% (89.6%)
(無回答)	1.2% ( 1.4%)

香川県が実施しているACP講演会の認知度について、「知らない」90.1%が最も高く、次いで「知っているが、参加したことはない」7.7%、「知っていて、参加したことがある」0.9%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知らない」89.6%が最も高く、次いで「知っているが、参加したことはない」8.1%、「知っていて、参加したことがある」0.9%となっている。

図表 4-(2)-1 香川県が実施しているACP講演会の認知度について



香川県が実施しているACP講演会の認知度について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』91.2%、『女性』90.1%で、これに男女とも「知っているが、参加したことはない」が『男性』6.4%、『女性』8.4%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『40～49歳』で94.7%と最も高くなっている。

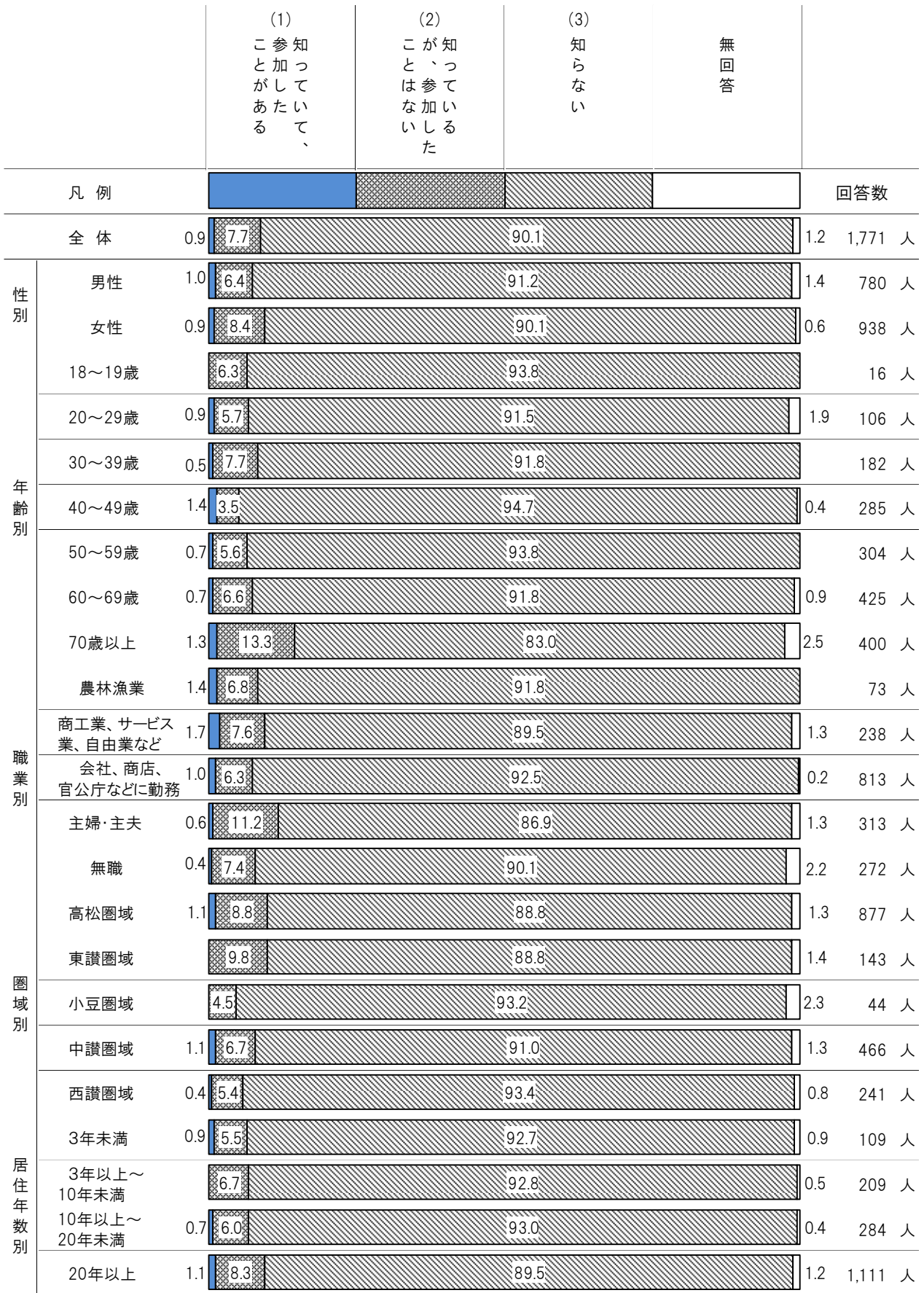
職業別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で92.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『西讃圏域』で93.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が最も高く、『10年以上～20年未満』で93.0%と最も高くなっている。



図表 4-(2)-2 【香川県が実施しているACP講演会の認知度について】



グラフ単位:(%)

### (3)人生の最終段階に受けたい治療を家族と話し合ったことの有無について

問21 人生の最終段階における自分が受けたい治療・ケアについて、家族で話し合ったことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

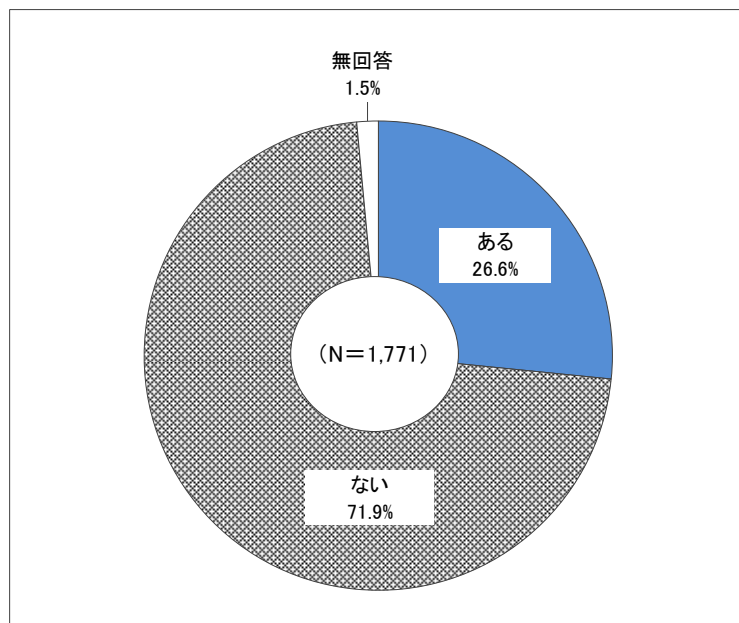
【回答者数=1,771】

1 ある	26.6%(26.1%)
2 ない	71.9%(72.3%)
(無回答)	1.5%(1.6%)

人生の最終段階に受けたい治療を家族と話し合ったことの有無について、「ない」71.9%が最も高く、次いで「ある」26.6%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ない」72.3%が最も高く、次いで「ある」26.1%となっている。

図表 4-(3)-1 人生の最終段階に受けたい治療を家族と話し合ったことの有無について





人生の最終段階に受きたい治療を家族と話し合ったことの有無について、性別にみると、男女とも「ない」が最も高く、『男性』76.2%、『女性』69.4%で、これに男女とも「ある」が『男性』22.3%、『女性』29.6%と続いている。

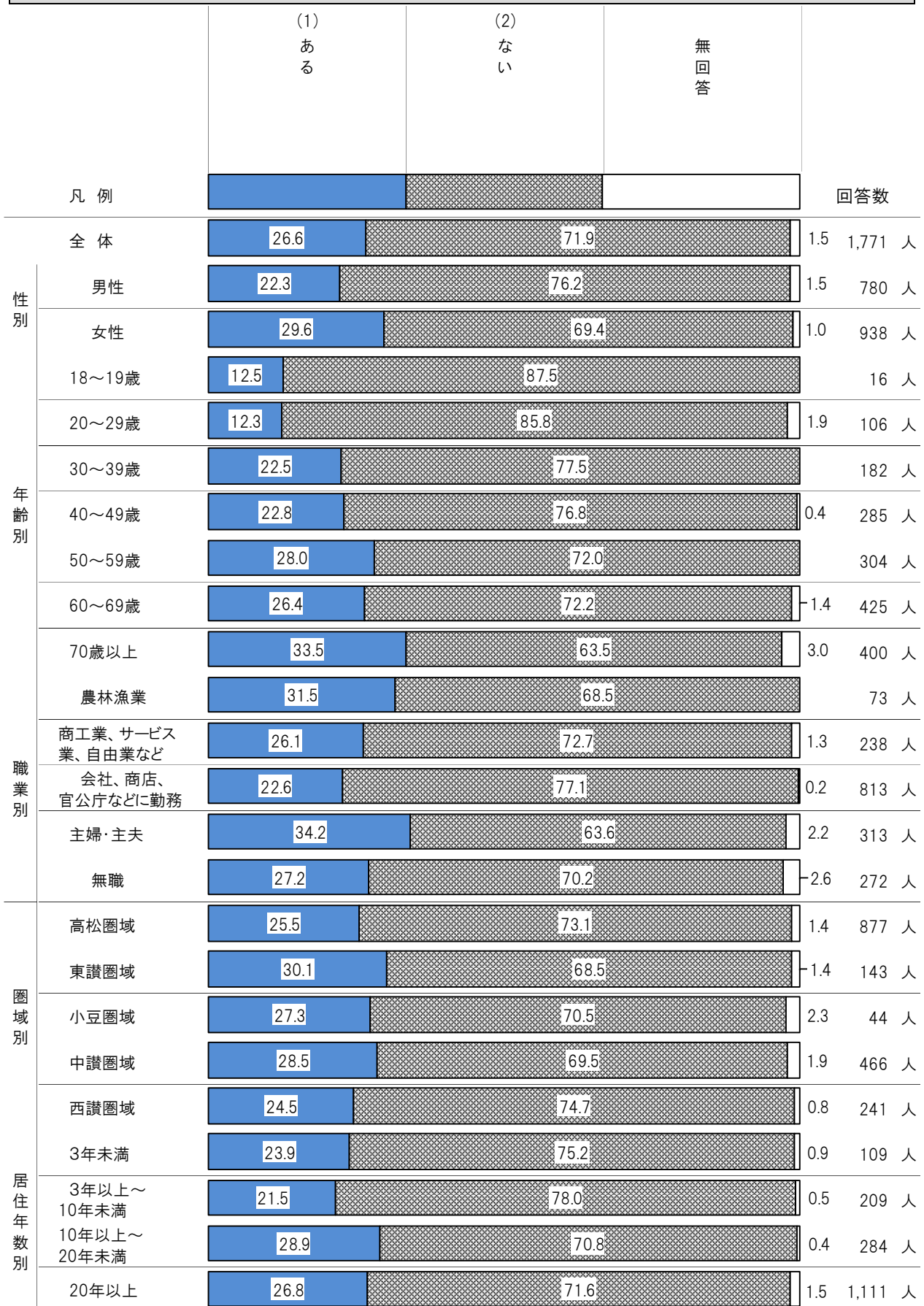
年齢別にみると、いずれも「ない」が最も高く、『18～19歳』では87.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ない」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では77.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ない」が最も高く、『西讃圏域』では74.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ない」が最も高く、『3年以上～10年未満』では78.0%と最も高くなっている。

図表 4-(3)-2 【人生の最終段階に受けたい治療を家族と話し合ったことの有無について】



グラフ単位:(%)

#### (4) かかりつけ医の有無について

問22 あなたには、健康に関することを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関を紹介してくれる、かかりつけ医がいますか。次の中から1つだけ選んでください。

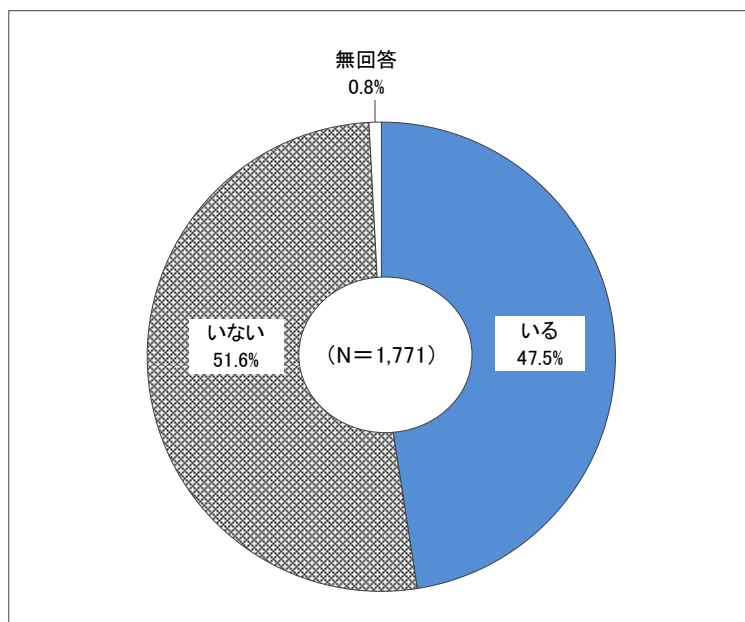
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

1 いる	47.5%(47.0%)
2 いない	51.6%(52.1%)
(無回答)	0.8%(0.8%)

かかりつけ医の有無について、「いない」51.6%が最も高く、次いで「いる」47.5%となっている。ウェイトバック集計した値をみると、「いない」52.1%が最も高く、次いで「いる」47.0%となっている。

図表 4-(4)-1 かかりつけ医の有無について



かかりつけ医の有無について、性別にみると、男女とも「いない」が最も高く、『男性』51.4%、『女性』52.8%で、これに「いる」が『男性』47.9%、『女性』46.8%と続いている。

年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で「いない」が最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「いる」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「いる」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「いない」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『中讃圏域』を除くすべての圏域で「いない」が最も高く、『中讃圏域』では「いる」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「いない」が最も高く、『20年以上』では「いる」が最も高くなっている。

図表 4-(4)-2 【かかりつけ医の有無について】

		(1) いる	(2) いない	無 回 答	回答数	
凡 例						
性別	全 体	47.5	51.6	0.8	1,771 人	
	男 性	47.9	51.4	0.6	780 人	
	女 性	46.8	52.8	0.4	938 人	
年齢別	18～19歳	31.3	68.8		16 人	
	20～29歳	28.3	71.7		106 人	
	30～39歳	20.9	79.1		182 人	
	40～49歳	22.5	77.5		285 人	
	50～59歳	47.0	52.0	1.0	304 人	
	60～69歳	55.1	44.5	0.5	425 人	
	70歳以上	74.8	24.3	1.0	400 人	
	職業別	農林漁業	52.1	46.6	1.4	73 人
		商工業、サービス業、自由業など	46.6	52.9	0.4	238 人
会社、商店、官公庁などに勤務		36.4	63.1	0.5	813 人	
主婦・主夫		62.0	37.7	0.3	313 人	
無職		61.4	37.9	0.7	272 人	
圏域別	高松圏域	47.4	51.9	0.7	877 人	
	東讃圏域	49.0	51.0		143 人	
	小豆圏域	43.2	56.8		44 人	
	中讃圏域	50.0	48.9	1.1	466 人	
	西讃圏域	43.2	55.2	1.7	241 人	
居住年数別	3年未満	25.7	74.3		109 人	
	3年以上～10年未満	35.4	64.6		209 人	
	10年以上～20年未満	34.5	65.1	0.4	284 人	
	20年以上	54.9	44.4	0.7	1,111 人	

グラフ単位:(%)

### (5) 人生の最終段階に受けたい治療をかかりつけ医と話し合ったことの有無について

【問22で「1」と答えた方にお聞きします】

付問11 人生の最終段階における自分が受けたい治療・ケアについて、かかりつけ医と話し合ったことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

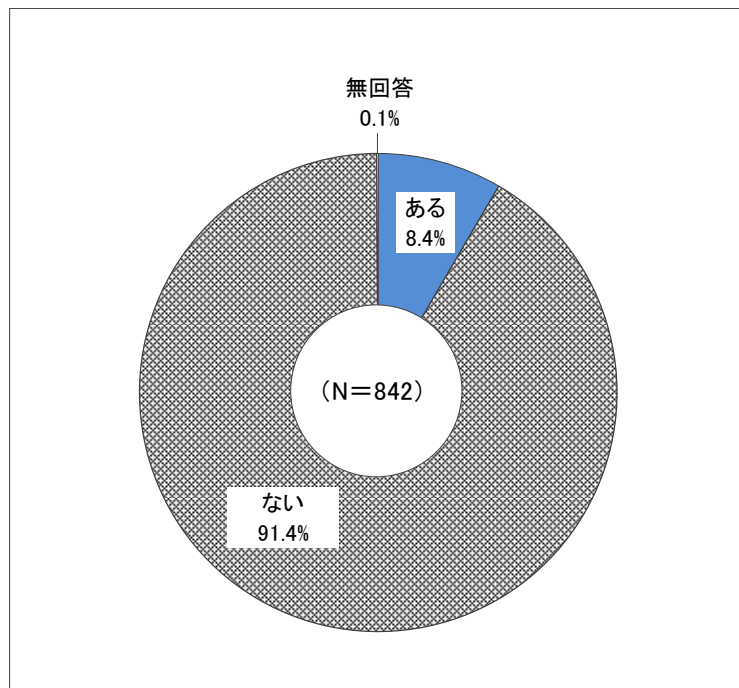
【回答者数=842】

1 ある	8.4%( 9.1%)
2 ない	91.4%(89.7%)
(無回答)	0.1%( 0.1%)

人生の最終段階に受けたい治療をかかりつけ医と話し合ったことの有無について、「ない」91.4%が最も高く、次いで「ある」8.4%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ない」89.7%が最も高く、次いで「ある」9.1%となっている。

図表 4-(5)-1 人生の最終段階に受けたい治療をかかりつけ医と話し合ったことの有無について



人生の最終段階に受たい治療をかかりつけ医と話し合ったことの有無について、性別にみると、男女とも「ない」が最も高く、『男性』87.2%、『女性』95.0%で、これに「ある」が『男性』12.6%、『女性』5.0%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「ない」が最も高く、『18～19歳』では100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ない」が最も高く、『主婦・主夫』では94.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ない」が最も高く、『西讃圏域』では94.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ない」が最も高く、『3年未満』では100.0%と最も高くなっている。



図表 4-(5)-2 【人生の最終段階に受けたい治療をかかりつけ医と話し合ったことの有無について】

		(1) ある	(2) ない	無 回 答	回答数	
凡 例						
性別	全 体	8.4	91.4	0.1	842 人	
	男性	12.6	87.2	0.3	374 人	
	女性	5.0	95.0		439 人	
年齢別	18～19歳		100.0		5 人	
	20～29歳	10.0	90.0		30 人	
	30～39歳	10.5	89.5		38 人	
	40～49歳	4.7	95.3		64 人	
	50～59歳	5.6	94.4		143 人	
	60～69歳	4.7	95.3		234 人	
	70歳以上	13.4	86.3	0.3	299 人	
	職業別	農林漁業	15.8	84.2		38 人
		商工業、サービス業、自由業など	11.7	88.3		111 人
会社、商店、官公庁などに勤務		5.7	94.3		296 人	
主婦・主夫		5.2	94.8		194 人	
無職		13.2	86.2	0.6	167 人	
圏域別	高松圏域	7.9	91.8	0.2	416 人	
	東讃圏域	10.0	90.0		70 人	
	小豆圏域	10.5	89.5		19 人	
	中讃圏域	9.9	90.1		233 人	
	西讃圏域	5.8	94.2		104 人	
居住年数別	3年未満		100.0		28 人	
	3年以上～10年未満	12.2	87.8		74 人	
	10年以上～20年未満	3.1	96.9		98 人	
	20年以上	9.2	90.7	0.2	610 人	

グラフ単位:(%)



(6)代理で治療方針を説明・考えてくれる人を決めているかどうかについて

問23 あなたが意識の無い状態や認知症で正常な判断ができなくなった場合に備えて、代理で治療方針を説明してくれる（考えてくれる）人を決めていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

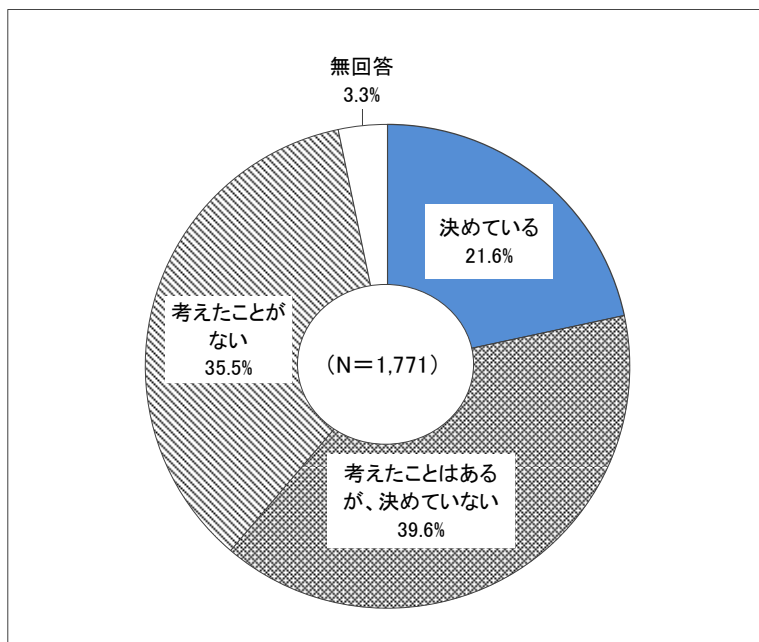
【回答者数=1,771】

1 決めている	21.6% (21.5%)
2 考えたことはあるが、決めていない	39.6% (38.4%)
3 考えたことがない	35.5% (37.0%)
(無回答)	3.3% ( 3.1%)

代理で治療方針を説明・考えてくれる人を決めているかどうかについて、「考えたことはあるが、決めていない」39.6%が最も高く、次いで「考えたことがない」35.5%、「決めている」21.6%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「考えたことはあるが、決めていない」38.4%が最も高く、次いで「考えたことがない」37.0%、「決めている」21.5%となっている。

図表 4-(6)-1 代理で治療方針を説明・考えてくれる人を決めているかどうかについて



代理で治療方針を説明・考えてくれる人を決めているかどうかについて、性別にみると、『男性』では「考えたことがない」41.8%が最も高く、『女性』では「考えたことはあるが、決めていない」43.9%が最も高くなっている。これに『男性』では「考えたことはあるが、決めていない」34.7%、『女性』では「考えたことがない」30.4%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「考えたことがない」が最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「考えたことはあるが、決めていない」が最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で「考えたことはあるが、決めていない」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「考えたことがない」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「考えたことはあるが、決めていない」が最も高く、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「考えたことがない」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「考えたことがない」が最も高く、『20年以上』では「考えたことはあるが、決めていない」が最も高くなっている。

図表 4-(6)-2 【代理で治療方針を説明・考えてくれる人を決めているかどうかについて】

		(1) 決 め て い る	(2) て あ 考 い る え な が た い 、 こ 決 め は	(3) な 考 い え た こ と が	無 回 答	回答数
凡 例						
全 体		21.6	39.6	35.5		3.3 1,771 人
性別	男性	20.1	34.7	41.8		3.3 780 人
	女性	22.9	43.9	30.4		2.8 938 人
年齢別	18～19歳	12.5	12.5	75.0		16 人
	20～29歳	11.3	22.6	66.0		106 人
	30～39歳	20.3	29.1	49.5		1.1 182 人
	40～49歳	17.9	34.4	45.6		2.1 285 人
	50～59歳	21.4	45.1	30.6		3.0 304 人
	60～69歳	21.2	42.8	32.2		3.8 425 人
	70歳以上	28.8	46.8	19.8		4.8 400 人
	農林漁業	20.5	43.8	34.2		1.4 73 人
職業別	商工業、サービス業、自由業など	23.9	40.8	32.4		2.9 238 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	18.1	38.1	41.5		2.3 813 人
	主婦・主夫	29.4	44.4	23.3		2.9 313 人
	無職	21.3	37.5	36.0		5.1 272 人
	高松圏域	21.2	40.4	35.7		2.7 877 人
圏域別	東讃圏域	23.1	34.3	41.3		1.4 143 人
	小豆圏域	13.6	63.6	20.5		2.3 44 人
	中讃圏域	25.8	37.6	32.4		4.3 466 人
	西讃圏域	15.8	39.4	40.2		4.6 241 人
居住年数別	3年未満	25.7	34.9	39.4		109 人
	3年以上～10年未満	19.6	37.8	41.1		1.4 209 人
	10年以上～20年未満	23.6	34.5	39.1		2.8 284 人
	20年以上	21.2	42.0	33.2		3.6 1,111 人

グラフ単位:(%)

### (7)心停止時に救急隊が心肺蘇生を行わなければならないことの認知度について

問24 たとえご本人、ご家族が希望されていなくても、患者さんの心臓が止まっていた場合、救急隊は心肺蘇生を行わなければならないことを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

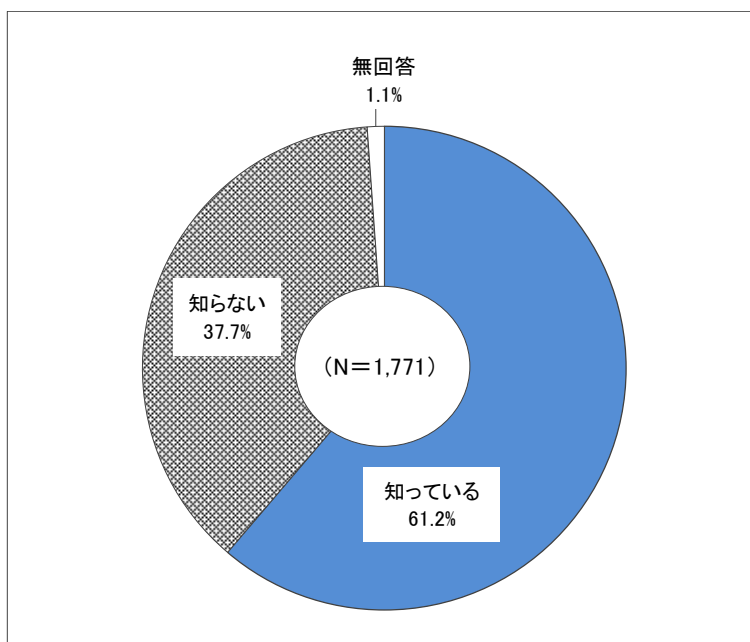
【回答者数=1,771】

1 知っている	61.2%(61.5%)
2 知らない (無回答)	37.7%(37.4%)
	1.1%( 1.1%)

心停止時に救急隊が心肺蘇生を行わなければならないことの認知度について、「知っている」61.2%が最も高く、次いで「知らない」37.7%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知っている」61.5%が最も高く、次いで「知らない」37.4%となっている。

図表 4-(7)-1 心停止時に救急隊が心肺蘇生を行わなければならないことの認知度について



心停止時に救急隊が心肺蘇生を行わなければならないことの認知度について、性別にみると、男女とも「知っている」が最も高く、『男性』59.1%、『女性』62.8%で、これに「知らない」が『男性』40.0%、『女性』36.2%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「知っている」が最も高く、『20～29歳』では65.1%と最も高くなっている。

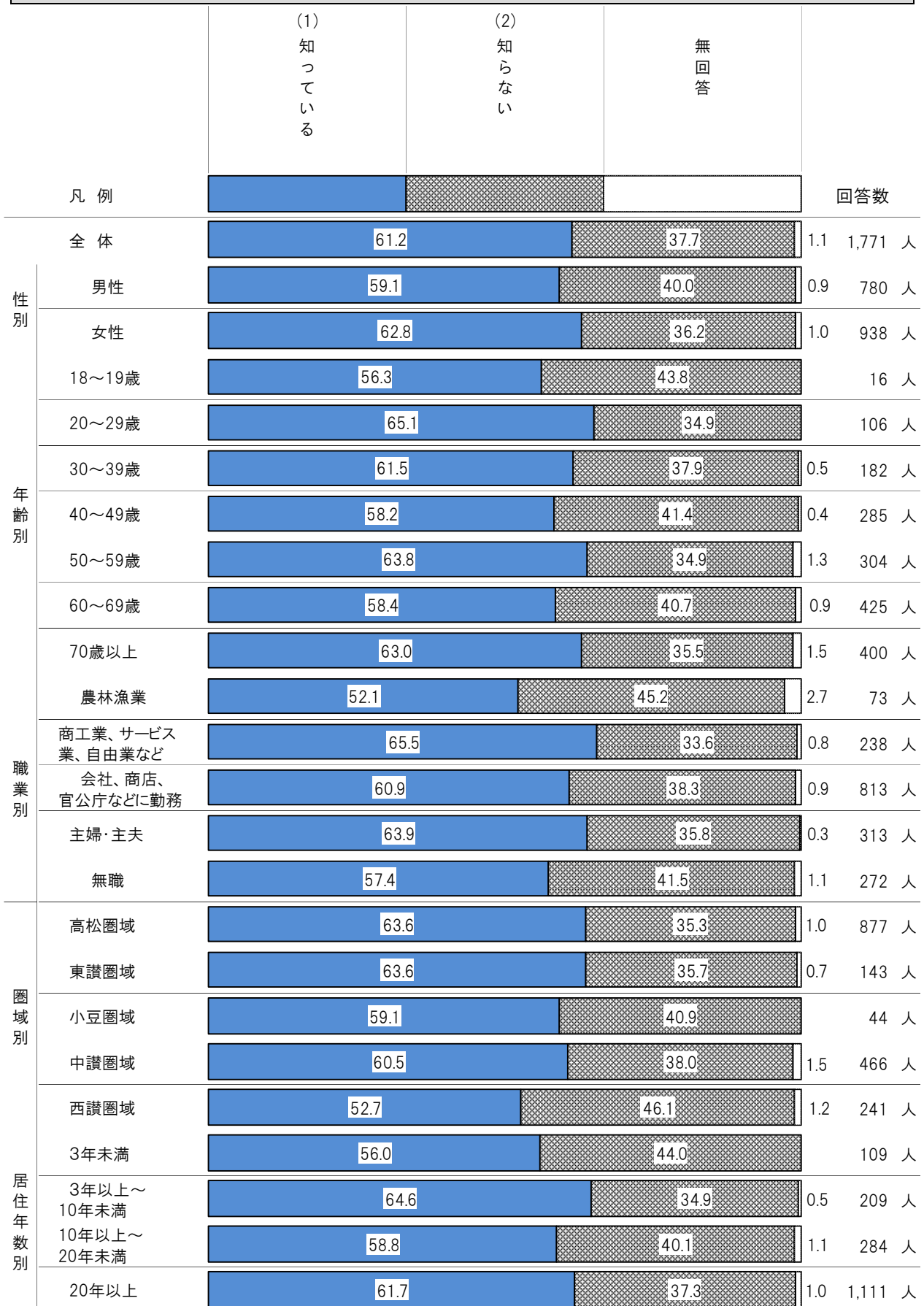
職業別にみると、いずれも「知っている」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では65.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知っている」が最も高く、『高松圏域』、『東讃圏域』では63.6%と同率で最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知っている」が最も高く、『3年以上～10年未満』では64.6%と最も高くなっている。



図表 4-(7)-2 【心停止時に救急隊が心肺蘇生を行わなければならないことの認知度について】



グラフ単位:(%)

**(8) ACPに関する講演会への参加意向について**

問25 今後、ACPについての講演会があった場合、参加してみたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

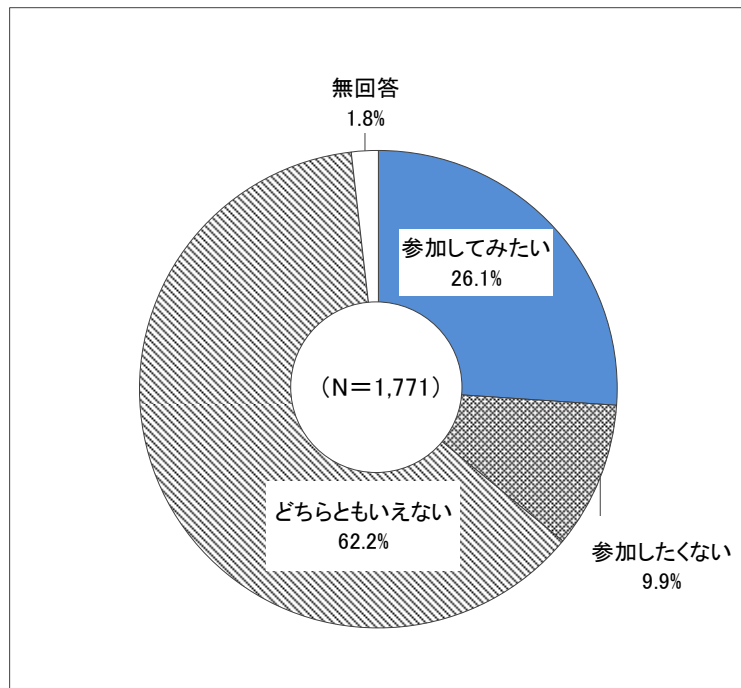
【回答者数=1,771】

1 参加してみたい	26.1%(25.8%)
2 参加したくない	9.9%(10.6%)
3 どちらともいえない (無回答)	62.2%(61.7%) 1.8%( 1.8%)

ACPに関する講演会への参加意向について、「どちらともいえない」62.2%が最も高く、次いで「参加してみたい」26.1%、「参加したくない」9.9%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらともいえない」61.7%が最も高く、次いで「参加してみたい」25.8%、「参加したくない」10.6%となっている。

**図表 4-(8)-1 ACPに関する講演会への参加意向について**



ACPに関する講演会への参加意向について、性別にみると、男女とも「どちらともいえない」が最も高く、『男性』64.5%、『女性』61.2%で、これに男女とも「参加してみたい」が『男性』23.1%、『女性』28.3%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「どちらともいえない」が最も高く、『40～49歳』では69.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「どちらともいえない」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では65.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「どちらともいえない」が最も高く、『東讃圏域』では65.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「どちらともいえない」が最も高く、『3年未満』では68.8%と最も高くなっている。



図表 4-(8)-2 【ACPに関する講演会への参加意向について】

		(1) み参 た加 い し て	(2) な参 い加 し た く	(3) い ど え ち ら な い と も	無 回 答	回答数	
凡 例							
全 体		26.1	9.9	62.2		1.8 1,771 人	
性別	男性	23.1	11.3	64.5		1.2 780 人	
	女性	28.3	8.5	61.2		2.0 938 人	
年齢別	18～19歳	25.0	25.0	50.0		16 人	
	20～29歳	16.0	20.8	63.2		106 人	
	30～39歳	17.0	13.7	68.1		1.1 182 人	
	40～49歳	15.8	14.4	69.8		285 人	
	50～59歳	28.0	7.9	63.2		1.0 304 人	
	60～69歳	28.5	6.8	62.8		1.9 425 人	
	70歳以上	35.5	5.8	55.0		3.8 400 人	
	職業別	農林漁業	24.7	9.6	64.4		1.4 73 人
		商工業、サービス業、自由業など	25.2	10.1	63.9		0.8 238 人
会社、商店、官公庁などに勤務		23.5	9.8	65.6		1.1 813 人	
主婦・主夫		32.6	6.4	58.1		2.9 313 人	
無職		26.5	12.5	58.8		2.2 272 人	
圏域別	高松圏域	26.6	10.0	61.8		1.6 877 人	
	東讃圏域	25.2	8.4	65.0		1.4 143 人	
	小豆圏域	27.3	11.4	61.4		44 人	
	中讃圏域	26.8	8.6	62.0		2.6 466 人	
	西讃圏域	23.2	12.4	62.7		1.7 241 人	
	居住年数別	3年未満	16.5	14.7	68.8		109 人
3年以上～10年未満		23.0	11.5	65.1		0.5 209 人	
10年以上～20年未満		22.5	10.9	65.8		0.7 284 人	
20年以上		28.3	8.6	60.9		2.2 1,111 人	

グラフ単位:(%)

**(9)人生の最終段階における医療・ケアに関する効果的な広報媒体について**

問26 人生の最終段階における医療・ケアについて皆さまに知っていただくためには、どの媒体での広報が効果的だと思いますか。効果的だと思うものを次の中から3つまで選んでください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ	59.3%(59.3%)
2	広報誌・雑誌	43.5%(41.8%)
3	新聞	40.3%(39.8%)
4	チラシ・ポスター	30.2%(29.9%)
5	ホームページ	23.4%(23.0%)
6	SNS (Facebook、Twitter、Instagram等)	20.4%(22.7%)
7	イベント	10.8%(10.2%)
8	インターネット広告 (YouTube 内広告含む)	10.4%(11.3%)
9	ラジオ	8.3%( 8.4%)
10	プロモーション動画 (YouTube 掲載、DVD 制作等)	8.1%( 8.0%)
11	インフルエンサー (パワーブロガー、ユーチューバー等)	5.6%( 6.3%)
12	メールマガジン	1.2%( 1.2%)
13	その他 (具体的に : _____)	2.8%( 2.7%)
	(無回答)	1.9%( 1.8%)

人生の最終段階における医療・ケアに関する効果的な広報媒体について、「テレビ」59.3%が最も高く、次いで「広報誌・雑誌」43.5%、「新聞」40.3%、「チラシ・ポスター」30.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビ」59.3%が最も高く、次いで「広報誌・雑誌」41.8%、「新聞」39.8%、「チラシ・ポスター」29.9%などとなっている。

図表 4-(9)-1 人生の最終段階における医療・ケアに関する効果的な広報媒体について

		回答数
全体	100.0	1,771 人
(1) テレビ	59.3	1,050 人
(2) 広報誌・雑誌	43.5	771 人
(3) 新聞	40.3	714 人
(4) チラシ・ポスター	30.2	534 人
(5) ホームページ	23.4	414 人
(6) SNS(Facebook、Twitter、Instagram等)	20.4	362 人
(7) イベント	10.8	192 人
(8) インターネット広告(YouTube内広告含む)	10.4	184 人
(9) ラジオ	8.3	147 人
(10) プロモーション動画(YouTube掲載、DVD制作等)	8.1	143 人
(11) インフルエンサー(パワーブロガー、ユーチューバー等)	5.6	99 人
(12) メールマガジン	1.2	22 人
(13) その他	2.8	49 人
無回答	1.9	33 人

グラフ単位:(%)

人生の最終段階における医療・ケアに関する効果的な広報媒体について、性別にみると、男女とも「テレビ」が最も高く、『男性』58.8%、『女性』60.1%で、これに『男性』は「新聞」42.3%、『女性』は「広報誌・雑誌」47.7%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「テレビ」が最も高く、『18～19歳』では68.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「テレビ」が最も高く、『農林漁業』では「新聞」が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「テレビ」が最も高く、『東讃圏域』では63.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「テレビ」が最も高く、『3年以上～10年未満』では63.2%と最も高くなっている。

図表 4-(9)-2 【人生の最終段階における医療・ケアに関する効果的な広報媒体について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)		
		全体 (人)	テレビ	広報誌・雑誌	新聞	チラシ・ポスター	ホームページ	INS (Face book、Instagram等)	イベント	インターネット広告 (YouTube内広告含む)	ラジオ	プロモーション動画 (YouTube掲載、DVD制作等)	インフルエンサー (パワーブロガー、ユーチューバー等)	メールマガジン	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)																
全体		1,771	59.3	43.5	40.3	30.2	23.4	20.4	10.8	10.4	8.3	8.1	5.6	1.2	2.8	1.9
性別	男性	780	58.8	37.8	42.3	29.5	25.6	18.8	9.2	11.2	10.4	8.1	4.5	1.2	4.0	2.2
	女性	938	60.1	47.7	38.6	30.2	22.1	22.5	12.6	9.9	6.4	8.3	6.6	1.4	1.9	1.2
年齢別	18～19歳	16	68.8	12.5	25.0	25.0	12.5	62.5	6.3	31.3	6.3	6.3	12.5	-	-	-
	20～29歳	106	62.3	14.2	24.5	18.9	29.2	53.8	6.6	28.3	8.5	11.3	15.1	0.9	1.9	-
	30～39歳	182	53.3	29.7	19.2	18.1	25.3	48.9	7.7	19.8	5.5	14.3	15.9	1.6	3.3	1.6
	40～49歳	285	57.5	34.4	35.8	23.5	24.9	28.8	13.0	14.4	10.5	9.5	9.1	1.8	2.8	0.7
	50～59歳	304	64.1	44.7	31.9	30.3	27.6	20.4	14.8	10.5	7.6	8.6	5.3	1.6	3.0	2.0
	60～69歳	425	58.6	50.8	47.5	31.5	24.0	9.2	12.0	6.4	7.8	8.2	1.2	0.9	3.3	1.6
	70歳以上	400	60.3	55.3	56.5	40.8	17.8	4.8	8.8	2.3	8.8	3.5	0.8	1.0	2.5	2.5
職業別	農林漁業	73	50.7	50.7	52.1	28.8	20.5	9.6	2.7	11.0	15.1	2.7	5.5	-	1.4	2.7
	商工業、サービス業、自由業など	238	58.4	35.3	39.9	30.7	23.9	23.9	9.7	9.7	6.3	8.8	7.6	2.9	2.5	2.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	813	59.7	39.5	34.1	27.3	26.3	26.6	11.4	14.4	8.2	10.2	7.3	1.2	3.0	1.2
	主婦・主夫	313	61.7	56.5	44.1	34.2	21.4	13.1	14.4	4.8	7.3	5.4	2.2	1.0	2.6	1.0
	無職	272	59.2	44.9	51.1	32.0	19.5	13.2	9.9	6.3	8.8	6.3	3.3	0.7	3.7	2.2
圏域別	高松圏域	877	57.6	42.1	41.6	29.1	25.2	22.2	10.3	11.5	8.9	8.0	5.6	1.1	3.4	1.6
	東讃圏域	143	63.6	39.2	44.8	36.4	12.6	16.1	10.5	7.7	11.9	7.7	4.9	0.7	2.8	2.8
	小豆圏域	44	61.4	45.5	45.5	40.9	22.7	15.9	11.4	2.3	4.5	6.8	6.8	-	2.3	2.3
	中讃圏域	466	60.9	46.6	37.8	32.2	23.0	18.5	9.9	9.9	7.1	8.6	5.8	1.9	2.1	2.1
	西讃圏域	241	59.3	45.2	36.9	24.5	24.1	21.2	14.9	10.4	7.1	7.9	5.4	0.8	1.7	1.7
居住年数別	3年未満	109	50.5	34.9	27.5	20.2	23.9	44.0	10.1	18.3	9.2	7.3	16.5	-	3.7	-
	3年以上～10年未満	209	63.2	36.4	28.7	22.5	24.4	34.9	10.5	16.7	9.6	9.6	10.5	1.4	2.9	1.0
	10年以上～20年未満	284	57.7	37.3	34.2	27.5	28.5	29.6	9.2	14.1	7.7	10.9	6.7	0.7	2.8	1.1
	20年以上	1,111	60.2	46.9	45.5	32.8	22.4	13.7	11.8	7.6	7.9	7.4	3.4	1.5	2.8	2.0

## 5. 県政の重要度と満足度について

県では、平成28年度からの香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画」※1を策定し、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んできました。また、「新・せとうち田園都市創造計画」に基づくこれまでの取り組みの方向性を引き継ぎながら、社会経済情勢の変化や県民の皆さまの意識・ニーズ等を踏まえ、令和3年度からの新たな香川づくりの指針である、「香川県次期総合計画」※2について、今年度半ばまでの策定を目指して現在検討を進めています。

この「香川県次期総合計画」を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要と考えています。

そこで、「新・せとうち田園都市創造計画」で展開してきた24の分野を中心に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いしますので、以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていく上でどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ5段階で評価してください。

### ※1 「新・せとうち田園都市創造計画」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は平成28年度から令和2年度の5年間です。

この計画では、「せとうち田園都市の新たな創造」を基本目標に掲げ、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、人口減少問題の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組み、人口の社会増を伴う、魅力ある瀬戸内香川の生活圏域づくりを進めてきました。

### ※2 「香川県次期総合計画」

令和3年度からの県政運営の基本指針であり、今年度半ばまでの策定を目指して現在検討を進めています。

計画期間は令和3年度から令和7年度の5年間を予定しています。

(1)成長する香川(重要度)

問27 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。

「成長する香川」の実現に向けて展開してきた[1]～[7]と[※]の分野について、あなたの<重要度>と<満足度>を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( )内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

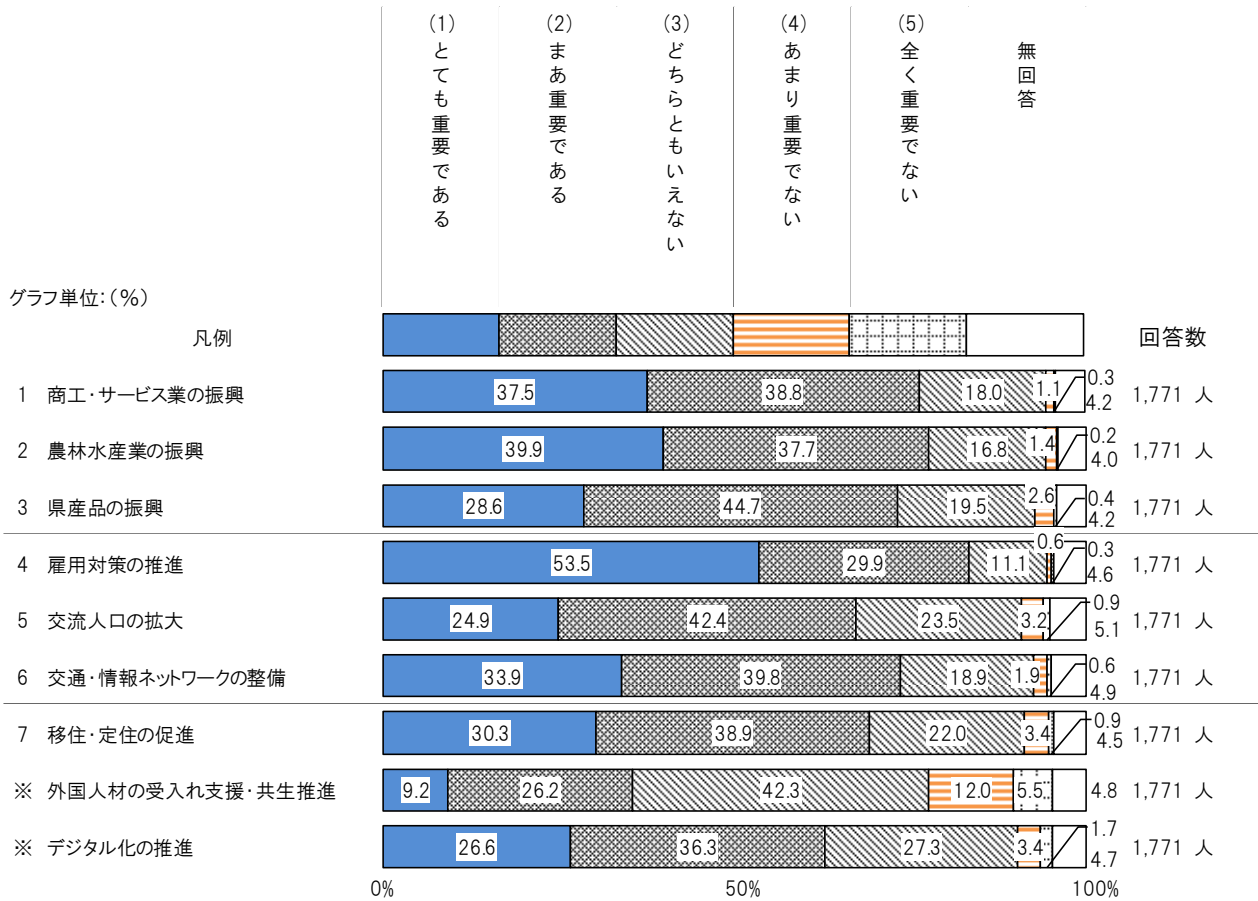
(単位：%)

分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	37.5 (37.5)	38.8 (38.7)	18.0 (17.8)	1.1 (1.1)	0.3 (0.3)	4.2 (4.6)
2 農林水産業の振興	39.9 (39.6)	37.7 (38.1)	16.8 (16.4)	1.4 (1.3)	0.2 (0.3)	4.0 (4.3)
3 県産品の振興	28.6 (29.2)	44.7 (44.1)	19.5 (18.9)	2.6 (2.7)	0.4 (0.5)	4.2 (4.6)
4 雇用対策の推進	53.5 (53.4)	29.9 (29.8)	11.1 (11.0)	0.6 (0.6)	0.3 (0.3)	4.6 (5.0)
5 交流人口の拡大	24.9 (25.2)	42.4 (42.1)	23.5 (23.2)	3.2 (3.0)	0.9 (1.0)	5.1 (5.6)
6 交通・情報ネットワークの整備	33.9 (33.9)	39.8 (39.6)	18.9 (18.7)	1.9 (1.9)	0.6 (0.6)	4.9 (5.3)
7 移住・定住の促進	30.3 (30.5)	38.9 (38.3)	22.0 (21.9)	3.4 (3.4)	0.9 (0.8)	4.5 (4.9)
※ 外国人材の受入れ支援・共生推進	9.2 (9.5)	26.2 (27.0)	42.3 (41.2)	12.0 (11.6)	5.5 (5.3)	4.8 (5.3)
※ デジタル化の推進	26.6 (27.0)	36.3 (35.7)	27.3 (27.0)	3.4 (3.4)	1.7 (1.6)	4.7 (5.3)

「成長する香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」83.4%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」77.6%、「商工・サービス業の振興」76.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」83.2%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」77.7%、「商工・サービス業の振興」76.2%などとなっている。

図表 5-(1) 成長する香川(重要度)



P239~P247 数表参照



(2) 成長する香川(満足度)

問27 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。  
 「成長する香川」の実現に向けて展開してきた[1]～[7]と[※]の分野について、あなたの「重要度」と「満足度」を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

(単位：%)

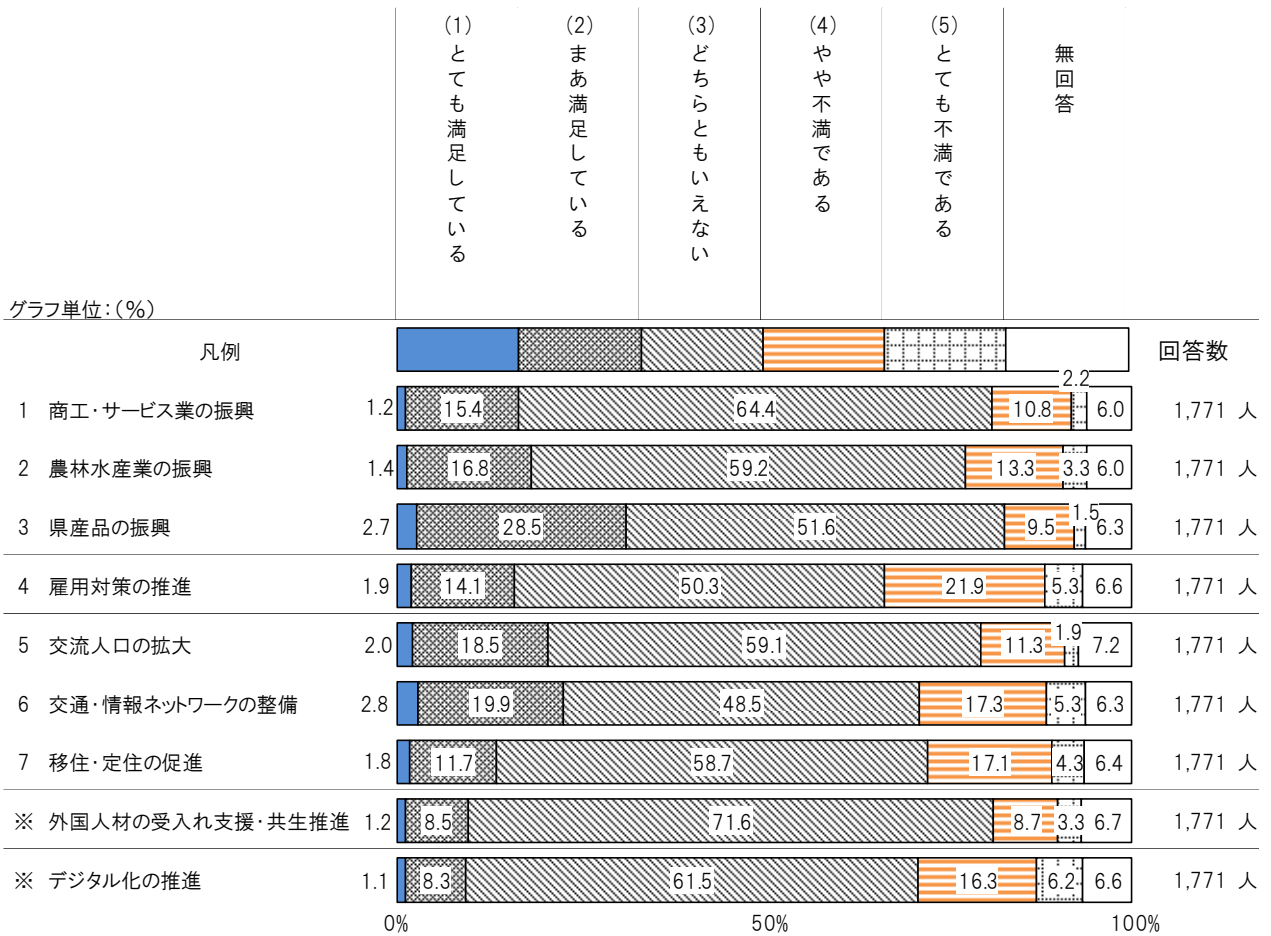
分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	1.2 (1.7)	15.4 (15.5)	64.4 (63.6)	10.8 (10.5)	2.2 (2.2)	6.0 (6.5)
2 農林水産業の振興	1.4 (1.9)	16.8 (17.3)	59.2 (57.9)	13.3 (13.2)	3.3 (3.2)	6.0 (6.5)
3 県産品の振興	2.7 (3.3)	28.5 (28.4)	51.6 (50.1)	9.5 (9.8)	1.5 (1.6)	6.3 (6.8)
4 雇用対策の推進	1.9 (2.1)	14.1 (14.3)	50.3 (49.7)	21.9 (21.5)	5.3 (5.3)	6.6 (7.2)
5 交流人口の拡大	2.0 (2.5)	18.5 (18.7)	59.1 (58.0)	11.3 (11.1)	1.9 (1.9)	7.2 (7.7)
6 交通・情報ネットワークの整備	2.8 (3.2)	19.9 (19.8)	48.5 (47.7)	17.3 (17.1)	5.3 (5.4)	6.3 (6.8)
7 移住・定住の促進	1.8 (2.2)	11.7 (12.3)	58.7 (57.2)	17.1 (17.3)	4.3 (4.1)	6.4 (6.9)
※ 外国人材の受入れ支援・共生推進	1.2 (1.5)	8.5 (8.9)	71.6 (70.0)	8.7 (8.9)	3.3 (3.4)	6.7 (7.3)
※ デジタル化の推進	1.1 (1.5)	8.3 (8.8)	61.5 (60.0)	16.3 (16.2)	6.2 (6.5)	6.6 (7.2)

「成長する香川」の満足度について、「商工・サービス業の振興」、「農林水産業の振興」、「県産品の振興」、「交流人口の拡大」と「交通・情報ネットワークの整備」では、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

一方で、「雇用対策の推進」、「移住・定住の促進」、「外国人材の受入れ支援・共生推進」、「デジタル化の推進」では、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 5-(2) 成長する香川(満足度)



P239~P247 数表参照

**(3)信頼・安心の香川(重要度)**

問28 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。  
 「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開してきた[8]～[15]の分野について、あなたの<重要度>と<満足度>を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

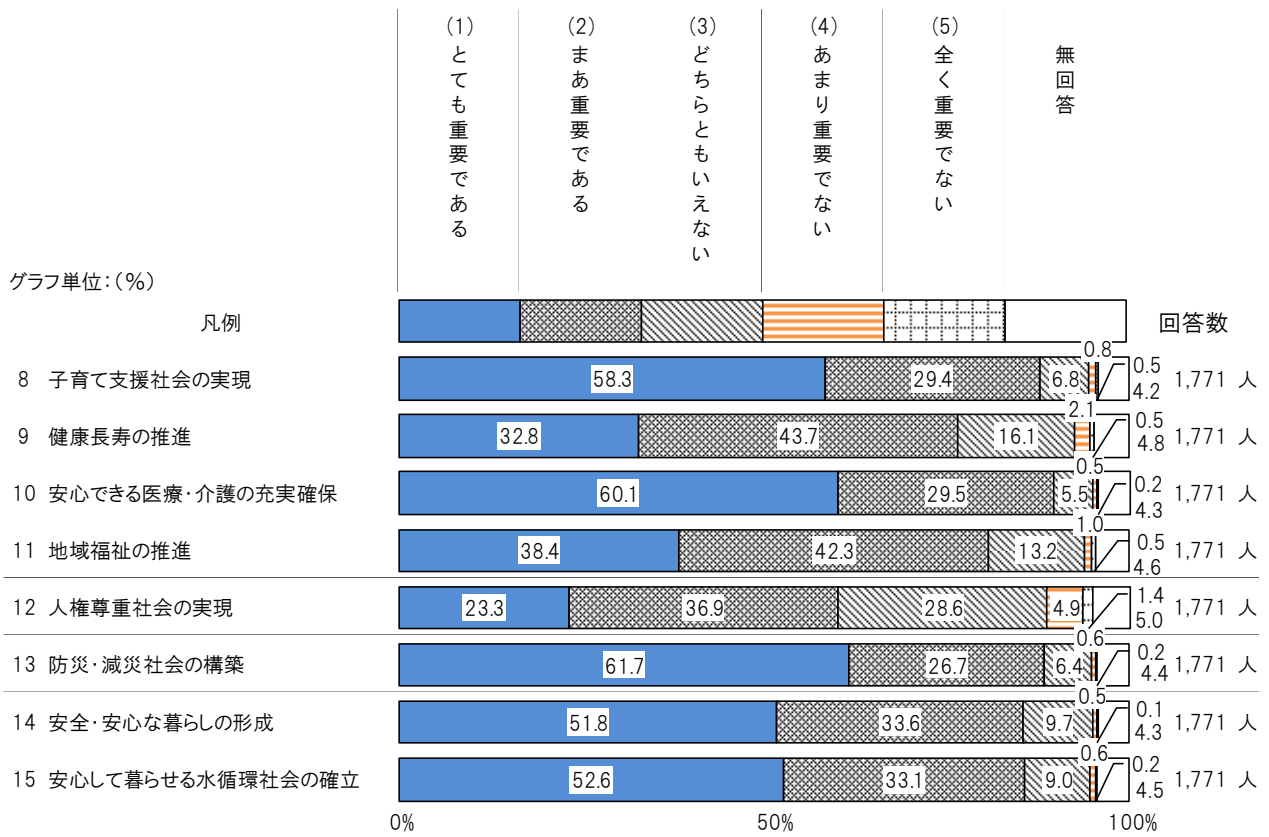
(単位：%)

分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
8 子育て支援社会の実現	58.3 (59.6)	29.4 (28.1)	6.8 (6.7)	0.8 (0.8)	0.5 (0.5)	4.2 (4.5)
9 健康長寿の推進	32.8 (33.5)	43.7 (43.0)	16.1 (15.8)	2.1 (2.3)	0.5 (0.5)	4.8 (5.0)
10 安心できる医療・介護の充実確保	60.1 (60.1)	29.5 (29.2)	5.5 (5.5)	0.5 (0.5)	0.2 (0.2)	4.3 (4.5)
11 地域福祉の推進	38.4 (38.5)	42.3 (42.2)	13.2 (13.1)	1.0 (1.1)	0.5 (0.5)	4.6 (4.8)
12 人権尊重社会の実現	23.3 (24.1)	36.9 (37.2)	28.6 (27.3)	4.9 (4.8)	1.4 (1.4)	5.0 (5.2)
13 防災・減災社会の構築	61.7 (62.2)	26.7 (26.1)	6.4 (6.3)	0.6 (0.6)	0.2 (0.2)	4.4 (4.6)
14 安全・安心な暮らしの形成	51.8 (52.2)	33.6 (33.1)	9.7 (9.7)	0.5 (0.5)	0.1 (0.1)	4.3 (4.5)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	52.6 (52.3)	33.1 (33.1)	9.0 (9.1)	0.6 (0.5)	0.2 (0.3)	4.5 (4.6)

「信頼・安心の香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」89.6%が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」88.4%、「子育て支援社会の実現」87.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」89.3%が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」88.3%、「子育て支援社会の実現」87.7%などとなっている。

図表 5-(3) 信頼・安心の香川(重要度)



P248～P255 数表参照

**(4)信頼・安心の香川(満足度)**

問28 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。  
 「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開してきた[8]～[15]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

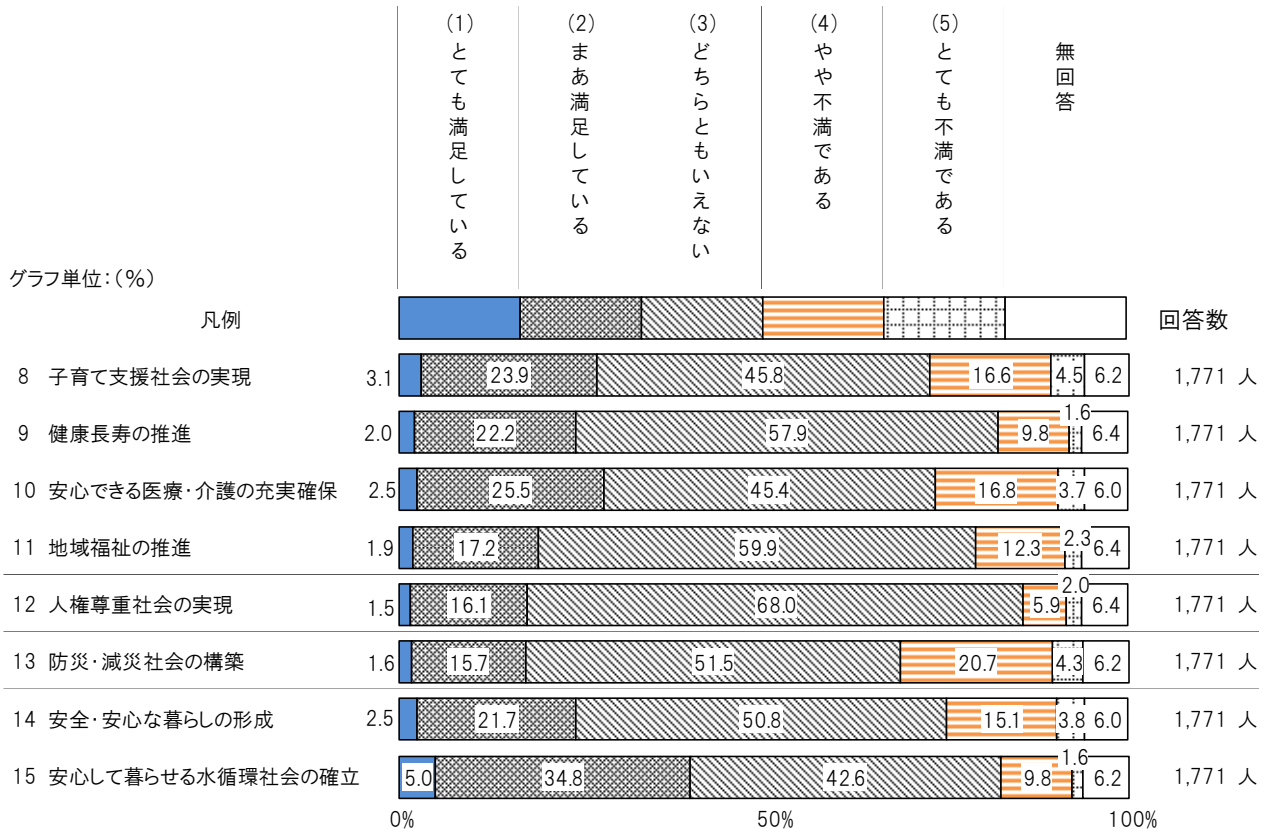
(単位：%)

分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
8 子育て支援社会の実現	3.1 (3.4)	23.9 (23.9)	45.8 (44.6)	16.6 (16.8)	4.5 (4.7)	6.2 (6.5)
9 健康長寿の推進	2.0 (2.5)	22.2 (22.8)	57.9 (56.6)	9.8 (9.6)	1.6 (1.6)	6.4 (6.8)
10 安心できる医療・介護の充実確保	2.5 (2.9)	25.5 (26.0)	45.4 (44.4)	16.8 (16.4)	3.7 (3.8)	6.0 (6.4)
11 地域福祉の推進	1.9 (2.3)	17.2 (17.4)	59.9 (59.5)	12.3 (12.0)	2.3 (2.3)	6.4 (6.7)
12 人権尊重社会の実現	1.5 (2.0)	16.1 (16.8)	68.0 (66.3)	5.9 (6.2)	2.0 (2.0)	6.4 (6.7)
13 防災・減災社会の構築	1.6 (1.8)	15.7 (16.0)	51.5 (50.7)	20.7 (20.8)	4.3 (4.2)	6.2 (6.5)
14 安全・安心な暮らしの形成	2.5 (2.9)	21.7 (22.1)	50.8 (49.7)	15.1 (15.2)	3.8 (3.8)	6.0 (6.3)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	5.0 (5.4)	34.8 (34.8)	42.6 (42.2)	9.8 (9.7)	1.6 (1.5)	6.2 (6.5)

「信頼・安心の香川」の満足度について、「防災・減災社会の構築」では、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っており、そのほかの分野では、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 5-(4) 信頼・安心の香川(満足度)



P248~P255 数表参照

**(5)笑顔で暮らせる香川(重要度)**

問29 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。

「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開してきた[16]～[24]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ（１）～（５）のうち、あてはまる番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

（単位：％）

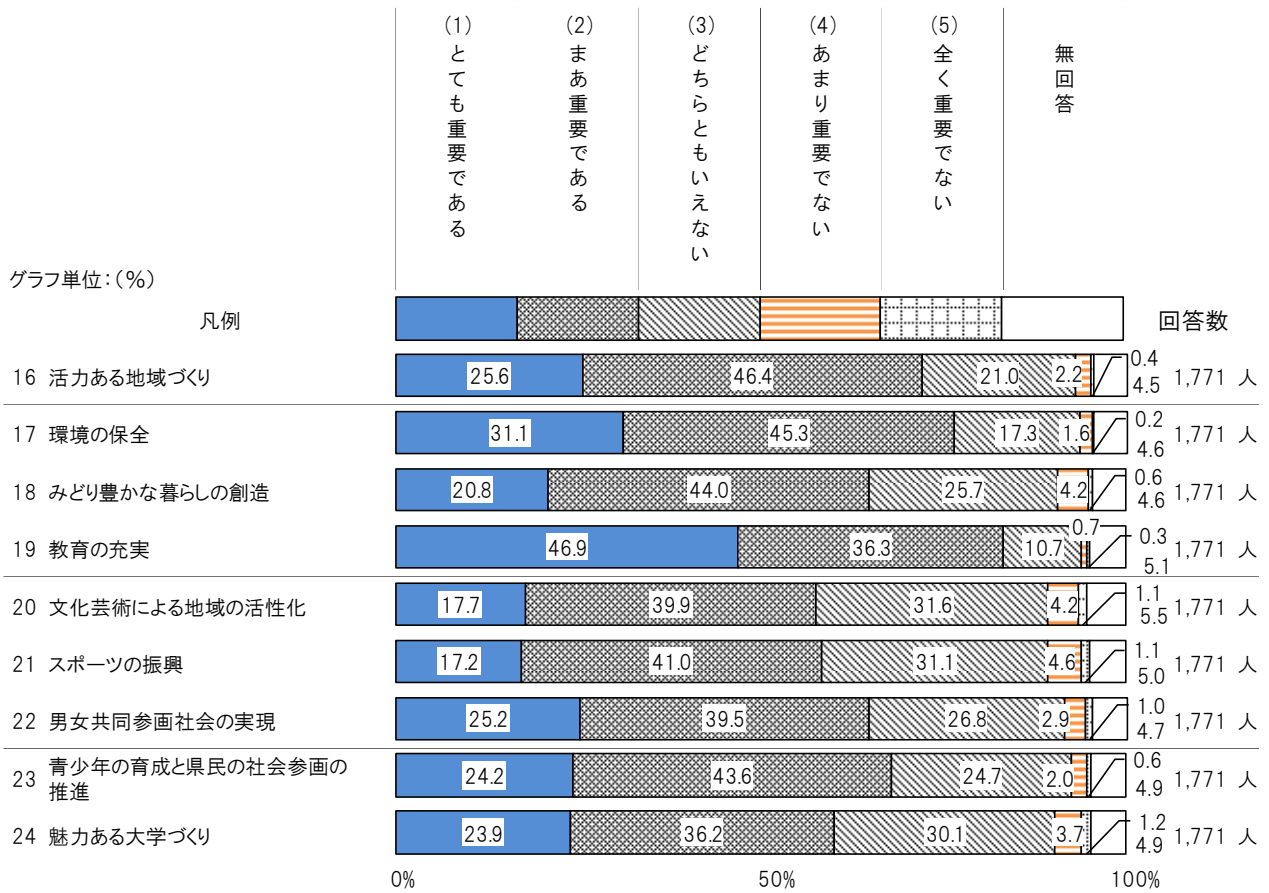
分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
16 活力ある地域づくり	25.6 (26.1)	46.4 (46.1)	21.0 (20.4)	2.2 (2.3)	0.4 (0.5)	4.5 (4.7)
17 環境の保全	31.1 (31.4)	45.3 (44.8)	17.3 (17.2)	1.6 (1.5)	0.2 (0.2)	4.6 (4.9)
18 みどり豊かな暮らしの創造	20.8 (21.6)	44.0 (43.3)	25.7 (25.4)	4.2 (4.2)	0.6 (0.7)	4.6 (4.8)
19 教育の充実	46.9 (47.4)	36.3 (36.0)	10.7 (10.3)	0.7 (0.7)	0.3 (0.3)	5.1 (5.4)
20 文化芸術による地域の活性化	17.7 (18.4)	39.9 (39.5)	31.6 (31.1)	4.2 (4.2)	1.1 (1.1)	5.5 (5.8)
21 スポーツの振興	17.2 (18.4)	41.0 (40.4)	31.1 (30.4)	4.6 (4.5)	1.1 (1.1)	5.0 (5.3)
22 男女共同参画社会の実現	25.2 (26.1)	39.5 (39.2)	26.8 (26.3)	2.9 (2.5)	1.0 (1.0)	4.7 (4.9)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	24.2 (24.6)	43.6 (43.3)	24.7 (24.6)	2.0 (1.8)	0.6 (0.7)	4.9 (5.1)
24 魅力ある大学づくり	23.9 (25.0)	36.2 (36.0)	30.1 (29.2)	3.7 (3.4)	1.2 (1.2)	4.9 (5.1)

「笑顔で暮らせる香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「教育の充実」83.2%が最も高く、次いで「環境の保全」76.4%、「活力ある地域づくり」72.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「教育の充実」83.4%が最も高く、次いで「環境の保全」76.2%、「活力ある地域づくり」72.2%などとなっている。



図表 5-(5) 笑顔で暮らせる香川(重要度)



P256~P264 数表参照

(6) 笑顔で暮らせる香川(満足度)

問29 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。

「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開してきた[16]～[24]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ( ) 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,771】

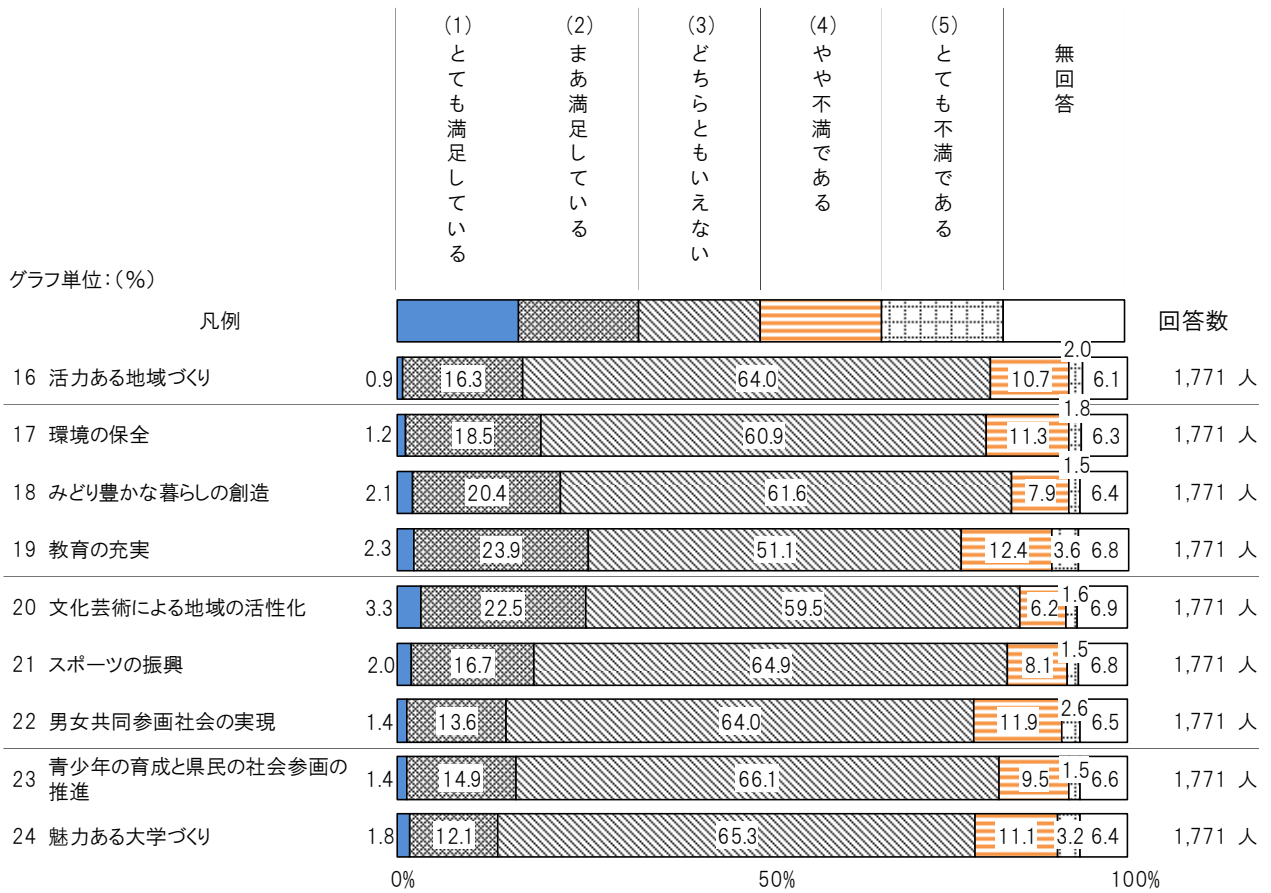
(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
16 活力ある地域づくり	0.9 (1.2)	16.3 (16.9)	64.0 (62.7)	10.7 (10.8)	2.0 (2.0)	6.1 (6.4)
17 環境の保全	1.2 (1.7)	18.5 (19.2)	60.9 (59.5)	11.3 (11.3)	1.8 (1.7)	6.3 (6.6)
18 みどり豊かな暮らしの創造	2.1 (2.5)	20.4 (20.7)	61.6 (60.7)	7.9 (7.8)	1.5 (1.5)	6.4 (6.8)
19 教育の充実	2.3 (2.6)	23.9 (24.1)	51.1 (49.7)	12.4 (12.9)	3.6 (3.7)	6.8 (7.0)
20 文化芸術による地域の活性化	3.3 (3.9)	22.5 (22.5)	59.5 (58.3)	6.2 (6.2)	1.6 (1.8)	6.9 (7.3)
21 スポーツの振興	2.0 (2.5)	16.7 (17.1)	64.9 (63.6)	8.1 (8.3)	1.5 (1.5)	6.8 (7.0)
22 男女共同参画社会の実現	1.4 (1.7)	13.6 (14.6)	64.0 (62.5)	11.9 (11.7)	2.6 (2.6)	6.5 (6.9)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.4 (1.6)	14.9 (15.8)	66.1 (64.9)	9.5 (9.4)	1.5 (1.4)	6.6 (6.9)
24 魅力ある大学づくり	1.8 (2.3)	12.1 (12.8)	65.3 (63.3)	11.1 (11.5)	3.2 (3.4)	6.4 (6.8)

「笑顔で暮らせる香川」の満足度について、「魅力ある大学づくり」を除くすべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「教育の充実」、「文化芸術による地域の活性化」や「みどり豊かな暮らしの創造」の満足度が高くなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、すべての分野で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5-(6) 笑顔で暮らせる香川(満足度)



P256~P264 数表参照

商工・サービス業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』77.7%、『女性』76.1%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』では81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』では80.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』では78.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』では81.8%と最も高くなっている。

商工・サービス業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.0%、『女性』17.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.7%、『女性』10.2%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

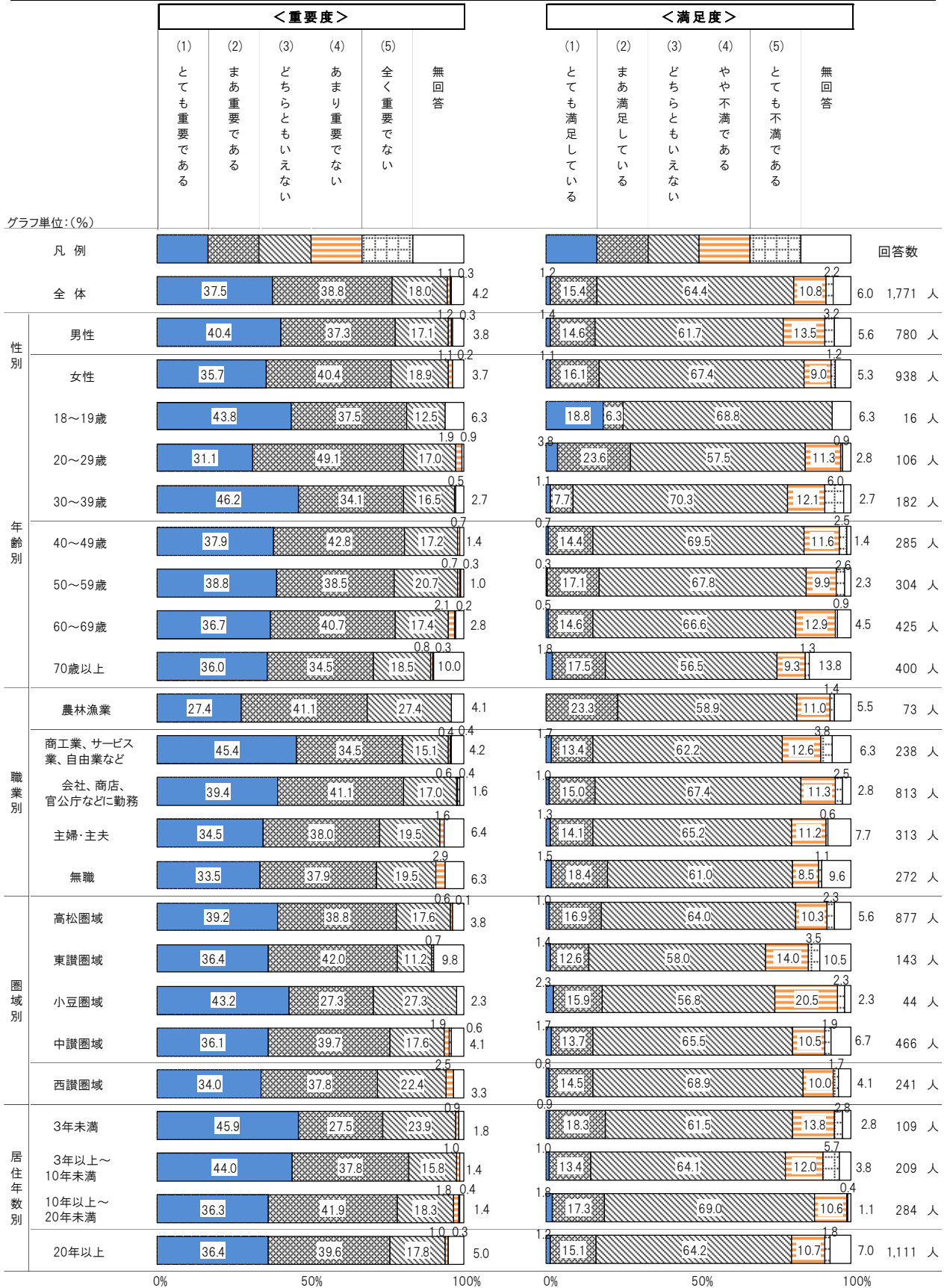
年齢別にみると、『30～39歳』において【不満である】の割合18.1%が【満足している】の割合8.8%を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において【不満である】の割合16.4%が【満足している】の割合15.1%を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において【不満である】の割合17.7%が【満足している】の割合14.4%を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(1)【商工・サービス業の振興】



農林水産業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.1%、『女性』80.1%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において87.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『農林漁業』において86.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において79.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において81.0%と最も高くなっている。

農林水産業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』15.0%、『女性』21.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』21.5%、『女性』12.6%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『60～69歳』において【不満である】の割合17.7%が【満足している】の割合13.6%を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

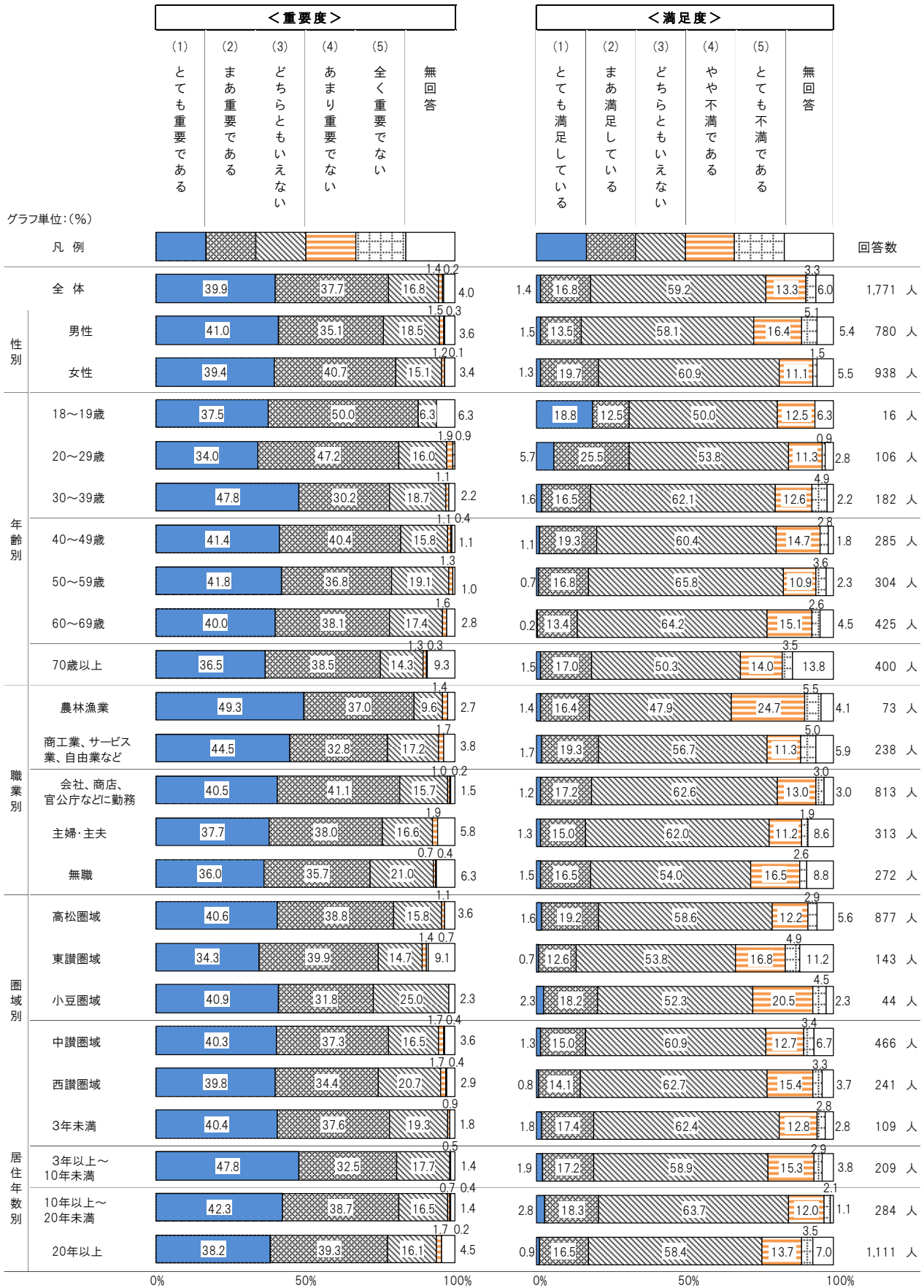
職業別にみると、『農林漁業』、『無職』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『西讃圏域』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(2)【農林水産業の振興】



県産品の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.7%、『女性』75.1%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において77.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において77.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において74.6%と最も高くなっている。

県産品の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.7%、『女性』36.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.0%、『女性』8.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

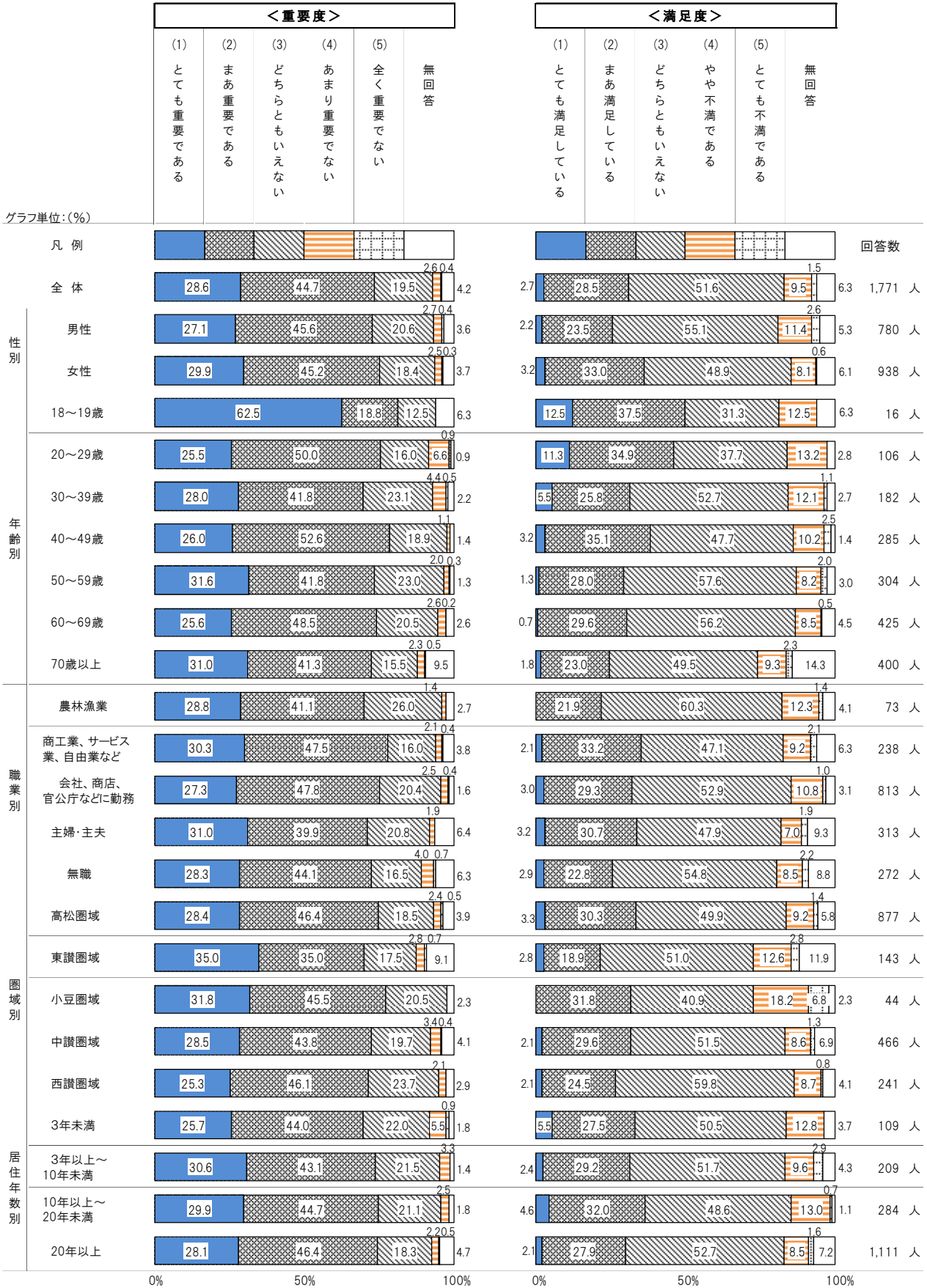
職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(3)【県産品の振興】



雇用対策の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.5%、『女性』84.4%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において89.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において88.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において84.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『10年以上～20年未満』において87.7%と最も高くなっている。

雇用対策の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』15.1%、『女性』16.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』30.3%、『女性』25.2%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

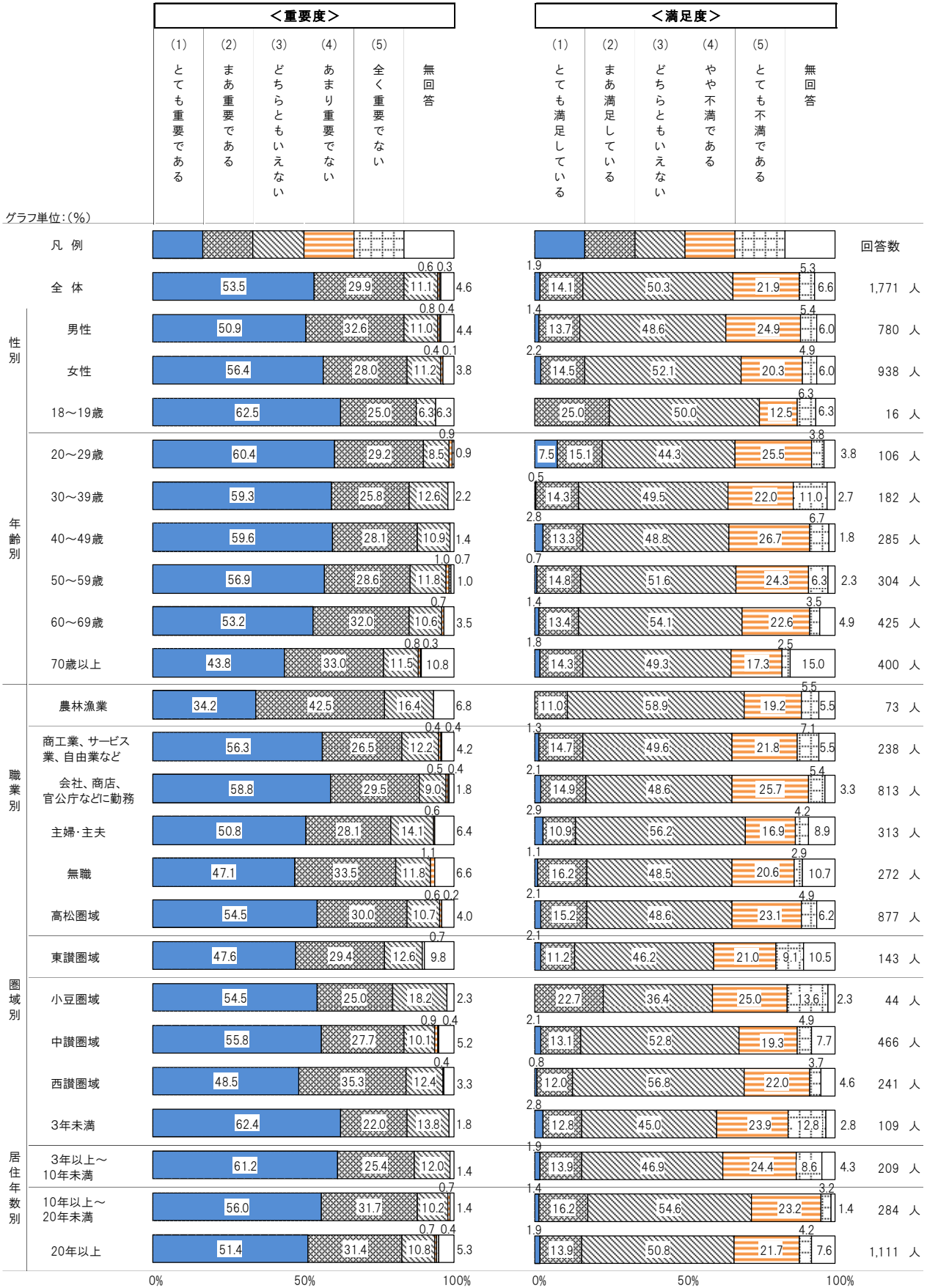
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】の割合25.0%が【不満である】の割合18.8%を上回り、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(4)【雇用対策の推進】



交流人口の拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』67.2%、『女性』68.0%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において71.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において72.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において70.4%と最も高くなっている。

交流人口の拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.1%、『女性』22.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.0%、『女性』10.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

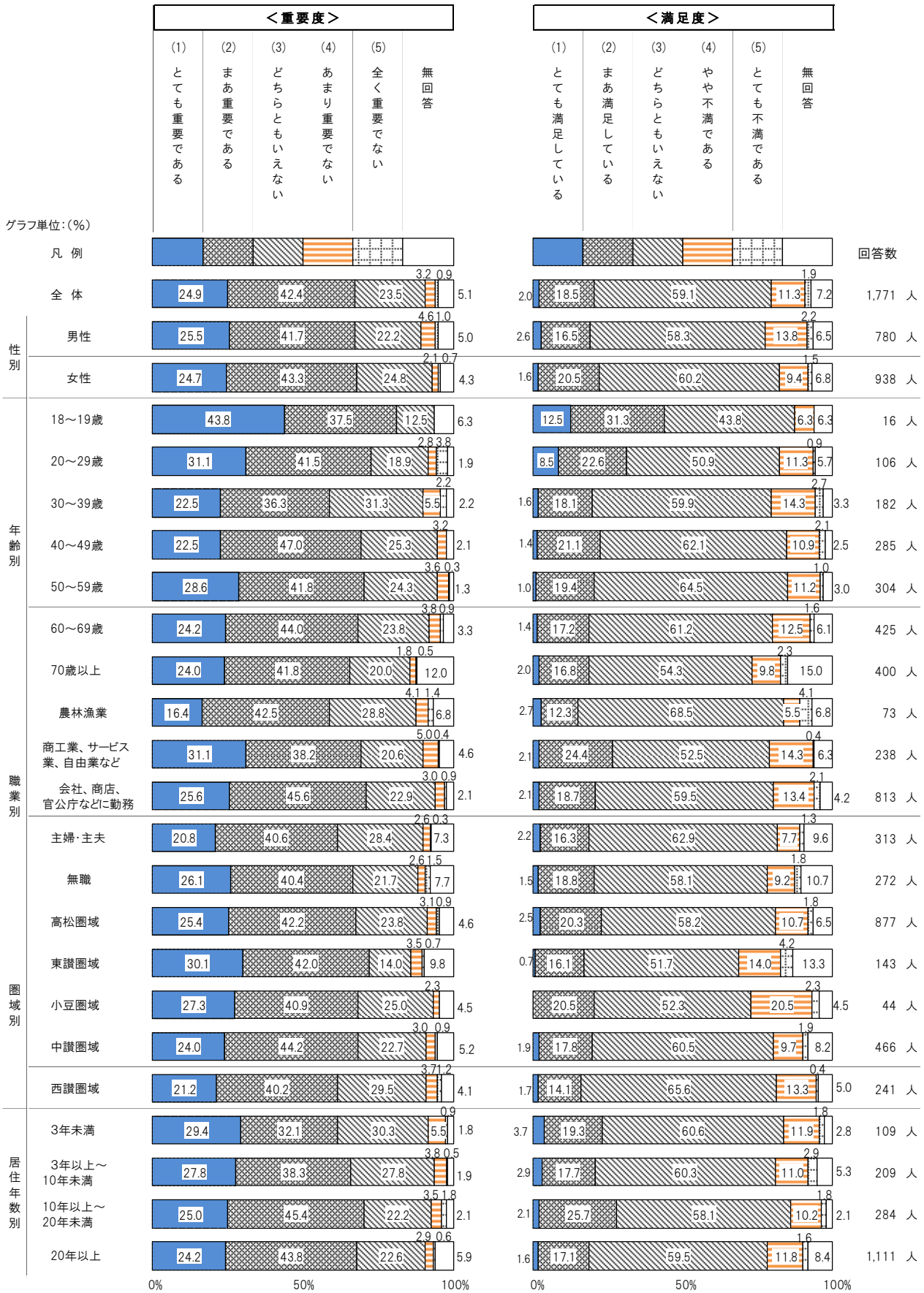
職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(5)【交流人口の拡大】



交通・情報ネットワークの整備の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.4%、『女性』74.3%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において87.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において77.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において77.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において78.9%と最も高くなっている。

交通・情報ネットワークの整備の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.0%、『女性』21.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』24.4%、『女性』21.7%となっており、『男性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『女性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

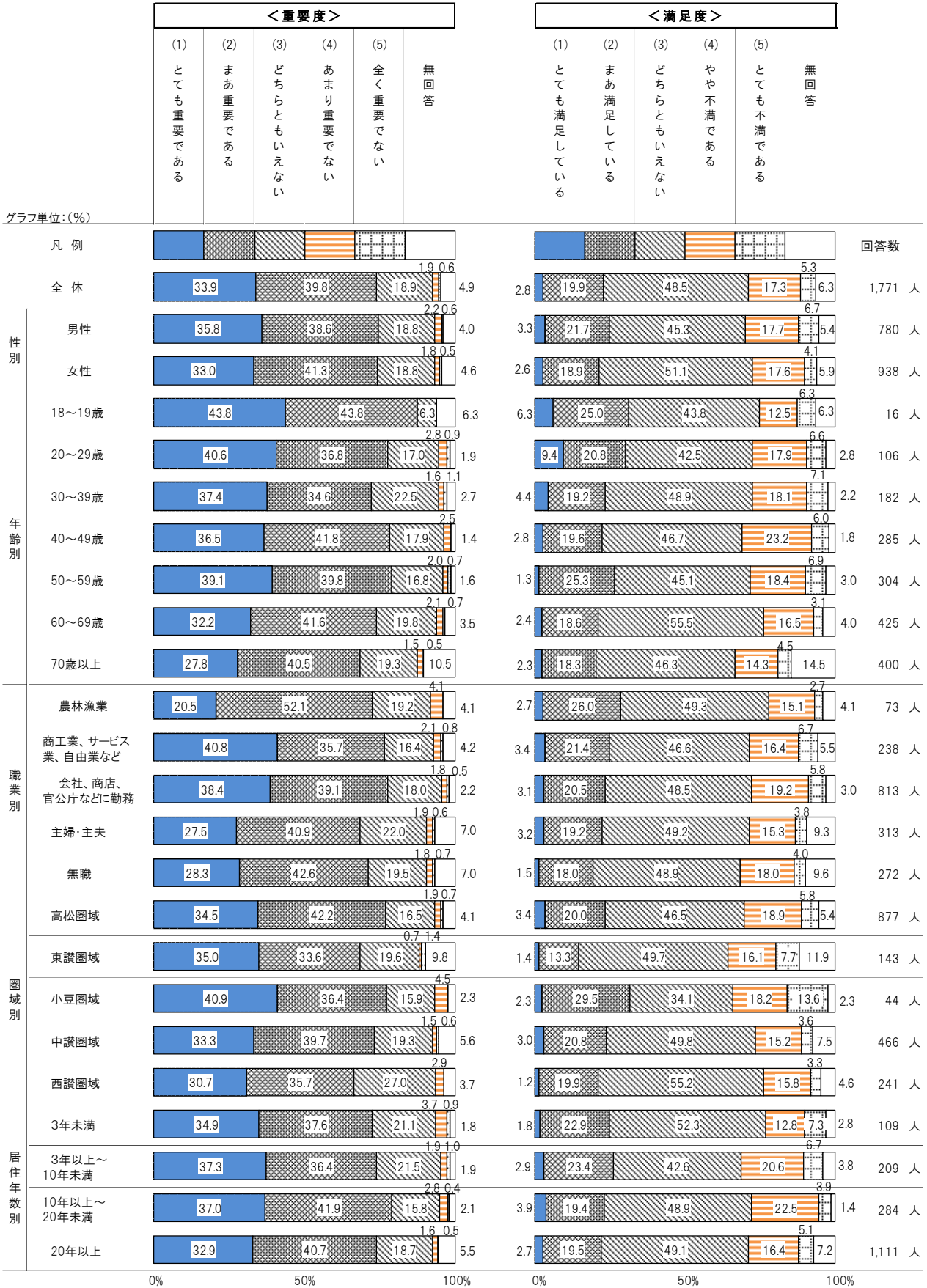
年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の31.8%で、『高松圏域』、『東讃圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』と『10年以上～20年未満』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(6)【交通・情報ネットワークの整備】



移住・定住の促進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』70.2%、『女性』69.2%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『60～69歳』において71.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において73.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において72.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年以上～10年未満』において76.5%が最も高くなっている。

移住・定住の促進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』12.4%、『女性』14.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』27.1%、『女性』17.3%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

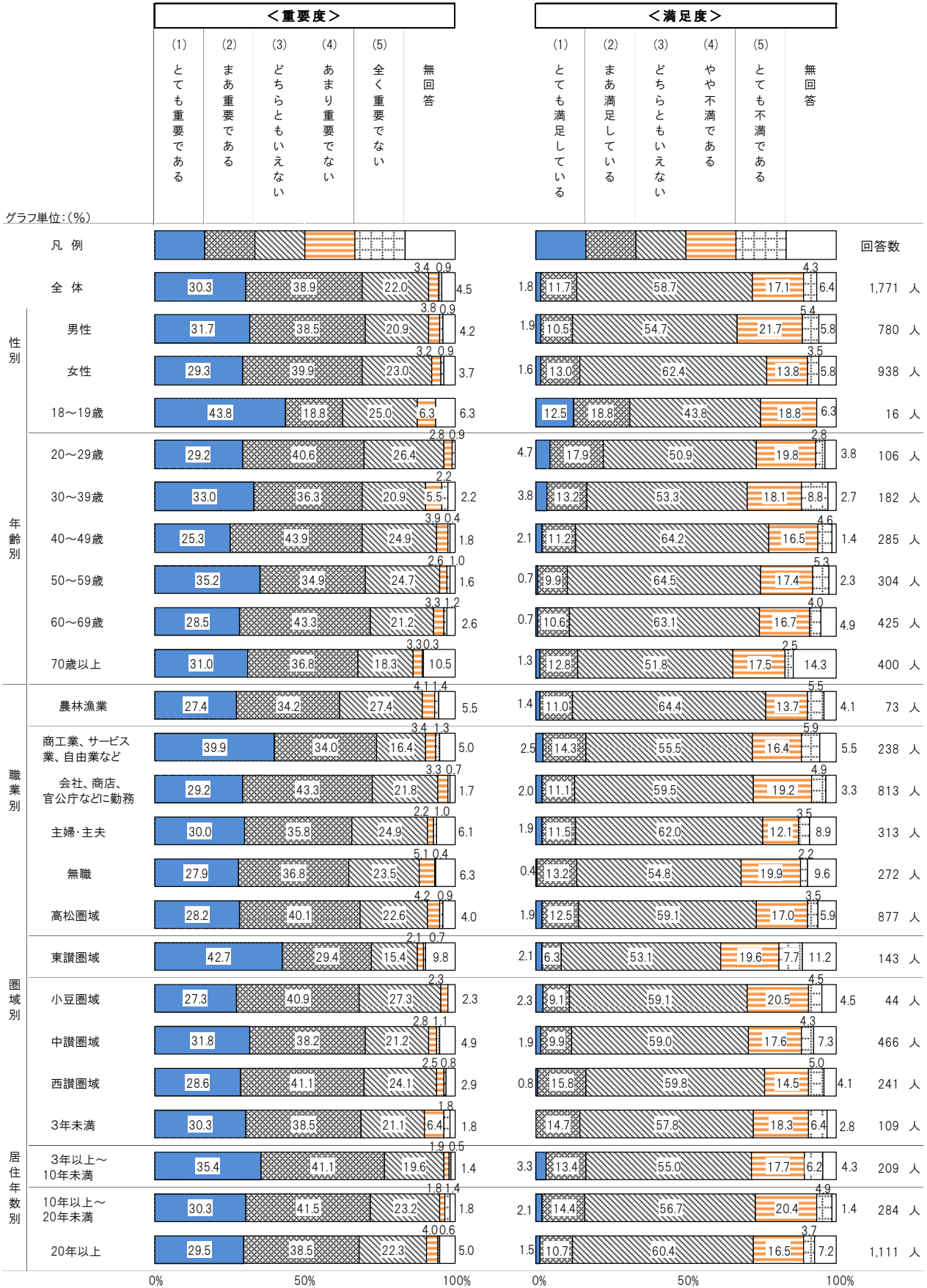
年齢別にみると、『20～29歳』において、【満足している】の割合と【不満である】の割合が同率の22.6%で、『18～19歳』において、【満足している】の割合31.3%が【不満である】の割合18.8%を上回り、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。



図表 6-(7)【移住・定住の促進】



外国人材の受入れ支援・共生推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』33.9%、『女性』37.5%で、「あまり重要でない」と「全く重要でない」を合わせた【重要でない】の割合は、『男性』18.9%、『女性』15.9%となっており、いずれも【重要である】の割合が【重要でない】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【重要である】の割合が【重要でない】の割合を上回っており、『18～19歳』において【重要である】の割合が68.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』において【重要でない】の割合が【重要である】の割合を上回っており、そのほかの職業では【重要である】の割合が【重要でない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【重要である】の割合が【重要でない】の割合を上回っており、『高松圏域』において【重要である】の割合が36.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【重要である】の割合が【重要でない】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』において【重要である】の割合が42.6%と最も高くなっている。

外国人材の受入れ支援・共生推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』9.8%、『女性』10.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.5%、『女性』10.1%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

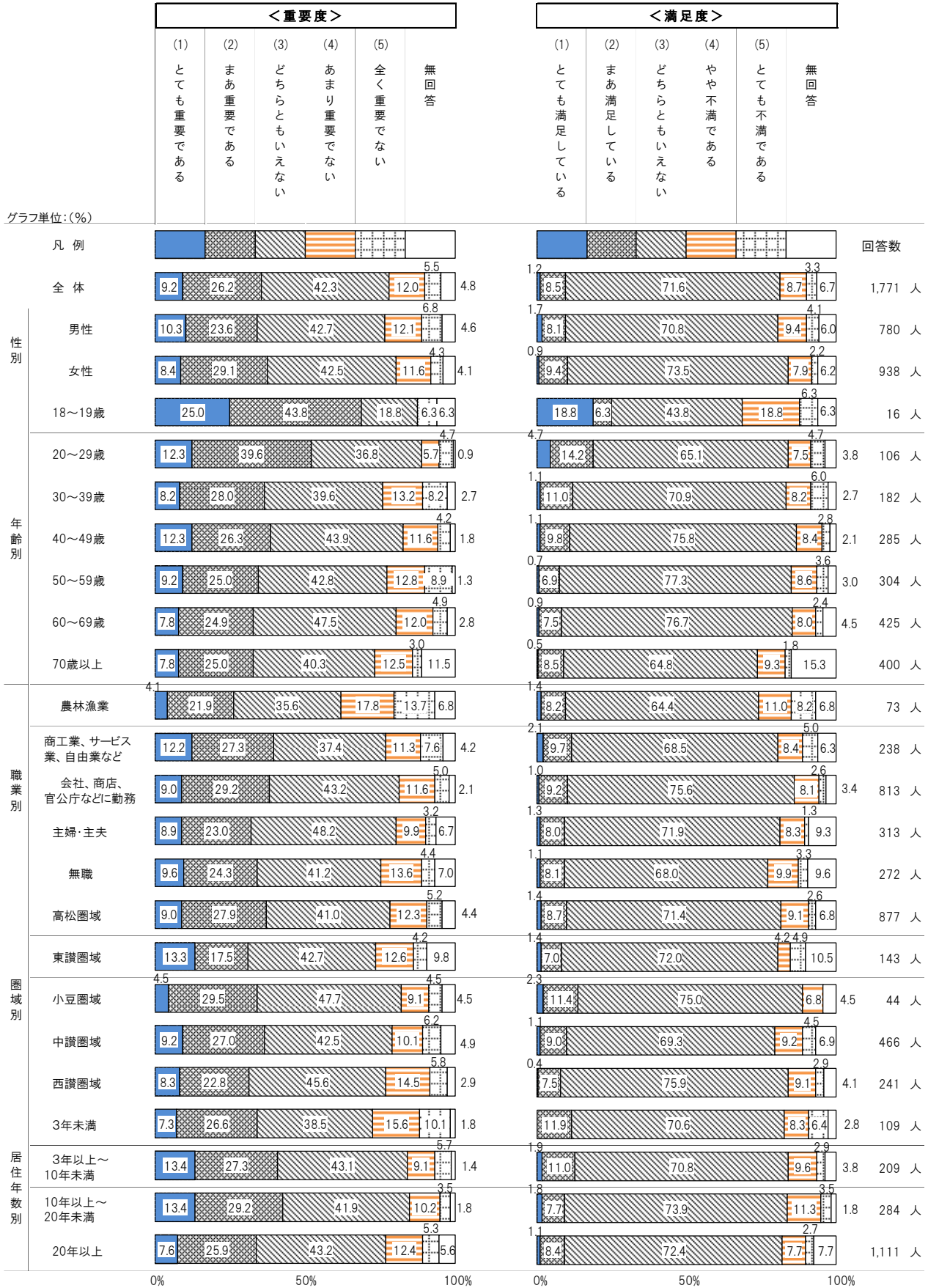
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】の割合と【不満である】の割合が同率の25.1%で、『20～29歳』において、【満足している】の割合18.9%が【不満である】の割合12.2%を上回り、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】の割合13.7%が【不満である】の割合6.8%を上回り、そのほかの圏域では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上10年未満』において、【満足している】の割合12.9%が【不満である】の割合12.5%を上回り、そのほかの居住年数では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(8)【外国人材の受入れ支援・共生推進】



デジタル化の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』64.4%、『女性』62.7%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において68.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において69.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において65.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において70.6%と最も高くなっている。

デジタル化の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』7.7%、『女性』10.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』28.2%、『女性』18.0%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】の割合25.0%が【不満である】の割合12.5%を上回り、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

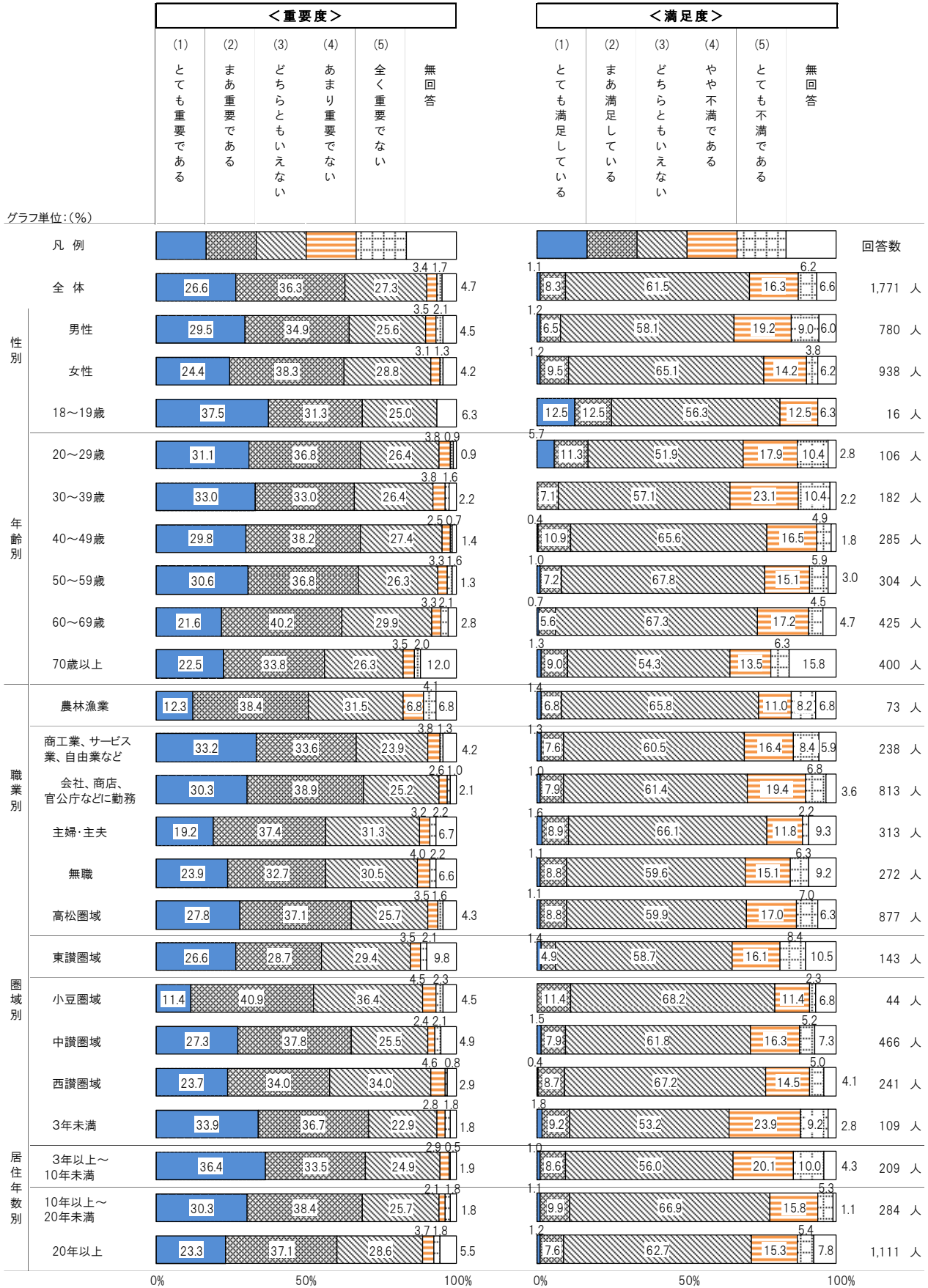
職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。



図表 6-(9)【デジタル化の推進】



P247 数表参照

子育て支援社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』85.9%、『女性』90.2%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『18～19歳』において93.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において91.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『西讃圏域』において89.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において95.4%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.3%、『女性』31.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』24.0%、『女性』19.1%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

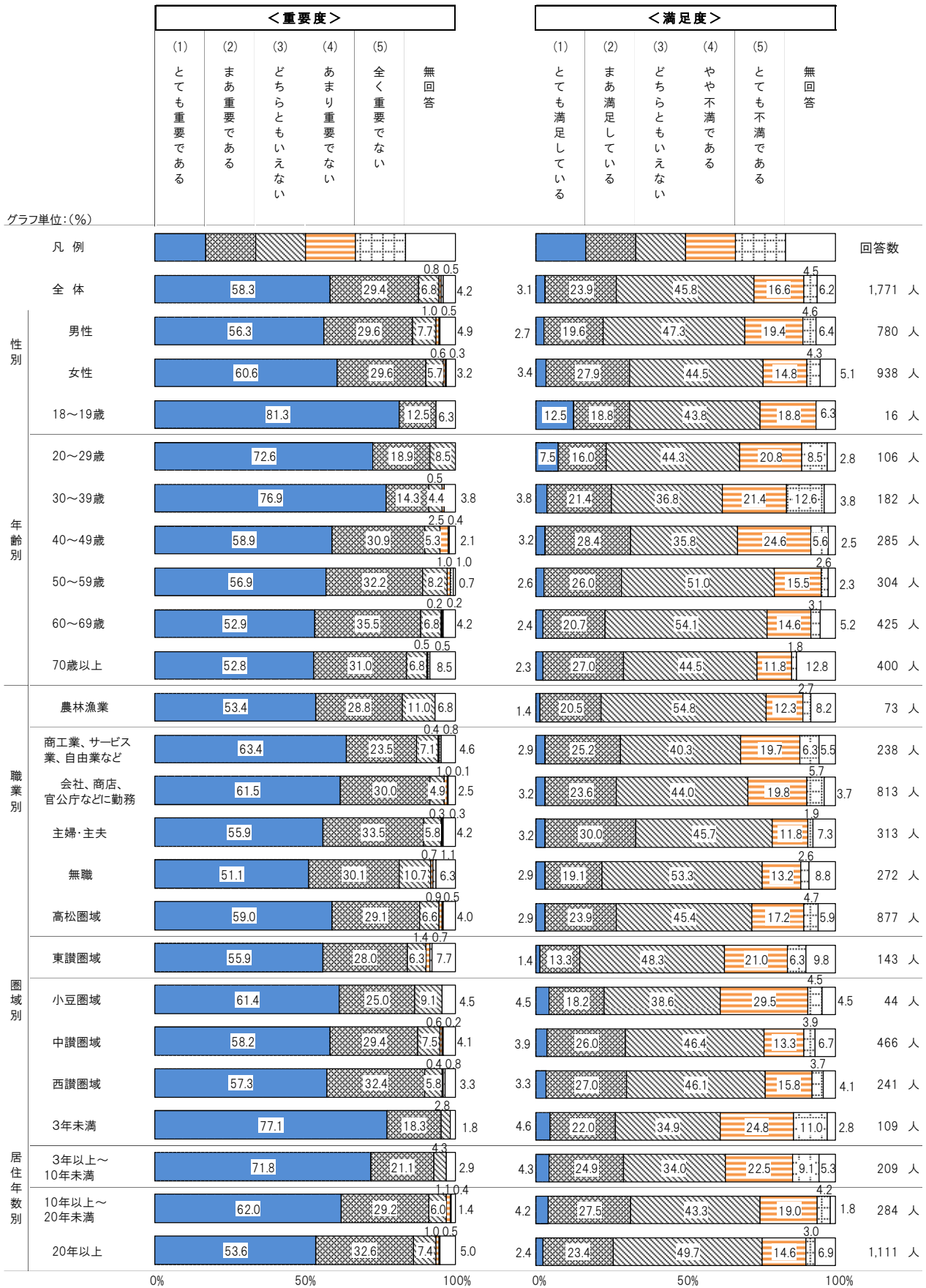
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(10)【子育て支援社会の実現】





健康長寿の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.5%、『女性』80.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において80.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において77.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において81.4%と最も高くなっている。

健康長寿の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.1%、『女性』27.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.2%、『女性』11.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

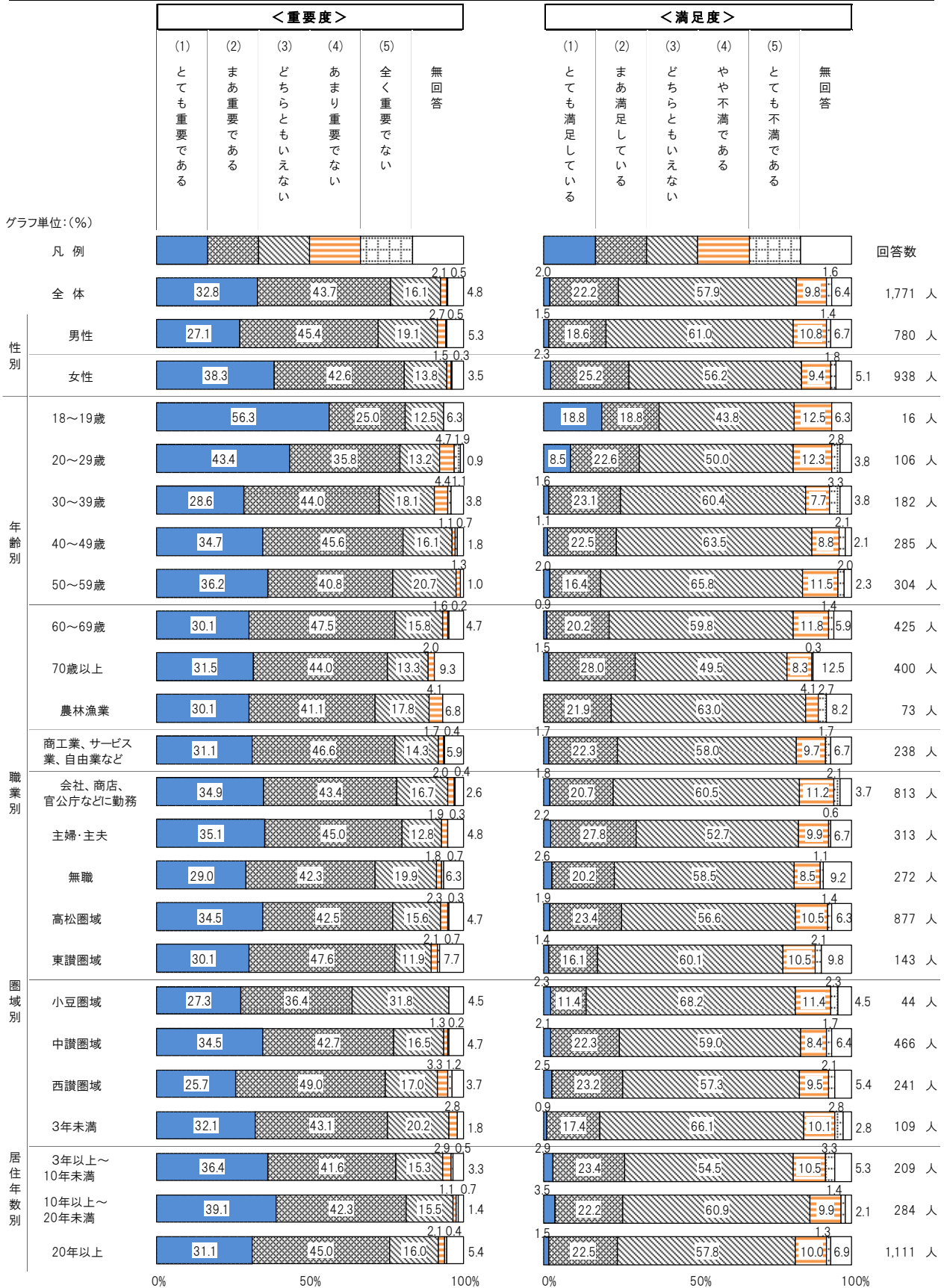
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の13.7%で、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(11)【健康長寿の推進】



安心できる医療・介護の充実確保の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』87.3%、『女性』92.4%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『18～19歳』において93.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『主婦・主夫』において91.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『小豆圏域』において90.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において93.6%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』27.3%、『女性』28.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』20.0%、『女性』21.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

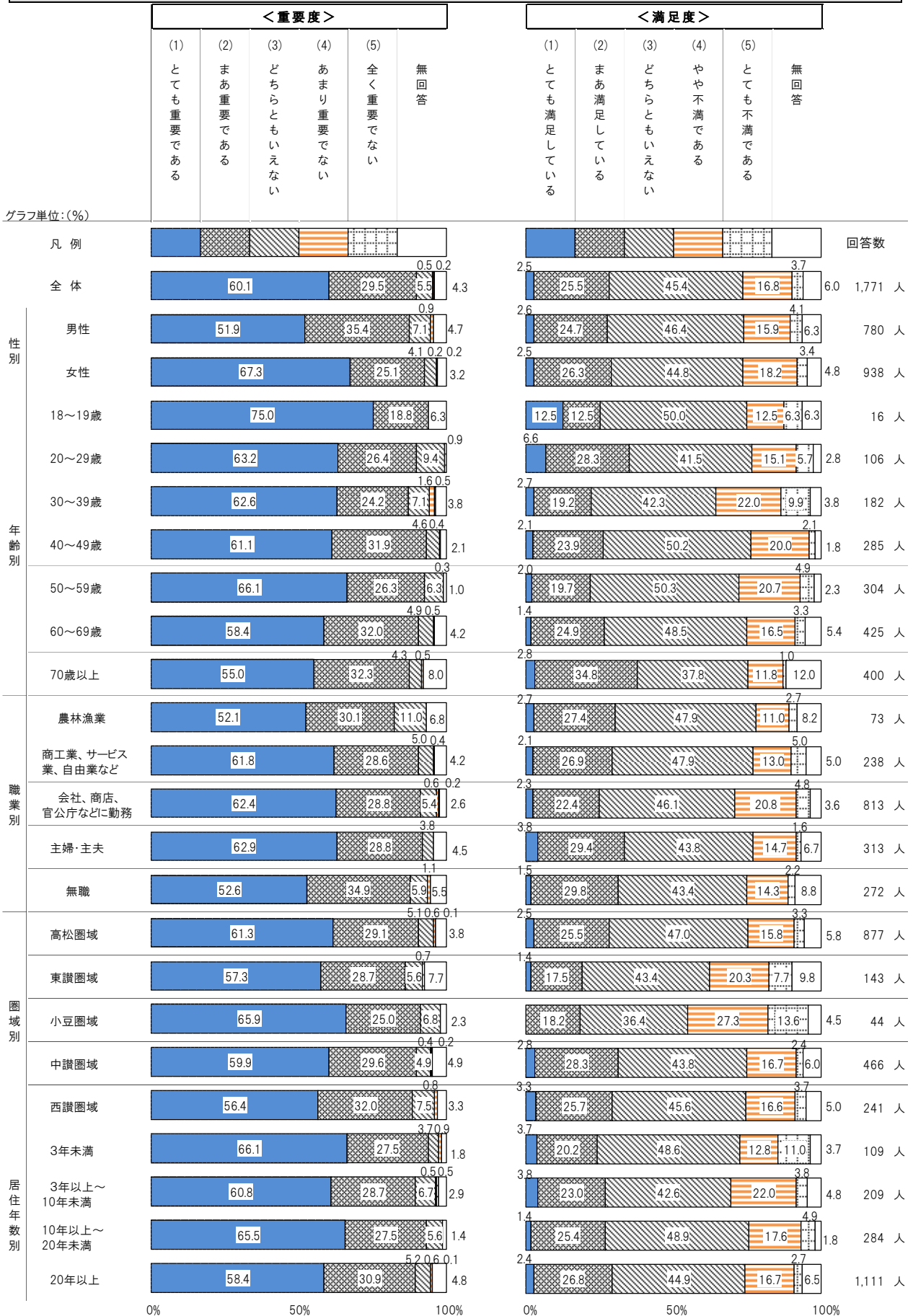
年齢別にみると、『30～39歳』、『50～59歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると『会社、商店、官公庁などに勤務』において、【不満である】の割合25.6%が【満足している】の割合24.7%を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(12)【安心できる医療・介護の充実確保】



P250 数表参照

地域福祉の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.5%、『女性』86.0%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において87.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において84.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『中讃圏域』において82.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において85.3%と最も高くなっている。

地域福祉の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.5%、『女性』20.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.6%、『女性』15.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『40～49歳』において、【不満である】の割合16.5%が【満足している】の割合14.8%を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

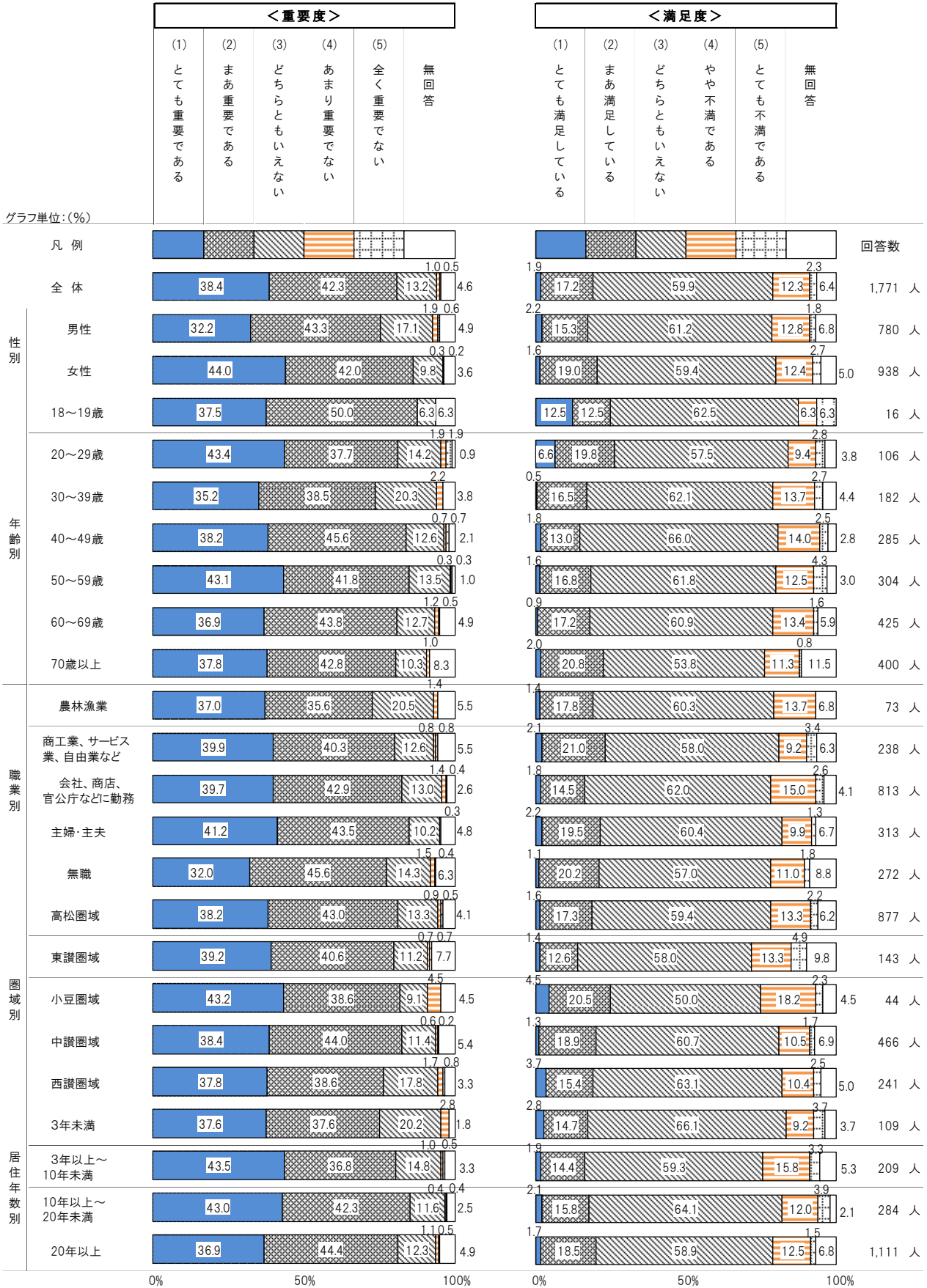
職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において、【不満である】の割合17.6%が【満足している】の割合16.3%を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において、【不満である】の割合18.2%が【満足している】の割合14.0%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合19.1%が【満足している】の割合16.3%を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(13)【地域福祉の推進】



人権尊重社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』54.0%、『女性』66.2%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において87.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において64.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『高松圏域』において62.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において69.3%と最も高くなっている。

人権尊重社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.6%、『女性』19.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.6%、『女性』7.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

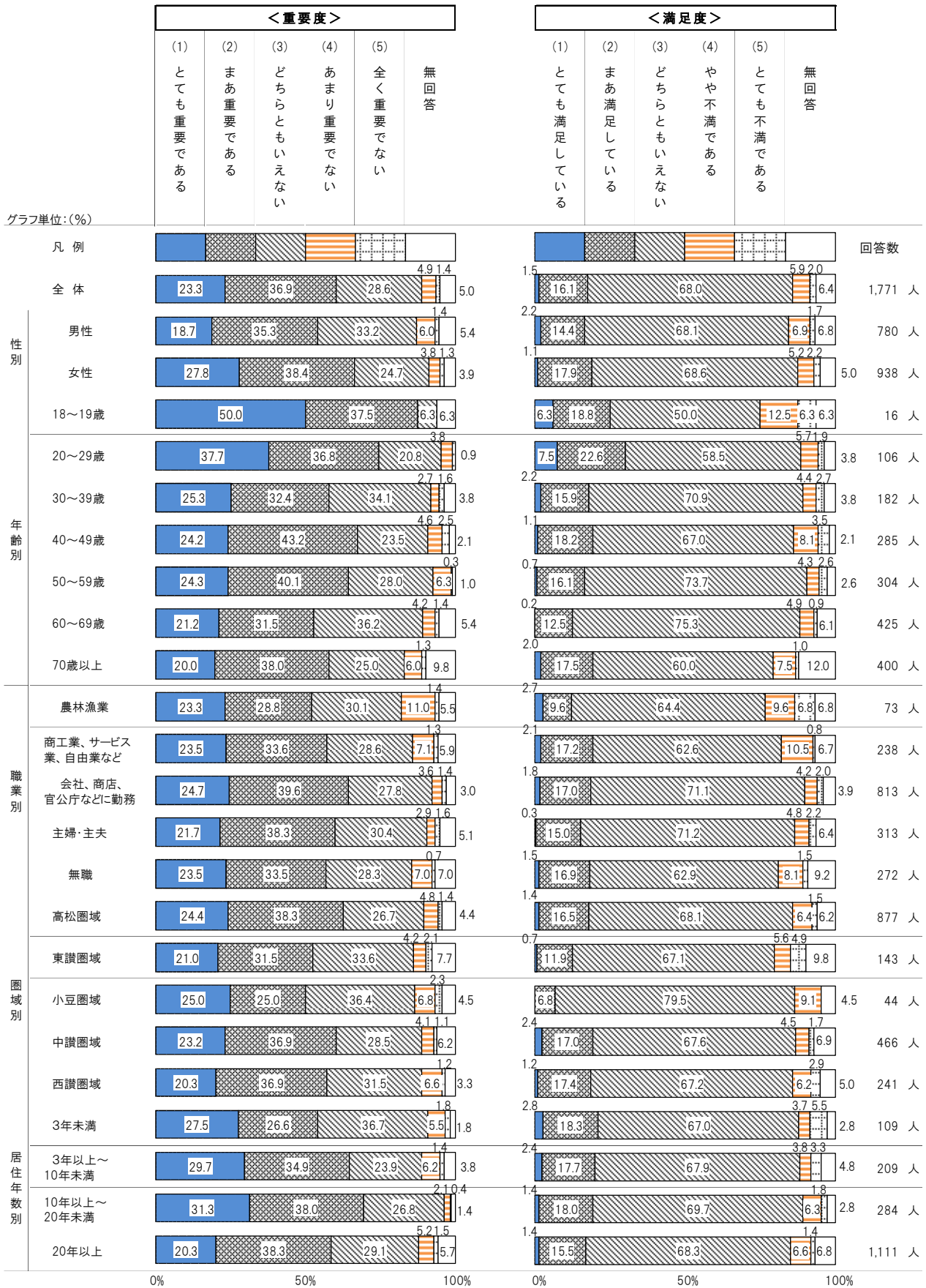
職業別にみると、『農林漁業』において、【不満である】の割合16.4%が【満足している】の割合12.3%を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合9.1%が【満足している】の割合6.8%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(14)【人権尊重社会の実現】



防災・減災社会の構築の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』86.8%、『女性』90.3%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『18～19歳』において93.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において90.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『高松圏域』において89.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『10年以上～20年未満』において92.6%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.0%、『女性』17.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』28.0%、『女性』23.3%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

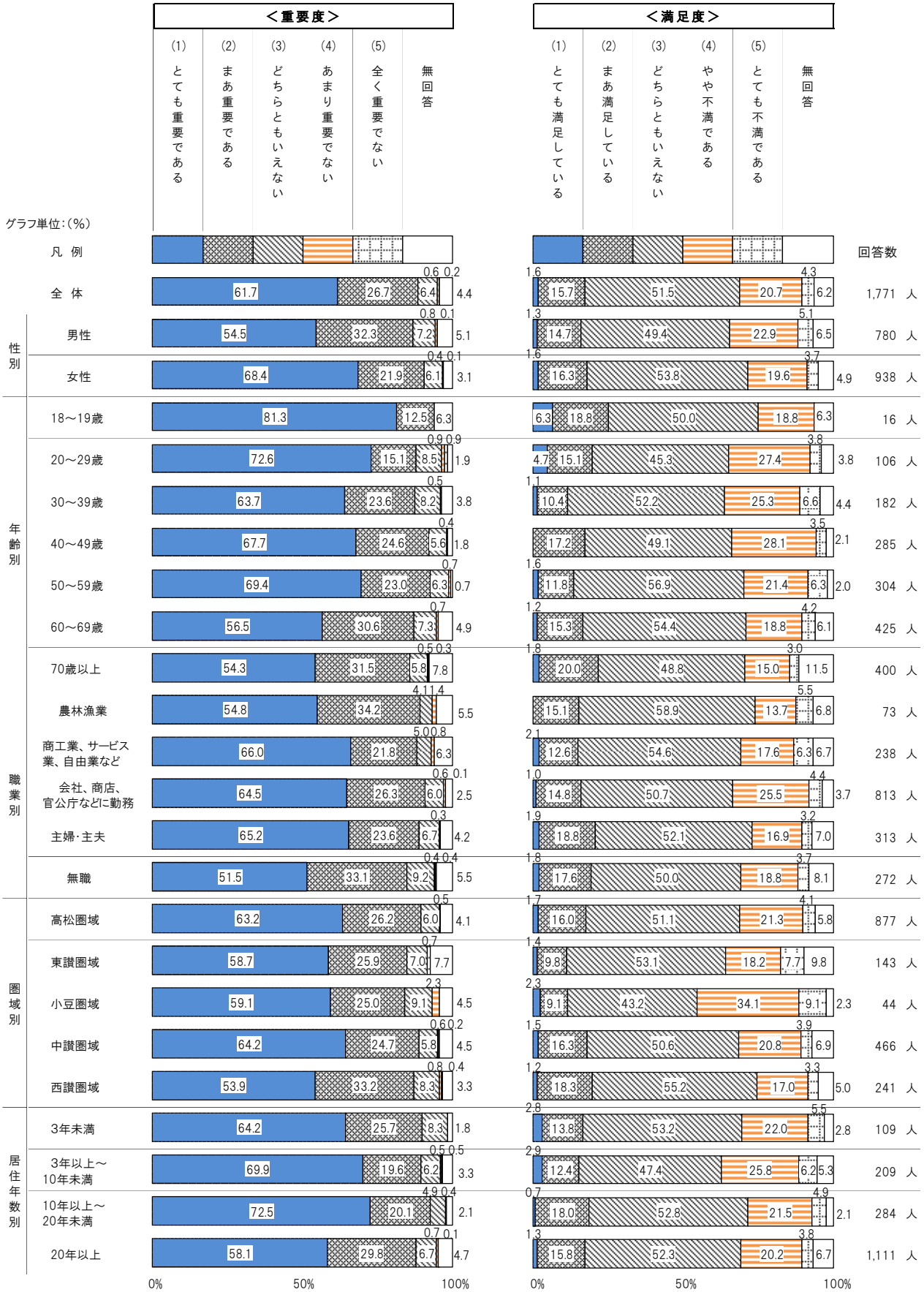
年齢別にみると、『18～19歳』、『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において、【満足している】の割合20.7%が【不満である】の割合20.1%を上回り、そのほかの職業では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(15)【防災・減災社会の構築】



安全・安心な暮らしの形成の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.1%、『女性』88.3%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『50～59歳』において90.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において89.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において88.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において90.8%と最も高くなっている。

安全・安心な暮らしの形成の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.9%、『女性』25.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』22.1%、『女性』17.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

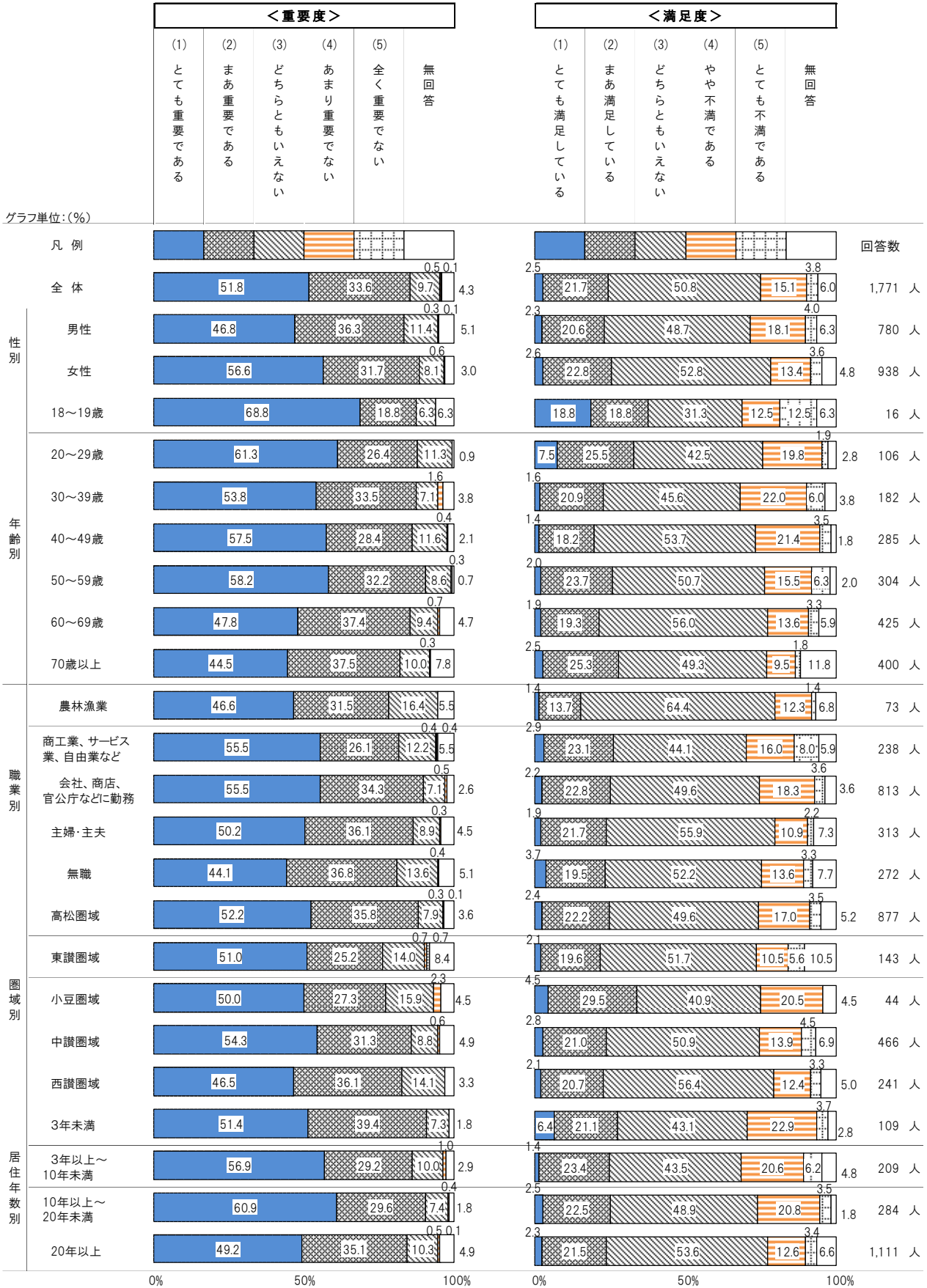
職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合26.8%が【満足している】24.8%の割合を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(16)【安全・安心な暮らしの形成】



安心して暮らせる水循環社会の確立の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.9%、『女性』87.8%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において89.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において87.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『高松圏域』において86.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『10年以上～20年未満』において90.5%と最も高くなっている。

安心して暮らせる水循環社会の確立の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』38.6%、『女性』40.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.8%、『女性』9.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

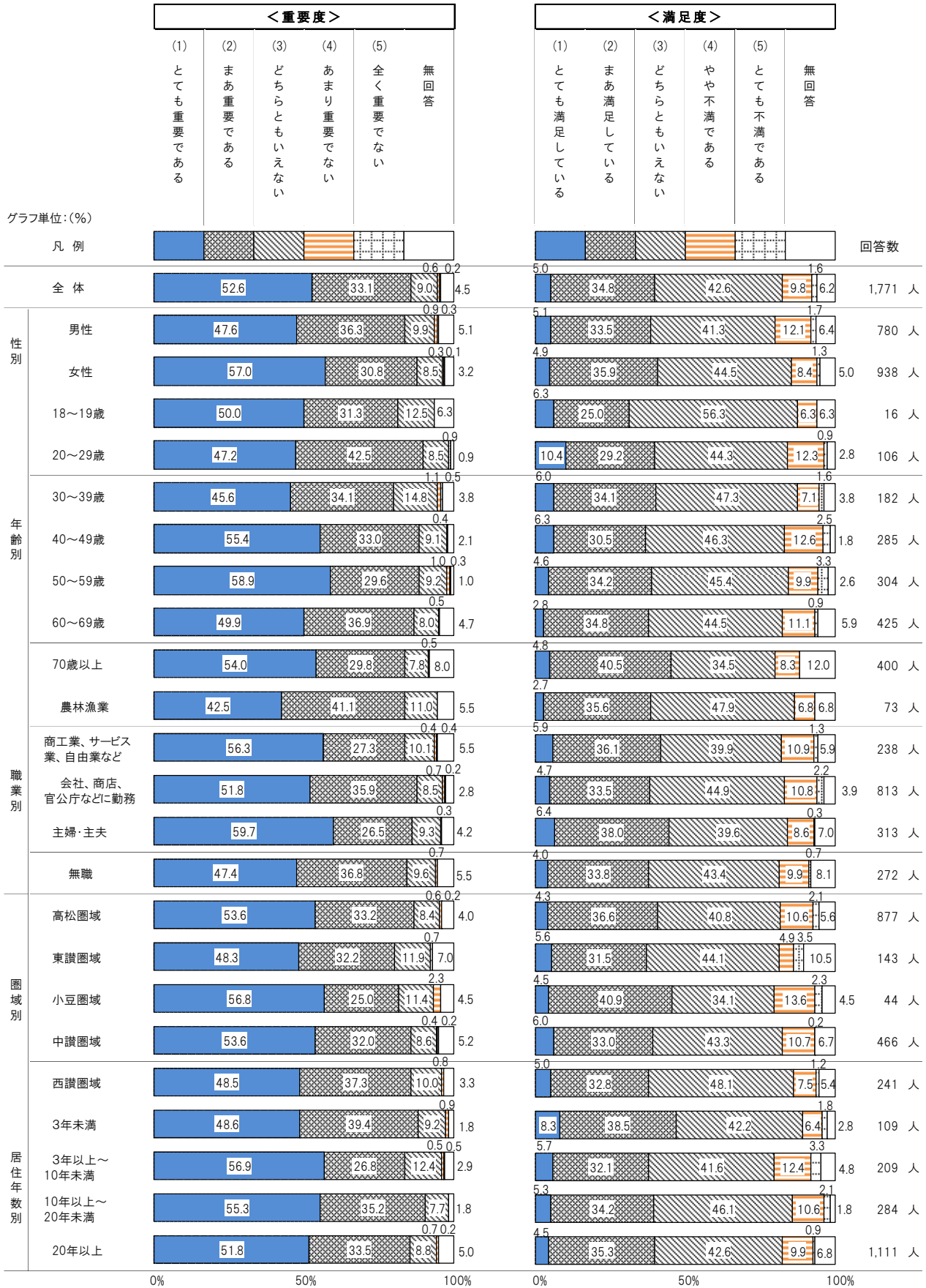
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(17)【安心して暮らせる水循環社会の確立】





活力ある地域づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』70.6%、『女性』73.6%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において74.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『高松圏域』において74.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において75.6%と最も高くなっている。

活力ある地域づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.9%、『女性』19.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.5%、『女性』10.5%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

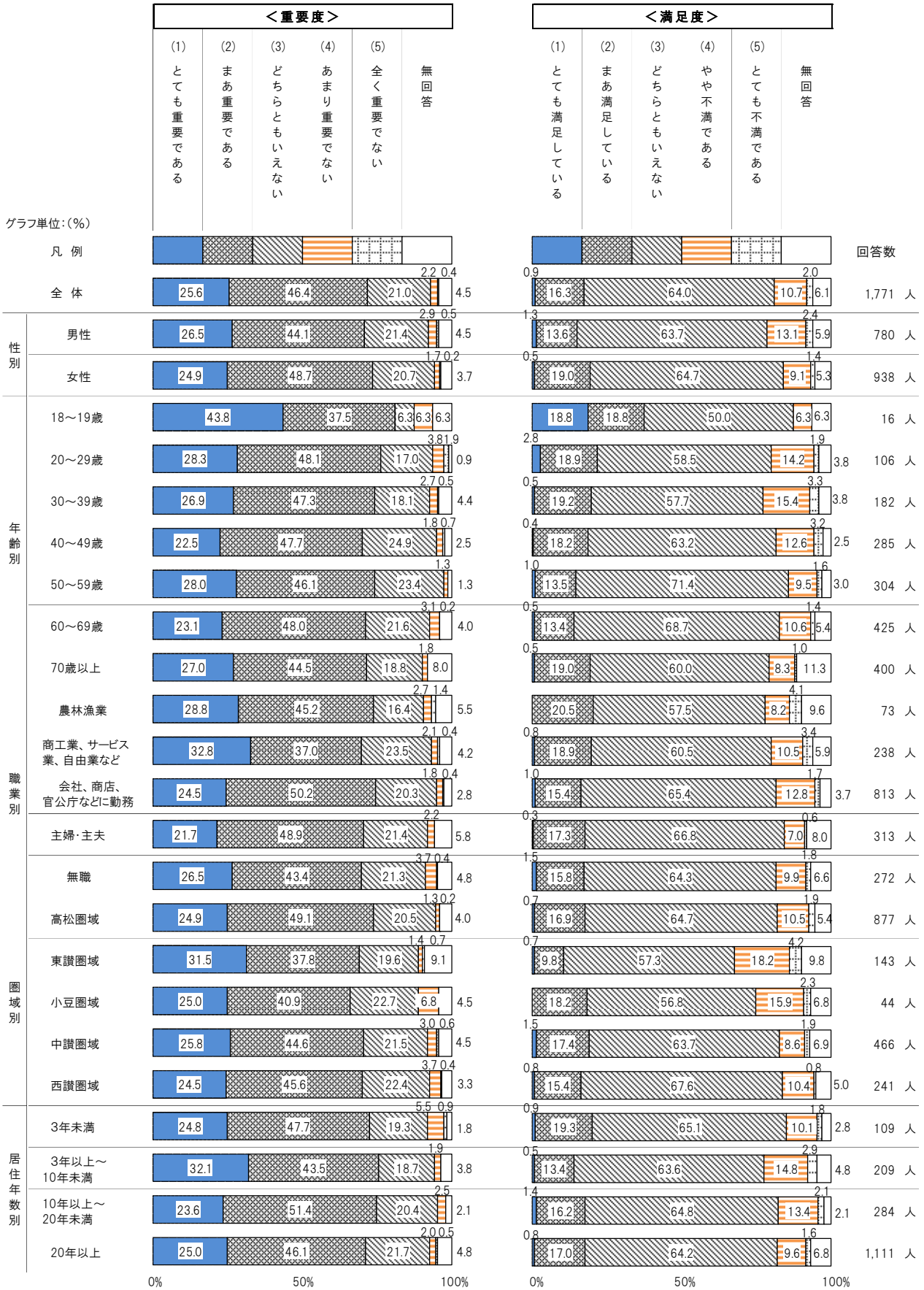
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】の割合と【不満である】の割合が同率の18.2%で、『東讃圏域』において、【不満である】の割合22.4%が【満足している】の割合10.5%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において【不満である】の割合17.7%が【満足している】の割合13.9%を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(18)【活力ある地域づくり】



環境の保全の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.6%、『女性』78.5%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において78.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において79.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において79.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において81.8%と最も高くなっている。

環境の保全の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.9%、『女性』21.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.8%、『女性』10.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

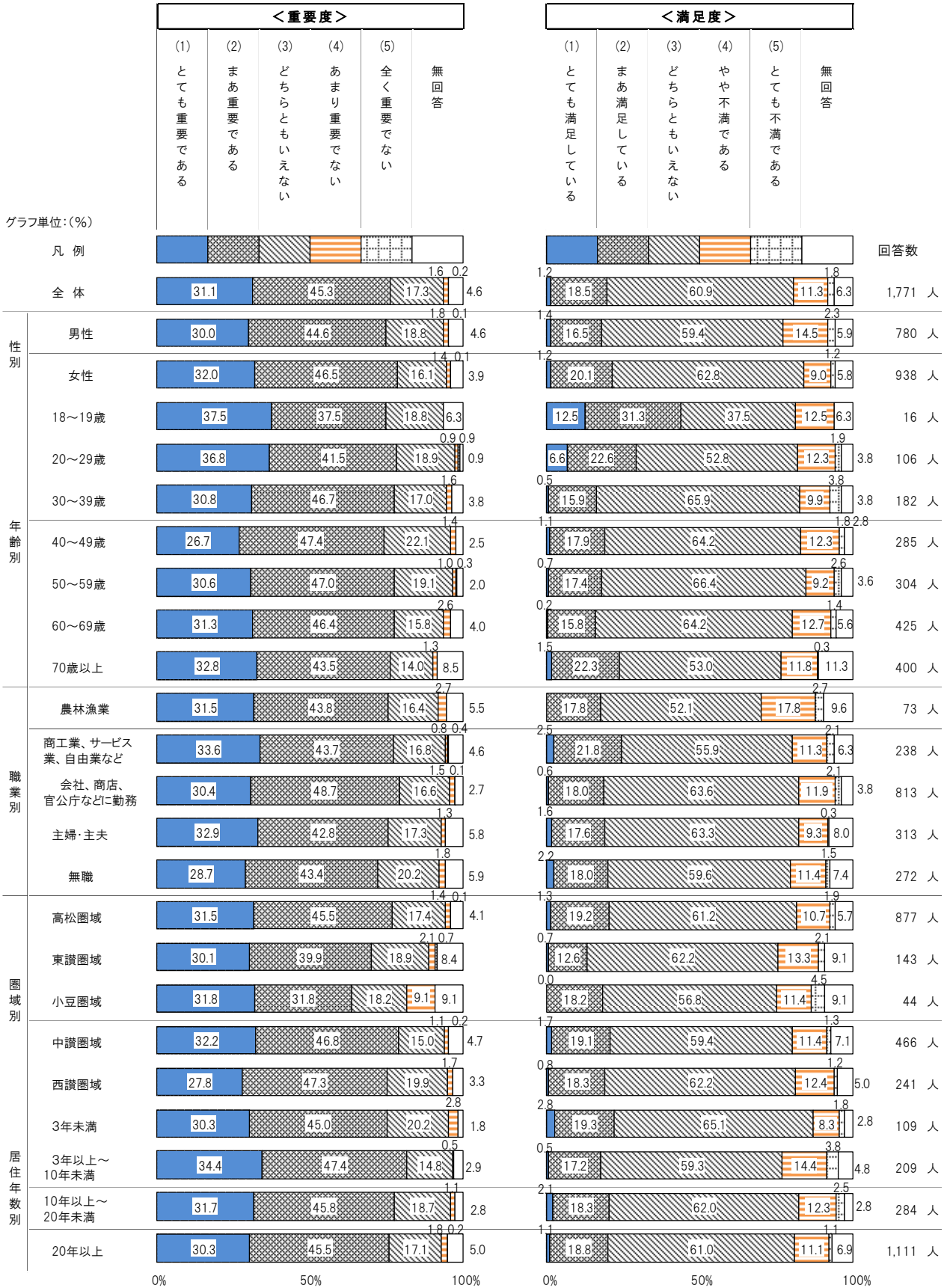
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において、【不満である】の割合20.5%が【満足している】の割合17.8%を上回り、そのほかの職業では、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において、【不満である】の割合15.4%が【満足している】の割合13.3%を上回り、そのほかの圏域では、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合18.2%が【満足している】の割合17.7%を上回り、そのほかの居住年数では、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(19)【環境の保全】



P257 数表参照

みどり豊かな暮らしの創造の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』61.9%、『女性』68.2%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20～29歳』において71.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において68.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において67.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において67.6%と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.5%、『女性』25.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.4%、『女性』7.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

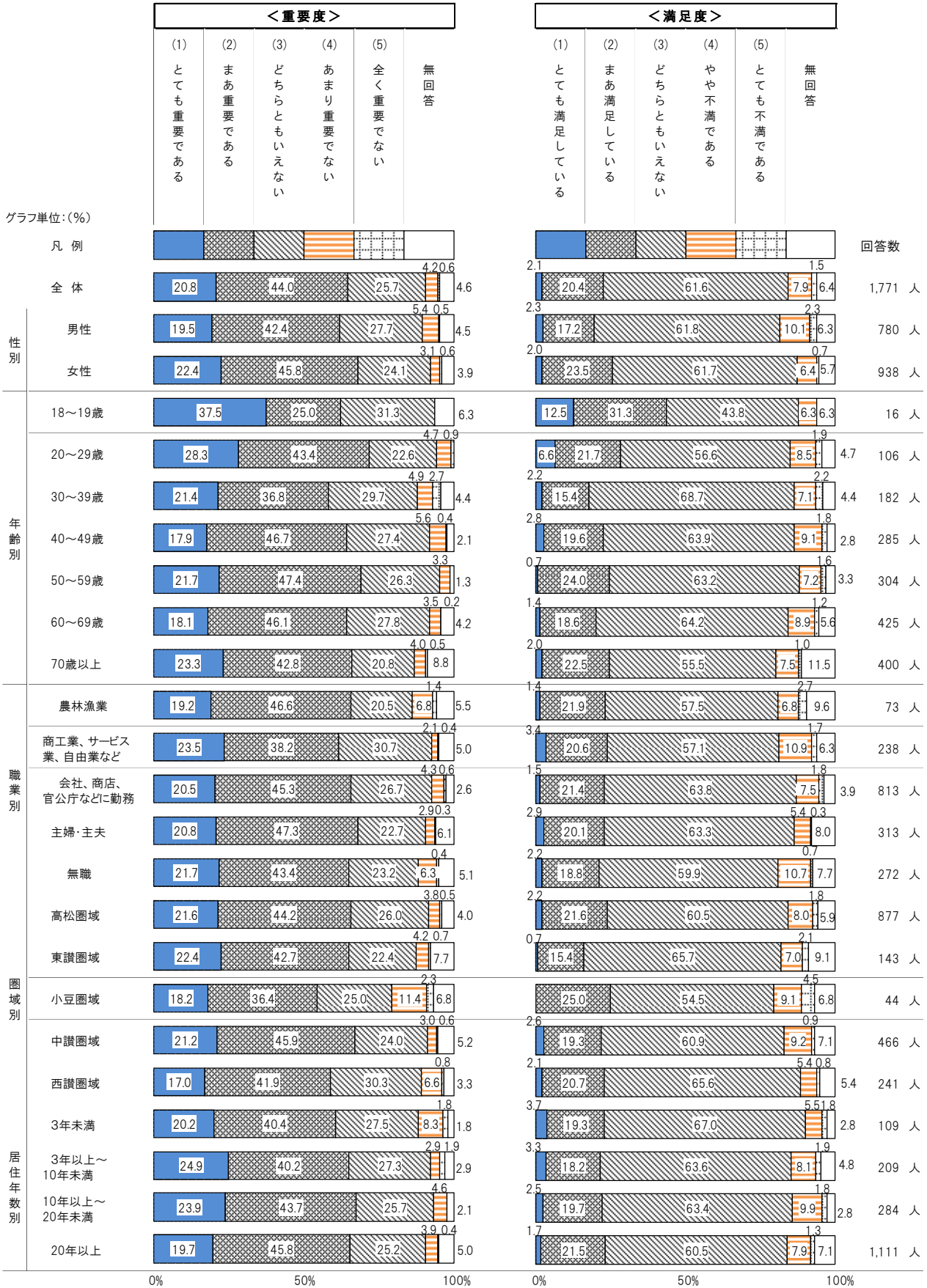
職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(20)【みどり豊かな暮らしの創造】



教育の充実の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.7%、『女性』85.3%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『20～29歳』において88.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において86.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『中讃圏域』において84.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において87.1%と最も高くなっている。

教育の充実の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』23.4%、『女性』29.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』18.3%、『女性』14.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』において、【不満である】の割合23.6%が【満足している】の割合18.1%を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

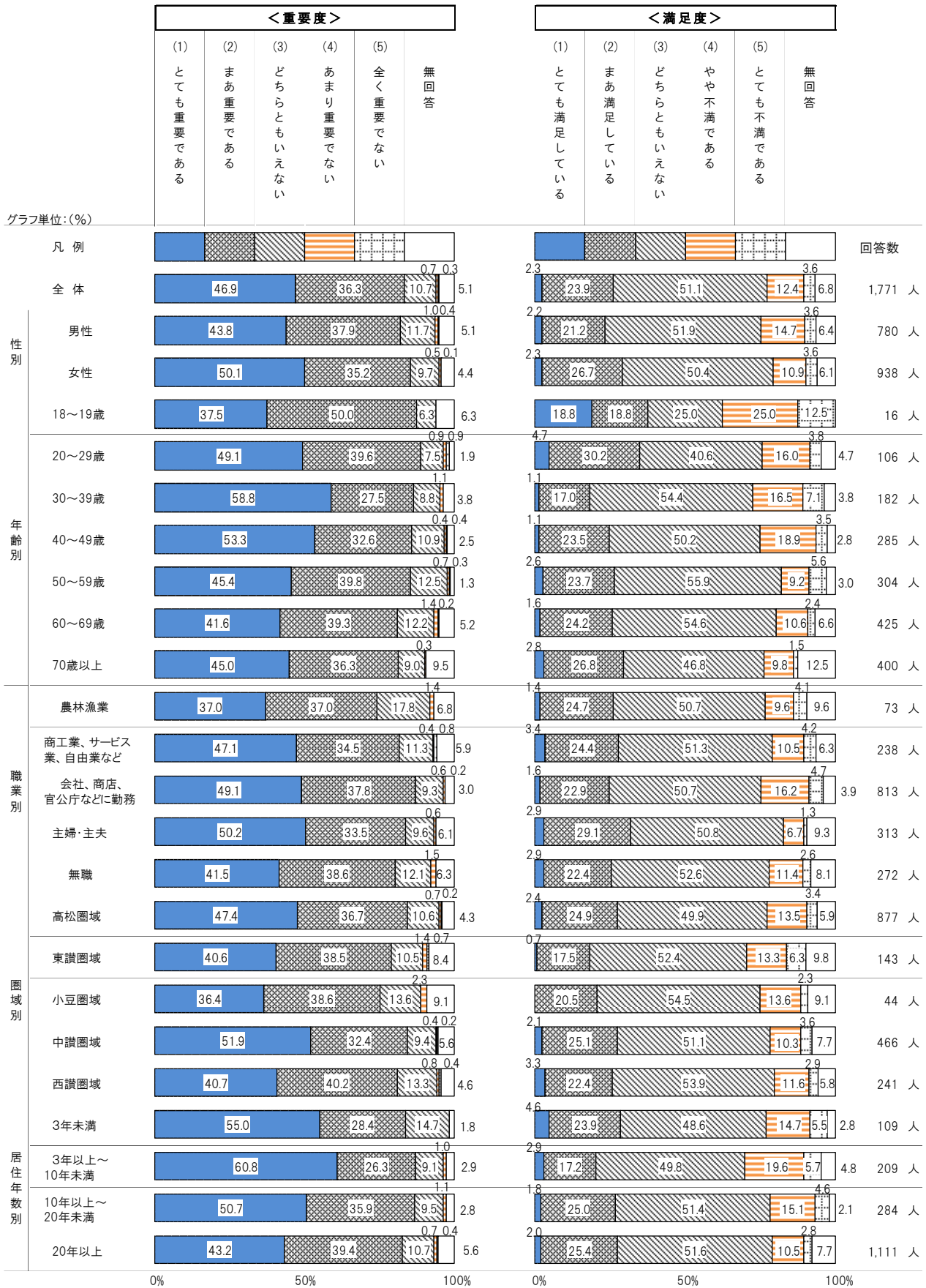
職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において、【不満である】の割合19.6%が【満足している】の割合18.2%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満～10年未満』において、【不満である】の割合25.3%が【満足している】の割合20.1%を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(21)【教育の充実】



文化芸術による地域の活性化の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』51.2%、『女性』63.6%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20～29歳』において68.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『主婦・主夫』において60.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『中讃圏域』において59.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20年以上』において58.8%と最も高くなっている。

文化芸術による地域の活性化の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.2%、『女性』29.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.8%、『女性』7.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

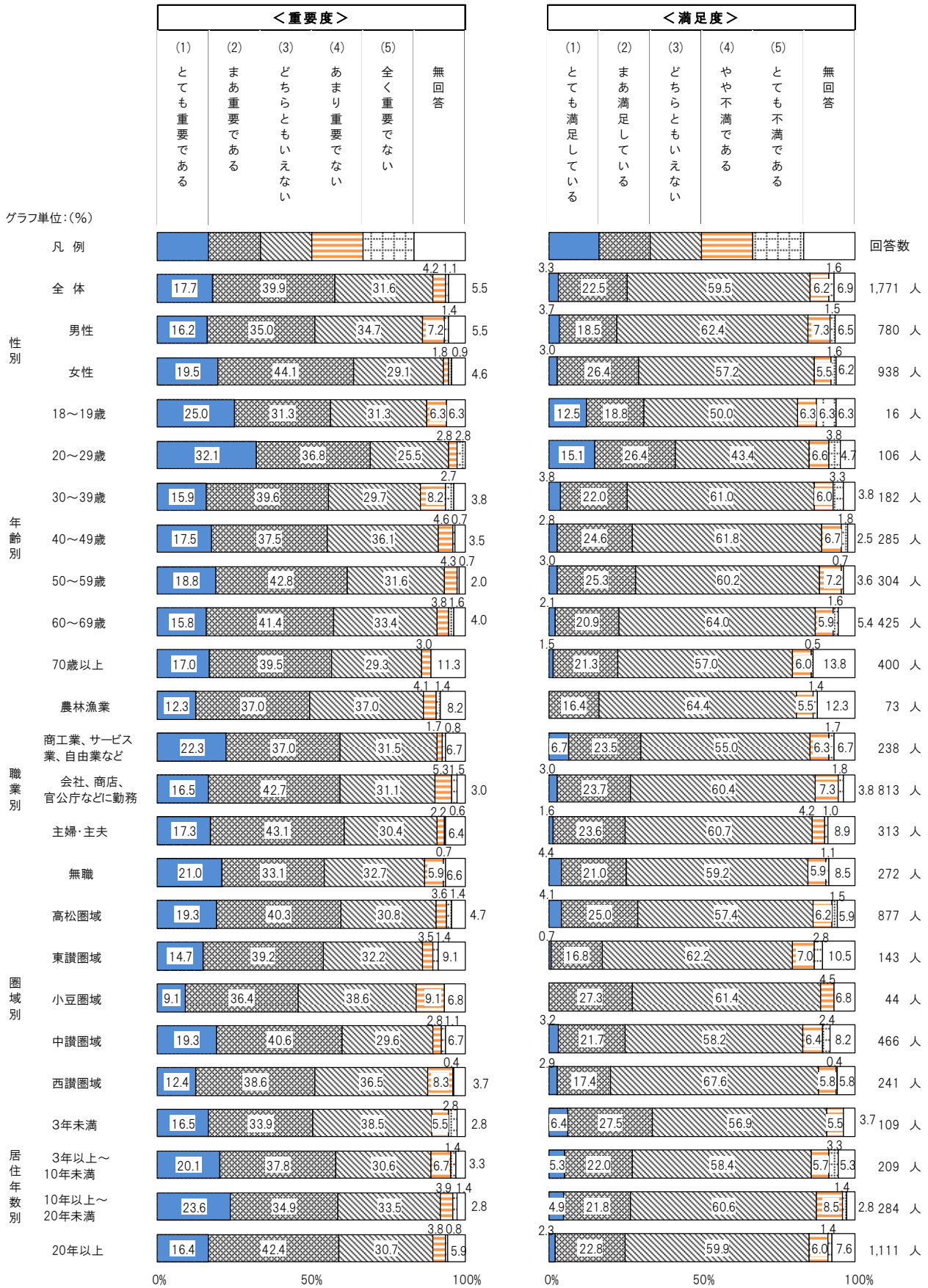
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(22)【文化芸術による地域の活性化】



スポーツの振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』53.6%、『女性』62.8%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『18～19歳』において75.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において61.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において61.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20年以上』において59.7%と最も高くなっている。

スポーツの振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.6%、『女性』21.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』11.6%、『女性』8.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

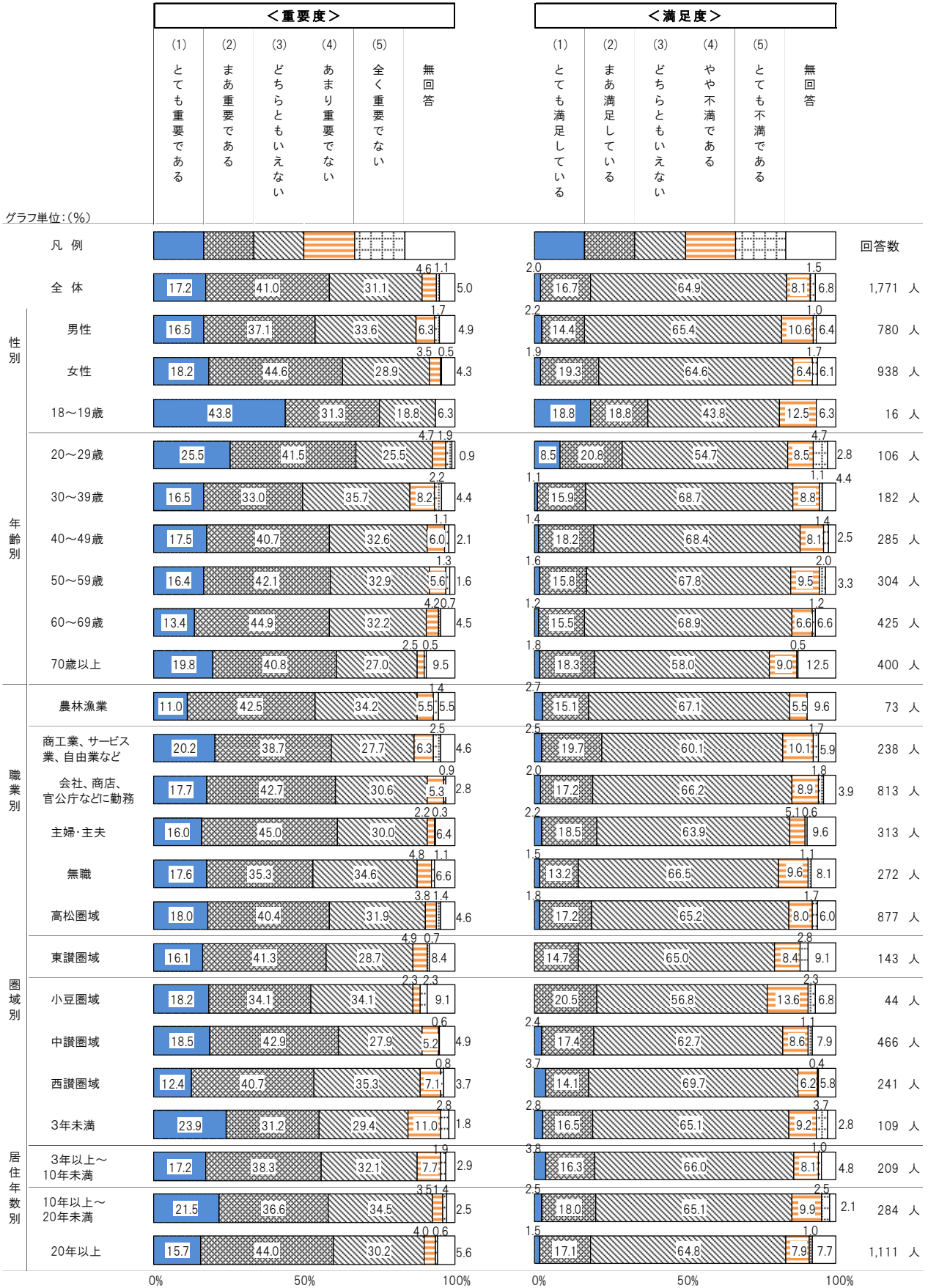
職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。



図表 6-(23)【スポーツの振興】



P261 数表参照

男女共同参画社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』59.4%、『女性』69.8%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において67.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において67.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年以上～10年未満』において72.8%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.1%、『女性』16.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.2%、『女性』14.4%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

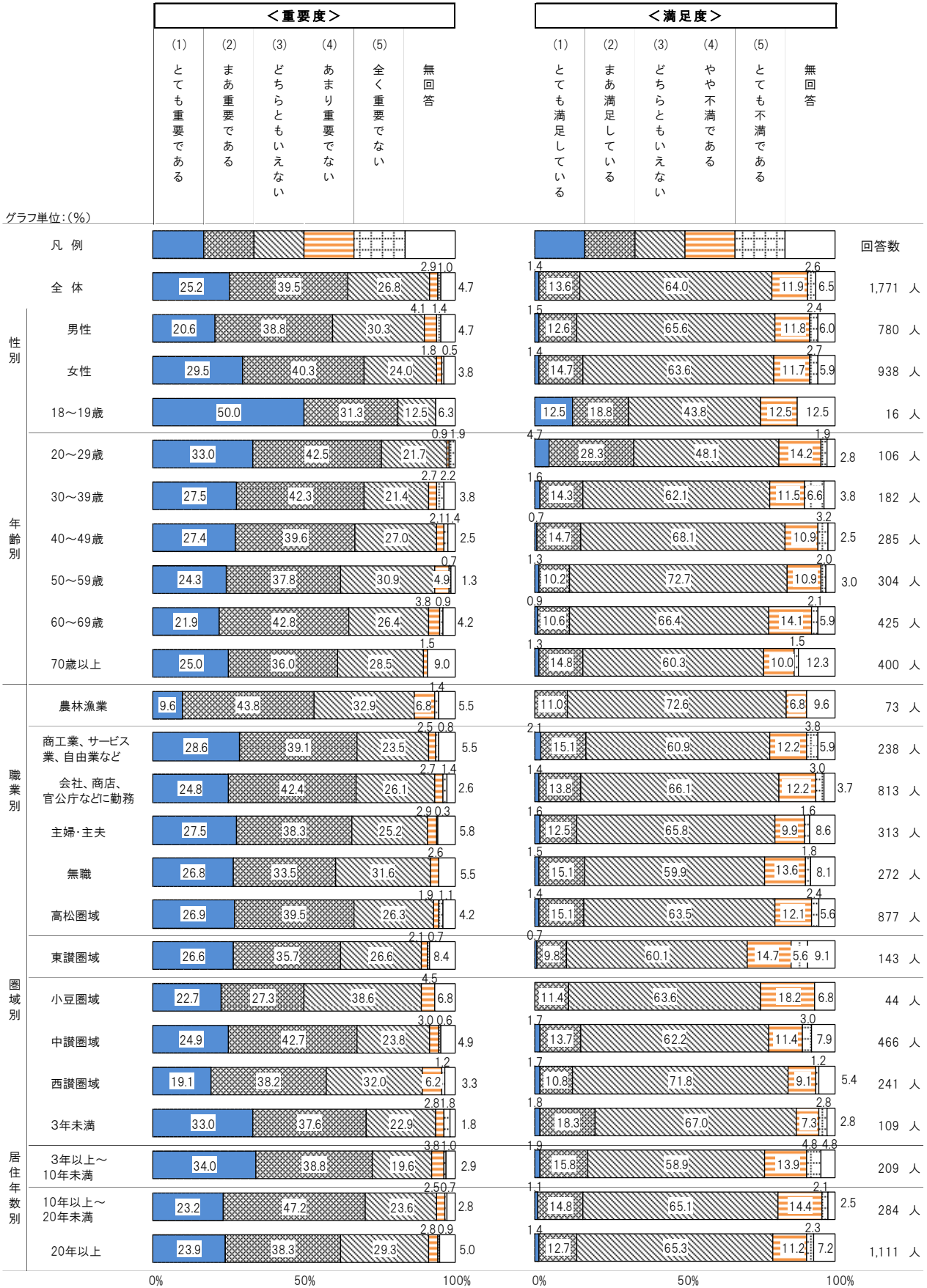
年齢別にみると、『30～39歳』、『50～59歳』、『60～69歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の15.2%で、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(24)【男女共同参画社会の実現】





青少年の育成と県民の社会参画の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』65.2%、『女性』70.6%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において72.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において69.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において69.4%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』13.8%、『女性』18.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.6%、『女性』8.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

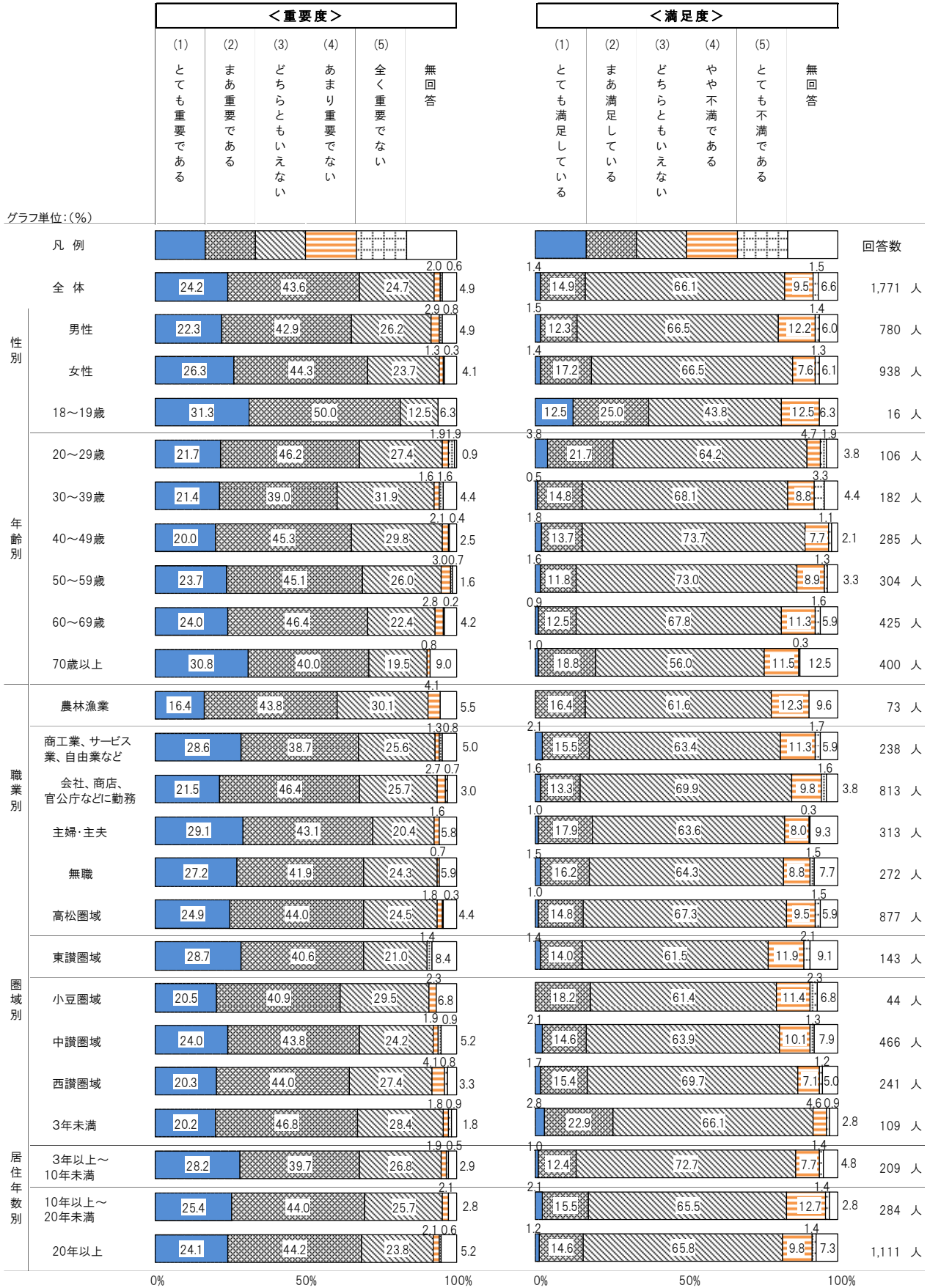
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(25)【青少年の育成と県民の社会参画の推進】



魅力ある大学づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』55.8%、『女性』64.5%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において81.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において64.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『高松圏域』において63.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において65.1%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』11.3%、『女性』16.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.4%、『女性』12.9%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、そのほかの居住年数では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(26)【魅力ある大学づくり】

